

2019年度入学生

共通教育 履修案内



2019年4月

鹿児島大学共通教育センター

2019年度 共通教育行事予定表

授業日 (第1ターム、第3ターム)
 授業日 (第2ターム、第4ターム)

月	曜日							行 事
	日	月	火	水	木	金	土	
2019年 4		1	2	3	4	5	6	1日(月) 午前：オリエンテーション資料配付
	7	8	9	10	11	12	13	1日(月)～2日(火) 履修申請の為の新入生オリエンテーション(各学部で実施)
	14	15	16	17	18	19	20	1日(月)～22日(月) 技能審査(外国語技能検定試験) 合格者等の認定申請
	21	22	23	24	25	26	27	3日(水) 新入生の履修申請(前期：1T、2T、1T～2T) ※一部の集中講義は別途案内
	28	29	30					5日(金) 入学式 5日(金) 午前：抽選もれ科目の発表 午後：履修申請(前期：1T、2T、1T～2T) 2回目 5日(金) 教室発表 8日(月) 授業開始(前期) 15日(月)～16日(火) 履修申請(前期：1T、2T、1T～2T) 3回目
5				1	2	3	4	7日(火) 4月17日以降の履修科目取消し申請期限(前期)
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
6							1	4日(火) 予備日
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
7								
	1	2	3	4	5	6		18日(木) 月曜日の振替授業
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
8								
	28	29	30	31				31日(水) 予備日
					1	2	3	9日(金) 試験予備日
	4	5	6	7	8	9	10	10日(土)～9月30日(月) 夏季休業(集中講義あり)
	11	12	13	14	15	16	17	
9								
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
	1	2	3	4	5	6	7	2日(月) 成績発表(前期：1T、2T、1T～2T) 2日(月)～6日(金) 成績開示(異議申し立て) 期間 ※9月卒業生と進級判定に関わる人は9月3日(火) まで
	8	9	10	11	12	13	14	2日(月)～6日(金) 科目等履修生の願書受付(後期) 4日(水)～6日(金) 履修申請(後期：3T、4T、3T～4T) ※一部の集中講義は別途案内 11日(水) 抽選もれ科目の発表、履修申請(後期：3T、4T、3T～4T) 2回目 30日(月) 卒業式(9月卒業生)
10								
	6	7	8	9	10	11	12	1日(火) 授業開始(後期) 1日(火)～21日(月) 技能審査(外国語技能検定試験) 合格者等の認定申請
	13	14	15	16	17	18	19	8日(火)～9日(水) 履修申請(後期：3T、4T、3T～4T) 3回目
	20	21	22	23	24	25	26	17日(木) 月曜日の振替授業
	27	28	29	30	31			30日(水) 10月10日以降の履修科目取消し申請期限(後期)
11						1	2	5日(火) 月曜日の振替授業
	3	4	5	6	7	8	9	15日(金) 鹿児島大学記念日
	10	11	12	13	14	15	16	15日(金)～18日(月) 終日休講(大学祭)
	17	18	19	20	21	22	23	20日(水) 予備日
	24	25	26	27	28	29	30	
12								
	1	2	3	4	5	6	7	27日(金)～1月5日(日) 冬季休業
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
2020年 1								
	29	30	31					
				1	2	3	4	16日(木) 金曜日の振替授業
	5	6	7	8	9	10	11	17日(金) 終日休講(窓口休業) 大学入試センター試験会場設営
	12	13	14	15	16	17	18	18日(土)～19日(日) 大学入試センター試験 29日(水) 予備日
2								
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
	2	3	4	5	6	7	8	3日(月)～7日(金) 科目等履修生の願書受付(前期) 12日(水) 試験予備日
3								
	9	10	11	12	13	14	15	21日(金) 成績発表(後期：3T、4T、3T～4T) 21日(金)～2月27日(木) 成績開示(異議申し立て) 期間 ※卒業・進級判定に関わる人は2月26日(水) まで
	16	17	18	19	20	21	22	25日(火)～26日(水) 個別試験(前期日程)
	23	24	25	26	27	28	29	
	1	2	3	4	5	6	7	12日(木) 個別試験(後期日程) 16日(月)～18日(水) 履修申請(次年度前期：1T、2T、1T～2T) ※一部の集中講義は別途案内 25日(水) 卒業式

- ※1 行事日程が変更された場合は、掲示板等でお知らせします。
- ※2 休講に伴い授業時間数が不足する場合は、予備日に補講を行います。(各ターム7回目の6時限、土日祝日に補講を行う場合もあります。)
- ※3 各タームの週1コマ授業(1単位科目)は、各タームの最終日を授業45分、期末試験45分とします。
- ※4 各タームの週2コマ授業(2単位科目)は、各タームの最終日を期末試験日とします。
- ※5 第1～2ターム、第3～4の週1コマ授業(2単位科目)は、第2ターム、第4タームの最終日を期末試験日とします。

目 次

	頁
I 鹿児島大学の教育課程と共通教育の概要 -----	1
II 共通教育の教育目標と編成・実施方法 -----	2
〔1〕 共通教育の教育目標	2
〔2〕 共通教育の編成・実施方法	3
III 授業を受ける前に知っておくこと -----	4
〔1〕 学年・学期・4ターム制・授業時間	4
1 学年	4
2 学期	4
3 4ターム制	4
4 授業時間	4
〔2〕 学籍番号と学部別クラス編成	4
〔3〕 授業方法に応じた学修時間	6
〔4〕 授業中のマナーについて	6
〔5〕 学生への連絡事項の掲示	7
IV 共通教育科目の履修基準 -----	8
〔1〕 卒業要件単位数	8
〔2〕 各期の履修申請単位数の上限設定	9
〔3〕 グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度	10
V 共通教育課程の教育科目と単位の取り方 -----	12
○初年次教育科目 【必修科目】	
〔1〕 初年次セミナーⅠ -----	13
1 内容	13
2 単位の取り方	13
〔2〕 初年次セミナーⅡ -----	13
1 内容	13
2 単位の取り方	13
〔3〕 大学と地域 -----	14
1 内容	14
2 単位の取り方	14
〔4〕 体育・健康 -----	15
<1>理論	15
1 内容	15
2 単位の取り方	15
<2>実習	15
1 内容	15
2 単位の取り方	15
〔5〕 情報活用 -----	16
1 内容	16
2 単位の取り方	16

○グローバル教育科目 【必修科目】	17
〔1〕英語 -----	17
1 内容	17
2 単位の取り方	17
〔2〕異文化理解 -----	20
1 内容	20
2 単位の取り方	20
 ○教養教育科目（教養基礎科目）【選択必修科目】	21
〔1〕人文・社会科学分野	21
<1>初修外国語 -----	21
1 内容	21
2 単位の取り方	21
<2>選択科目 -----	23
1 内容	23
2 単位の取り方	23
・ 開設授業科目一覧	23
〔2〕自然科学分野	26
<1>実験科目 -----	26
1 内容	26
2 単位の取り方	26
・ 開設授業科目一覧	26
<2>選択科目 -----	28
1 内容	28
2 単位の取り方	28
・ 開設授業科目一覧	28
<3>基礎教育入門科目 -----	30
1 内容	30
2 単位の取り方	30
・ 開設授業科目一覧	30
 ○教養教育科目（教養活用科目）【選択必修科目】	31
〔1〕統合Ⅰ（課題発見） -----	31
1 内容	31
2 単位の取り方	31
・ 開設授業科目一覧	31
〔2〕統合Ⅱ（課題解決） -----	32
1 内容	32
2 単位の取り方	32
・ 開設授業科目一覧	32
 Ⅵ 外国人留学生のための科目の概要と単位の取り方 -----	35
〔1〕日本語・日本事情	35
1 学習目標	35
2 内容	35
3 単位の取り方	35
〔2〕外国人留学生の単位の取り方	36
1 教養基礎科目、教養活用科目の読み替え	36
2 外国語について	36

Ⅶ 履修手続きをする前に知っておくこと -----	38
〔1〕 入学前に修得した単位の認定	38
〔2〕 技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定	38
〔3〕 教員免許状の取得	38
〔4〕 学芸員資格の取得	38
〔5〕 高度共通教育科目	39
Ⅷ 履修手続 -----	40
〔1〕 シラバス	40
〔2〕 履修計画	40
〔3〕 履修申請	40
〔4〕 履修手続きの流れ	41
Ⅸ 共通教育に関する授業アンケート（授業評価） -----	45
X 試験および単位認定 -----	46
〔1〕 試験	46
〔2〕 単位認定とGPA制度	46
〔3〕 追試験	48
〔4〕 再試験	48
〔5〕 受験上の注意	48
〔6〕 不正行為の措置	49
〔7〕 成績評価等に対する開示請求と異議申立て	49
〔8〕 単位互換制度	50
XI 学生生活 -----	51
〔1〕 学生生活上の相談	51
1 修学および学生生活一般	51
2 担任教員等	52
〔2〕 諸願・届及び注意事項	55
1 学生の身分異動等	55
2 証明書などの発行	55
3 車両等による通学	56
4 健康の維持	56
5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）	57
6 その他	57
〔3〕 台風等非常時における授業・学期末試験等の取扱い	59
XII 転学部 -----	60
【規則一覧】	
○ 鹿児島大学共通教育科目履修規則	61
○ 鹿児島大学共通教育科目試験規則	66
○ 鹿児島大学共通教育センター科目等履修生に関する細則	68
○ 鹿児島大学共通教育科目既修得単位認定規則	69
○ 鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則	72

【その他の表・図】	
・ 鹿児島大学配置図（郡元キャンパス）	74
・ 鹿児島大学共通教育棟配置図（共通教育棟講義室等略図）	75
【共通教育科目時間割表】	77
・ 履修申請表（ワークシート）	83
・ 欠席届	84
【2019年度前期分共通教育シラバス】	85

※共同獣医学部の共通教育に関する詳細は、共同獣医学部共通教育履修案内に記載してあります。

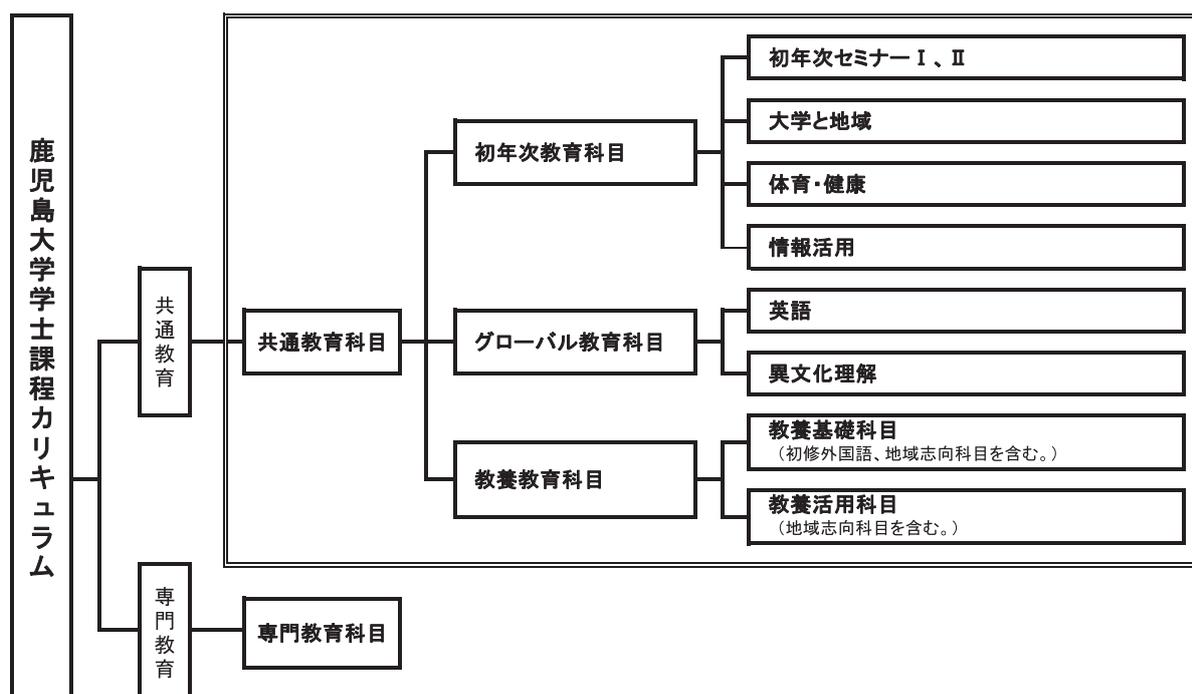
I 鹿児島大学の教育課程と共通教育の概要

鹿児島大学は、大学憲章において、「学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。」と明示しています。特に、教育に関しては、「学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。」ことに取り組んでいます。そのために、鹿児島大学では4（6）年一貫教育体制のもとで、共通教育と専門教育との相互の有機的な連携を図りつつ、地域社会との協力や国際化にも対応する視点をもって、総合大学としての幅広い教育を進めます。

鹿児島大学の教育課程は、共通教育における共通教育科目と専門教育における専門教育科目で構成されています。共通教育科目は共通教育センターで企画・運営されており、全学部の教員による支援体制のもとで、初年次教育科目、グローバル教育科目、教養教育科目で構成しています。初年次教育科目は、大学での学び方の特徴や大学と地域との関わりを理解し、自主自律的に学び続けるための基盤となる思考法や学修技術、自己管理能力を身につけるための科目です。グローバル教育科目は、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となる語学力や異文化を理解する能力を育てるための科目です。そして、教養教育科目は、地域や国際社会における課題を発見し、追究、解決することをとおして社会に貢献できる能力を養成するための科目です。

なお、共通教育科目として2年次以上を対象とした「高度共通教育科目」が開講されます。（p. 39を参照）「高度共通教育科目」は共通教育センターで開講しますが、卒業要件上は専門教育の単位となり、認められる単位数は学部によって異なります。

専門教育科目は、各学部の専門的な知識や技能を修得するとともに、豊かな人間性、論理的な思考力や課題解決能力などを養成するための科目です。



Ⅱ 共通教育の教育目標と編成・実施方法

〔1〕共通教育の教育目標

共通教育では、鹿児島大学憲章と鹿児島大学教育目標に基づき、次のような理念と教育目標を設定します。

理 念	教 育 目 標
1. 自己理解	①自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる。 ②必要な知識・技能の獲得に向けて行動できる。
2. 情報収集・ 精査・統合	①必要な情報を収集できる。 ②集めた情報を信頼性や必要性に基づき精査できる。 ③個別の知識を統合して課題の解決策を提案できる。
3. 論理的思考	①幅広い視野から課題の解決策を考えることができる。 ②多様な情報の信頼性を論理的に説明できる。 ③自分の考えを論理的に話し、書くことができる。
4. 科学的思考	①科学的根拠に基づく仮説を立てることができる。 ②事実やデータに基づき、仮説を検証できる。
5. 倫理	①社会生活の基盤となる倫理について、考えを述べられる。 ②倫理を弁えた表現、行動ができる。
6. 実践	①状況に応じた方法で必要な行動ができる。 ②課題の解決に向けて主体的に行動できる。
7. 他者との協働	①自身の責任や立場を理解し、自覚的に行動できる。 ②他者と協力して課題の解決を図ることができる。

〔2〕 共通教育の編成・実施方法

共通教育では「初年次教育科目」、「グローバル教育科目」及び「教養教育科目」を開設し、教育目標の達成を目指します。それぞれの科目や分野は以下のとおりです。

○「初年次教育科目」

- (A) 大学での学修に必要なとなる自主自律的な学び方の修得を主な目的として、「初年次セミナーⅠ」と「初年次セミナーⅡ」を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、論理的思考、科学的思考、他者との協働の達成を目指します。
- (B) 地域における知の拠点としての鹿児島大学において学修する意義を明確にし、地域貢献に関する意識の向上を主な目的として、「大学と地域」を設けます。教育目標のうち、特に、情報収集・精査・統合、論理的思考の達成を目指します。
- (C) 心身の育成や健康の管理法の修得を主な目的として、「体育・健康（理論）」と「体育・健康（実習）」を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、実践の達成を目指します。
- (D) 情報に関する基本的・実践的な学修技術の修得を主な目的として、「情報活用」を設けます。教育目標のうち、特に、科学的思考、実践の達成を目指します。

○「グローバル教育科目」

- (E) 文化の異なる他者とのコミュニケーション能力を高めるとともに、異文化の理解を主な目的として、「英語」と「異文化理解」を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、論理的思考の達成を目指します。

○「教養教育科目」

- (F) 幅広い視野や思考力の育成などを主な目的として、「教養基礎科目」に2つの分野（「人文・社会科学」と「自然科学」）を設けます。教育目標のうち、特に、論理的思考、科学的思考、倫理の達成を目指します。
- (G) 地域社会や環境問題など現代社会が抱える諸問題について、課題を発見する能力や解決する能力の育成を主な目的として、「教養活用科目」に2つの分野（「統合Ⅰ」と「統合Ⅱ」）を設けます。教育目標のうち、特に、自己理解、論理的思考、科学的思考、他者との協働の達成を目指します。

地域志向科目とは

地域の諸課題を発見・探究・解決し、地域社会の発展に貢献できる行動力を養い、地域課題の解決に向けて果敢に立ち向かう行動力と地域貢献マインドを備えた人材、地域課題を把握・分析し、その解決方法を導き、将来ビジョンを描ける人材グローバルに通用する専門知と地域課題とをリンクさせて、科学的な知見に基づく多角的視点を持った人材の育成を目的とした科目です。

Ⅲ 授業を受ける前に知っておくこと

〔1〕 学年・学期・4ターム制・授業時間

1 学年

4月1日に始まり翌年3月31日に終わる1年間を学年と定めています。(学則第23条)
入学後の進行年数に応じて、1年次、2年次、・・・と呼びます。

2 学期

学年を、前期、後期の2学期に分けます。(学則第24条)

前期 4月1日から 9月30日まで

後期 10月1日から 翌年3月31日まで

また、入学年次から各学期を積算して、1年次前期を1期、後期を2期、2年次前期を3期、・・・とも呼びます。

3 4ターム制

前期と後期の各授業期間を、さらに前半と後半に分けます。(第1～4ターム)

多くの授業は、第1～2ターム、第3～4タームの期間で実施しますが、1つのタームのみの期間で完結する授業もあります。

<前期> 4月中旬～6月上旬を「第1ターム」、6月中旬～8月上旬を「第2ターム」

<後期> 10月～11月下旬を「第3ターム」、12月～2月上旬を「第4ターム」

4 授業時間

本学における授業は、90分を単位として、下記の時限、時間区分によって行われます。

(なお、桜ヶ丘キャンパスは、各時限開始時間が郡元キャンパスの10分遅れです。)

時限	1	2	3	4	5
時間	8:50～ 10:20	10:30～ 12:00	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

〔2〕 学籍番号と学部別クラス編成

授業は、原則として授業時間割で示される範囲内で授業クラスを編成して行います。

学部別クラス編成は、次頁に記載されているとおりですので、学部、学科等のコード番号を確認してください。また、学部・学科等のコード番号は、学生証に記載されている学籍番号でも確認できます。

みなさんの学籍番号は、以下のように10桁の数値から成り立っています。

○○ ○○ ○○ ○○○ ○

学部 入学年度 学科等 番号 チェックデジット

なお、入学年度は、西暦の下2桁の数値です。また、チェックデジットとは電算処理上必要なものです。

クラス編成

学部[コード]	学科等名称[学籍番号の学科等コード2桁] (学籍番号の番号3桁)	組
法文学部 [11]	法経社会学科(法学) [62]	1
	法経社会学科(地域社会・経済) [63]	2
	人文学科(多元地域文化) [64]	3
	人文学科(心理学) [65]	
教育学部 [07]	学校教育教員養成課程 初等教育コース[67]	1
	学校教育教員養成課程 中等教育コース国語[68]	2
	学校教育教員養成課程 中等教育コース社会[69]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース英語[74]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース数学[70]	3
	学校教育教員養成課程 中等教育コース理科[71]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース技術[72]	
	学校教育教員養成課程 中等教育コース家政[73]	4
	学校教育教員養成課程 実技系初等中等教育コース音楽[75]	
	学校教育教員養成課程 実技系初等中等教育コース美術[76]	
	学校教育教員養成課程 実技系初等中等教育コース保健体育[77]	
	特別支援教育教員養成課程[63]	
理学部 [22]	数理情報科学科[51]	1
	物理科学科[52]	
	生命化学科[53]	2
	地球環境科学科[54]	
医学部 [42]	医学科[10]	1
	保健学科(看護学専攻)[21]	2
	保健学科(理学療法学専攻)[22]	
	保健学科(作業療法学専攻)[23]	
歯学部 [43]	歯学科[10]	1
工学部 [25]	機械工学科[21]	1
	電気電子工学科[22]	2
	情報生体システム工学科[29]	
	建築学科[23]	3
	海洋土木工学科[25]	
	環境化学プロセス工学科[28]	4
	化学生命工学科[30]	
農学部 [34]	農業生産科学科[31]	1
	食料生命科学科[32]	2
	農林環境科学科[33]	3
	国際食料資源学特別コース[41]	水産学部2組と混合
水産学部 [38]	水産学科[50] (001~075)	1
	水産学科[50] (076~)	2
	国際食料資源学特別コース[70]	
共同獣医学部 [36]	獣医学科[10]	1

〔3〕 授業方法に応じた学修時間

授業科目の学修を数量的に表すために「単位」という概念を用いています。単位の計算の方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、共通教育においては次のように定められています。この場合、90分の授業を2時間として計算します。

授業の方法	単位	授業時間数	予習・復習	学修時間
講義	2	30時間 (週2時間×15週)	60時間 (週4時間×15週)	90時間
講義 (初修外国語：必修)	2	60時間 (週4時間×15週)	30時間 (週2時間×15週)	90時間
講義 (英語、初修外国語： 選択必修)	1	30時間 (週2時間×15週)	15時間 (週1時間×15週)	45時間
講義 (体育・健康理論等)	1	15時間 (週2時間×7.5週)	30時間 (週4時間×7.5週)	45時間
演習	1	30時間 (週2時間×15週)	15時間 (週1時間×15週)	45時間
演習 (高度共通教育科目)	2	30時間 (週2時間×15週)	60時間 (週4時間×15週)	90時間
実習	1	30時間 (週2時間×15週)	15時間 (週1時間×15週)	45時間
実験	1	30時間 (週4時間×7.5週)	15時間 (週2時間×7.5週)	45時間

〔4〕 授業中のマナーについて

共通教育センターでは、学生の皆さんが勉学に励むことができるよう、快適な学習環境の維持に努めています。授業中の以下の行為については、真面目に授業を受けている学生や、授業を担当する教員にとって大変迷惑となります。快適な授業環境を保つために授業中のマナーを守るようお願いします。

(1) 授業の撮影・録画・録音について

特別な理由がある場合を除き、授業の撮影・録画・録音は原則禁止です。必要な場合は必ず授業担当教員の許可を得てください。

(特別な理由の一例)

障害等を理由に合理的配慮を希望される方は、障害学生支援センター（修学支援室）にて、一括して修学支援を申し出ることが可能です。

(2) スマートフォン（携帯電話）などの使用

授業担当教員の指示により、もしくは授業担当教員の許可を得て授業のために使用する場合を除き、これらの機器を使用することは原則禁止です。

〔5〕学生への連絡事項の掲示

共通教育の主な連絡事項は、原則として共通教育棟1号館南側の掲示板に掲示します。

登校の都度、必ず掲示板をみる習慣を身につけ、掲示の見忘れによる不都合が生じないようにしてください。

鹿児島大学のホームページにも「開設授業科目、行事予定、授業が行われる教室」等の情報を掲載していますが、すべての連絡事項が掲載されている訳ではありません。指定された掲示板で確認することが重要です。(p. 58「XI 学生生活」の6の(3)、p. 75の「鹿児島大学共通教育棟配置図」を参照)

また、学務WEBシステムにメールアドレスを登録することで、休講・補講などをスマートフォン(携帯電話)や自宅のパソコンで確認することができます。

Ⅳ 共通教育科目の履修基準

〔1〕卒業要件単位数

鹿児島大学を卒業するには、専門教育科目だけでなく、「鹿児島大学共通教育科目履修規則」第7条の規定（p. 61参照）により、各学部・学科等の共通教育科目の卒業要件単位数を修得しなければなりません（p. 11参照。ただし、外国人留学生はp. 37を参照。）

卒業要件単位数は、各科目あるいは全体として、最低何単位以上を修得しなければならないという履修基準を定めたもので、規則のなかではもっとも重要な事項です。所属する学部・学科等の履修基準を十分に確かめてください。

注意

- (1) 学部・学科によって、同じ授業科目であっても卒業要件単位数に算入される場合と算入されない場合がありますので注意してください。
- (2) 履修申請に際しては、履修申請単位数の上限設定があるので、次の「〔2〕各期の履修申請単位数の上限設定」をよく読んでください。

よくある質問

卒業要件単位数に算入されない場合とは？

- ①グローバル教育科目の英語で指定（p. 18）された以外の英語科目を履修した場合です。
- ②教養基礎科目（自然科学分野）の実験科目で指定（p. 26～27）された以外の実験科目を履修した場合です。
- ③基礎教育入門科目で指定（p. 30）された以外の基礎教育入門科目を履修した場合です。

〔2〕各期の履修申請単位数の上限設定

授業科目の1単位は、授業時間外の予習、復習に要する時間（Ⅲ－〔3〕「授業方法に応じた学修時間」 p. 6 参照）を考慮に入れて定められていることにより、下表のように、学部毎に、各期の履修申請単位数の上限を設定しています。

学 部	履修申請単位数の上限	学 部	履修申請単位数の上限
法 文 学 部	25 単位	教 育 学 部	50 単位（年間）
理 学 部	25 単位	医学部医学科	30 単位
		医学部保健学科	25 単位
歯 学 部	30 単位	工 学 部	20 単位 （緩和該当者は24 単位）
農 学 部	25 単位	水 産 学 部	25 単位
共同獣医学部	50 単位（年間）		

表中の履修申請単位数とは、各期における共通教育科目および専門教育科目を含めた総履修申請単位数を意味し、その上限数を表しています。また、工学部の緩和該当者とは、「前学期（「休学期間」を除く）に18 単位以上修得し、かつ、この期の学期GPAが3.00 以上の者」です。

注意

- (1) 履修申請単位数の上限枠に含まれない（対象外）科目などは学部により異なりますので、詳細は所属学部の履修要項や学部オリエンテーション等で確認してください。
- (2) 共通教育において夏季休業中等に行われる集中講義は、すべての学部生に対して履修申請単位数の上限枠に含まれません。なお、これらの履修申請は、他の科目とは別の時期に行われます。
- (3) 外国人留学生で、教育学部、理学部、工学部、農学部、水産学部の学生に対しては、日本語科目が履修申請単位数の上限枠に含まれませんので、注意してください。

みなさんは所属学部の上限数を考慮に入れて履修計画を立てる必要があります。履修申請単位数の上限数に対して、共通教育科目および専門教育科目の履修申請単位数の総合計が上限数を超えないように申請しなければなりません。共通教育科目と専門教育科目のすべての履修申請が終了した段階で、学務WEBシステムで閲覧・確認し、もしも履修申請単位数合計が上限数を超過していた場合には、所定の手続きで履修申請科目の一部を取り消してください。万が一、この手続きをしなかった場合には、当期の成績処理が行えなくなるので、必ず取り消しを行ってください。履修手続の詳細については、「Ⅷ 履修手続」 p. 40 を参照してください。

履修単位数の上限を設定している理由は、授業時間とともに予習・復習時間も必要としているからです。受講生がそのように有効に時間を使えば、必然的に受講科目数に限界が生じます。したがって、履修申請が確定した科目の単位を確実に修得（試験等に合格）しなければ4（6）年間で卒業要件を満たせず、卒業延期になる場合もあります。このことから、たとえ履修申請した科目が選択科目であっても、受講が確定した科目については、必修科目と同じ意味を持ちますので、必ず合格するように勉学に努めてください。なお、専門教育科目については、成績優秀者に対する履修単位数の上限を緩和する制度が設けられている学部があります。詳しくは、所属学部の履修要項等を参照してください。

〔3〕 グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度

共通教育科目の成績の評価は、GPA制度により行います。従来、大学での学修は単位が修得できたかどうか重要視されてきましたが、この制度は、履修した科目の理解度の平均値を示すことにより、みなさんが自分の学習成果について自己点検できる利点があります。また、共通教育センターでは、主としてGPAをもとに成績優秀者の表彰と成績不振者に対する助言・指導を行い、勉学意欲の向上や生活環境の改善に目配りをします。

さらに、授業の実施結果を共通教育科目の厳格な成績評価や授業運営の点検にも利用し、授業改善に役立てるとともに、留年対策などにも役立てていきます。

GPA制度に関する詳細は、「X 試験及び単位認定」p.46を参照してください。

【GPAの具体例】

学年：1年前期

〇〇学部 〇〇学科

000000011 共通 太郎

学業成績表の例示

授業科目名	評点	評価	GP	単位
キャリアデザイン	95	A	4	2
体育・健康科学実習	94	A	4	1
英語 I A	88	B	3	1
日本国憲法	85	B	3	2
初年次セミナー I	83	B	3	2
大学と地域	82	B	3	2
基礎数学入門	80	B	3	2
生物学入門	78	C	2	2
情報活用	75	C	2	2
初級独語 I	74	C	2	2
基礎物理学入門	72	C	2	2
体育・健康科学理論	65	D	1	1
異文化理解入門	60	D	1	2
基礎統計学入門	50	F	0	2

評価のA～Fの総単位数

Aは、3単位

Bは、9単位

Cは、8単位

Dは、3単位

Fは、2単位

1年前期のGPAは、上表のGPと単位数により、以下のように計算します。

$$\frac{4 \times 3_A + 3 \times 9_B + 2 \times 8_C + 1 \times 3_D + 0 \times 2_F}{3_A + 9_B + 8_C + 3_D + 2_F} = 2.32$$

共通太郎君のGPAは、2.32（小数点以下第3位を四捨五入）になります。もし、A評価の日本語 I が評点0～59点でF評価であったら、GPは4から0に下がるため、再計算するとGPAは2.00に減少します。GPAは4から0までの間で、学習達成度を測る数値となります。GPAを4に近づけるように頑張りましょう。

なお、履修登録した全ての科目が計算の対象になり、履修を放棄するとF評価（GP：0）になりGPAは下がります。履修を放棄する場合は、取消期間内に必ず履修登録取消の手続きを行ってください。ただし、単位認定科目及び他大学等単位互換科目の成績評価はP（認定）で表し、GPA算出の対象外になります。

共通教育科目卒業要件単位数(一般学生)

科目枠組		必修科目									選択必修科目							合計単位数	
		初年次教育科目						グローバル教育科目			教養教育科目								
		初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康		情報活用	英語	異文化理解	教養基礎科目				教養活用科目					
					理論	実習				人文・社会科学分野	自然科学分野	統合Ⅰ(課題発見)	統合Ⅱ(課題解決)	選択科目単位数小計					
学部学科		初修外国語	選択科目	実験科目	選択科目	入基礎科目	必修科目単位数小計				選択科目単位数小計								
法文	法経社会学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	4	2	0	4	0	4	14	30	
	人文学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	4	2	0	4	0	4	14	30	
教育	学校教育教員養成課程	初等教育コース	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	0	4	0	4	14	31
		中等教育コース(英語以外)	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	0	4	0	4	14	31
		中等教育コース(英語)	2	2	2	1	1	2	5	2	17	4	2	0	4	0	4	14	31
		実技系初等中等教育コース	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	0	4	0	4	14	31
	特別支援教育教員養成課程	2	2	2	1	1	2	5	2	17	2	4	0	4	0	4	14	31	
理	数理情報科学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	0	4	0	4	0	4	12	28	
	物理科学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	2(注1)	4	0	4	14	32	
	生命化学科	2	2	2	1	1	2	8	2	20	0	4	2(注2)	4	0	4	14	34	
	地球環境科学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	2(注3)	4	2(注4)	4	16	34	
医	医学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	0	4	3(注5)	2	0	4	13	29	
	保健学科(看護)	2	2	2	1	1	2	4	2	16	0	6	0	4	0	4	14	30	
	保健学科(理学療法)	2	2	2	1	1	2	4	2	16	0	6	0	2	4(注6)	4	16	32	
	保健学科(作業療法)	2	2	2	1	1	2	4	2	16	0	6	0	4	2(注7)	4	16	32	
歯	歯学科	2	2	2	1	1	2	4	2	16	2(注8)	2	2(注9)	4	0	4	14	30	
工	機械工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
	電気電子工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
	建築学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
	環境化学プロセス工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
	海洋土木工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
	情報生体システム工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
	化学生命工学科	2	2	2	1	1	2	6	2	18	0	4	1(注10)	2	2(注11)	4	13	31	
農	農業生産科学科	2	2	2	1	1	2	8	2	20	0	4	2(注12)	4	4(注13)	4	18	38	
	食料生命科学科	2	2	2	1	1	2	8	2	20	0	4	2(注12)	4	4(注13)	4	18	38	
	農林環境科学科	2	2	2	1	1	2	8	2	20	0	4	2(注12)	4	4(注13)	4	18	38	
	国際食料資源学特別コース	農学系サブ	2	2	2	1	1	2	5	2	17	0	4	1(注14)	2	6(注15)	4	17	34
水産系サブ		2	2	2	1	1	2	5	2	17	0	4	1(注14)	2	6(注15)	4	17	34	
水産	水産学科	2	2	2	1	1	2	5	2	17	0	4	1(注16)	0	10(注17)	4	19	36	

(注1) 基礎物理学実験(1単位)必修 基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)、基礎地学実験(1単位)から1科目選択

(注2) 基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)の2単位必修

(注3) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)、基礎地学実験(1単位)から2科目選択

(注4) 基礎統計学入門必修

(注5) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)の3単位必修

(注6) 基礎統計学入門(2単位)必修、基礎物理学入門(2単位)、基礎生物学入門(2単位)から1科目選択。ただし、物理学及び生物学に関しては受験時に選択しなかった科目を受講することが望ましい。

(注7) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎化学入門B、基礎生物学入門の6科目から1科目選択

(注8) 初修語は独語または仏語を修得する。

(注9) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)から2科目選択

(注10) 基礎物理学実験(1単位)必修

(注11) 基礎統計学入門(2単位)必修

(注12) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)、基礎地学実験(1単位)から2科目選択

(注13) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎化学入門B、基礎生物学入門の6科目から2科目選択

(注14) 基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)から1科目選択

(注15) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎統計学入門を必修

(注16) 基礎物理実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)から1科目選択

(注17) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎物理学入門、基礎数学入門、基礎統計学入門を必修

※ 共同獣医学部は別に定める。

V 共通教育の教育科目と単位の取り方

本学の共通教育は、「必修科目」および「選択必修科目」を大分類とし、「初年次教育科目」、「グローバル教育科目」、「日本語・日本事情科目」、「教養教育科目（教養基礎科目）」および「教養教育科目（教養活用科目）」の5つの中分類と17の小分類（以下の表を参照）に分類されています。（p. 23～25、p. 28～29、p. 31～34を参照）

共通教育の分類表

大分類	中分類	小分類
必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーⅠ
		初年次セミナーⅡ 【注意1】
		大学と地域
		体育・健康（理論）
		体育・健康（実習）
		情報活用
	グローバル教育科目	英語
		異文化理解
	日本語・日本事情科目	日本語 【注意2】
		日本事情 【注意2】
選択必修科目	教養教育科目 （教養基礎科目）	人文・社会科学分野（初修外国語）
		人文・社会科学分野（選択科目）
		自然科学分野（実験科目）
		自然科学分野（選択科目）
		自然科学分野（基礎教育入門科目）
	教養教育科目 （教養活用科目）	統合Ⅰ（課題発見）
		統合Ⅱ（課題解決）
卒業要件外科目	学芸員資格科目	学芸員資格

【注意1】原則として一般学生を対象とする。

【注意2】原則として外国人留学生を対象とする。

○初年次教育科目 【必修科目】

〔1〕初年次セミナーⅠ

1 内容

大学で学ぶための基礎学力として求められるテーマ設定や論証の仕方、文献の探し方・読み方などを身に付けることを目指す科目です。30人程度の学部混在型クラス編成で、多様な興味・関心を持つ他者と協働で学ぶことを通じて、コミュニケーション能力も涵養するアクティブ・ラーニング型授業です。

社会においては、様々な問題の中から自ら課題を発見し、適切な情報を収集・精査して活用し、合理的な解決策を導き出していく必要があります。そうした活動を支える力を、学生生活を通じて身に付けなければなりません。この科目は、そのための基礎の基礎を育成する科目といえます。まずは、大学での学びをより意義のあるものにするための力を養いましょう。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

〔2〕初年次セミナーⅡ

1 内容

前期「初年次セミナーⅠ」で学んだ基礎力に基づき、プレゼンテーションやより高度な論証型レポートなどの方法で、自身が明らかにした探究の成果を適切に表現するためのスキル育成を目指す科目です。クラスの編成方針は前期と同様です。

プレゼンテーションについては、グループを組んで実施します。興味・関心が異なる他者との間で考えを闘わせたりすり合わせたりする中で、考えの伝え方や受け止め方を身に付けていくことができます。テーマの設定からプレゼンテーションに至る過程も含めて学習を進めていきます。

論証型レポートについては、前期に論証の方法など、基礎的な項目は学習していることを前提とし、パラグラフ・ライティングや事実と意見との区別など、より適切な文章表現を可能にするための項目を取り上げ、学んでいきます。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

〔3〕 大学と地域

1 内容

鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいます。この取り組みを体系化し、「地域人材育成プラットフォーム」※として展開していきます。この取り組みの核となる授業が「大学と地域」です。

鹿児島大学は鹿児島地域に位置するものの、本学で学ぶ全ての学生が鹿児島のことをよく理解しているわけではありません。また、鹿児島は非常に大きな県で、文化も歴史も自然環境も多様で、多くの離島もあります。県内出身者であっても、鹿児島のことを隅々まで把握していることはないでしょう。鹿児島の大学で学ぶのですから、鹿児島のことを教材にすることは重要かつ合理的なことです。

しかし、この授業は鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではありません。皆さんは、これから大学で教育を受けることとなります。大学で学ぶためには自ら論理的に思考する力や、多くの情報から重要なものを探し出す力、物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力などが必要です。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指しています。

地域という身近なトピックを題材にしながら、本学での学びを実りあるものにするための力を付けていきましょう。その過程において学生の皆さんが地域のことを理解し貢献する思いを自身の中に育てて、皆さんにとっても、鹿児島大学にとっても、また鹿児島の地域にとっても、大変意義のある授業にしましょう。

※地域人材育成プラットフォームの詳細は、別冊のパンフレットを参照してください。

2 単位の取り方

全学必修科目であり、大学で学ぶための基礎学力を身に付けるための授業ですので、必ず1年次に履修してください（所属する学部によって前期または後期が指定されますので注意してください）。7クラスを開講し、クラスごとにテーマが決まっています。全て同じ曜日・時限に開講されますので、シラバス等をよく確認し、自分が受けたいクラスを選択して受講してください。自分の所属する学部での専門とは異なるテーマを選ぶと学びの幅が広がります。

なお、希望者多数のクラスは受講の可否を抽選で決定します。抽選に漏れた場合は他のクラスを受講してください。

〔4〕 体育・健康

学生時代はもとより生涯にわたって充実した生活を行っていくためには、心身の健全な育成と健康が基礎となります。そのためには何に注意を払い、どのような営みを継続していくのがよいかについて次のような授業科目を設け、講義および実習を通じて学習します。この講義と実習は互いに関連が図られています。

<1> 理論

1 内容

心身の基本的な機能やその適応能力について理解し、心身の育成や健康づくりのために重要な運動の行い方をはじめ、栄養や休養の取り方などのライフスタイルのあり方について講義します。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。なお、各学部の学科単位でクラスが編成され、受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

卒業要件単位数 1 単位	体育・健康科学理論	全学部
-----------------	-----------	-----

<2> 実習

1 内容

実習では、心身の育成や健康づくりに効果的な運動の行い方、それらの生活への取り入れ方などに関して実習します。

また、各自が年齢や身体の特徴に応じて運動を日常生活に取り入れ、生涯に渡って心身の育成や健康づくりの運動を実践できる能力を養うことを目的に、日常生活における身体活動の活用法や、新しく考案されたスポーツ（ニュースポーツ）を含めた多様なスポーツ種目について実習します。

2 単位の取り方

全学共通の必修科目です。なお、各学部の学科単位でクラスが編成され、受講するクラスが指定されますので、掲示板等で事前に確認してください。

卒業要件単位数 1 単位	体育・健康科学実習	全学部
-----------------	-----------	-----

〔5〕情報活用

1 内容

「情報活用」は、情報化社会およびグローバル化が進展する中で、重要性を増しているコンピュータやインターネットについての基礎的知識や技能を身に付け、本学の情報ネットワークやコンピュータの教育環境を有効に活用する能力を修得することを目指す科目です。各学生の所属学部・学科等の教員が主に担当しますが、パソコンの機能を十分に活用するための基本的な知識・技術、プレゼンテーション技能、インターネットの適切な利用方法および情報セキュリティなどについて学修します。専用のパソコン教室（主に共通教育棟1号館2、3階の情報教育教室）において、パソコンを一人一台ずつ利用し、講義と演習（パソコンの操作）を組合わせた授業形態となります。学修効果の向上のために、大学院生のティーチング・アシスタント（TA）が講義時間中に在室し、受講学生の学修を支援します。また、入学直後に学術情報基盤センターから入学生全員に配付される鹿児島大学IDにより、本学在籍期間中、パソコン教室のパソコンが自由に利用できます。パソコン教室は自由利用としても開放していますが、自由利用の方法や利用上の注意などは、「XI 学生生活、〔2〕諸願・届及び注意事項、5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）」（p. 57参照）を参照してください。

2 単位の取り方

「情報活用」は1期（1年前期）に開講される必修科目です。単位数は2単位ですが、卒業するためには必ず修得しなければならない重要な科目です。各学部の学科・専修等の単位でクラスが編成され、1期の授業時間割に記載されていますので、時間割に記載されている曜日・時限の「情報活用」を履修してください。なお、教員免許状取得希望者は、「情報機器の操作（2単位）」を必ず修得しなければなりません、「情報活用」がこの科目に該当します。

○グローバル教育科目 【必修科目】

〔1〕英語

1 内容

多様な世界観の共存を認め合う社会が求められている現在、諸文化の人的交流や情報交換がますます必要になっています。そのようなグローバル化が進む社会の中で、外国語教育の学習目標は、諸言語によって表現された内容を、正確に理解し、その言語による表現能力を高め、諸文化と価値体系の多様性に対する理解を深め、自己の文化的基盤を自覚し、国際理解と国際交流の能力を養うことにあります。このような目標を見据えながら、共通教育における英語教育では、その基本的な目標を各自の専門的学修のための基礎力の養成とします。

この目標を達成するために、共通教育における英語科目として、1年次から3年次にかけて（1期から6期）、英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ、英語Ⅴ、英語Ⅵの8科目を開講します（各1単位。学部・学科により卒業要件単位数が異なります）。

全学部・学科必修の1年次の1期と2期に開講される英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡBについて、その内容を簡単に記します。英語ⅠAと英語ⅡAは、いわゆる教養を念頭におきながら、主に読むこと、聞くことに焦点を当てた理解面の英語力を修得します。英語ⅠBは、一般的な学術に係る内容を吟味しながら、主に書くこと、英語ⅡBは、一般的な学術に係る内容を吟味しながら、主に話すことに焦点を当てた伝達面の英語力を修得します。1期では、英語ⅠAと英語ⅠBを組み合わせで開講し、英語の理解面と伝達面を活かしながら学びます。2期では、1期同様に、英語ⅡAと英語ⅡBを組み合わせで開講し、1期を土台として英語の運用力をさらに高めていきます。

このように英語ⅠA、英語ⅠB、ならびに英語ⅡAと英語ⅡBで大学生としての英語コミュニケーション力の基礎を身に付けながら、その学習過程で、大学生としての自覚を育み、教養を深めながら、客観的な分析態度に基づく批判的思考力などを養います。

それらを学部・学科選択の英語Ⅲで応用し、学部・学科選択の英語Ⅳで発展させ、学部・学科選択の英語Ⅴと英語Ⅵにおいて学術英語を中心に学部・学科での専門的学修への橋渡しとします。

2 単位の取り方

全学部・学科必修の英語科目として、1期に英語ⅠA、英語ⅠB、2期に英語ⅡA、英語ⅡBを開講します。3期に英語Ⅲ、4期に英語Ⅳ、5期に英語Ⅴ、6期に英語Ⅵをそれぞれ開講します。各期の各科目、週一回の授業をもって1単位となります。3期以降は、学部・学科により卒業要件単位数が異なります。次の表をみてください。

グローバル教育科目(英語)

履修学年	1年次		2年次		3年次		共通教育卒業要件単位数
履修期	1期	2期	3期	4期	5期	6期	
科目名	英語ⅠA	英語ⅡA	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ	英語Ⅵ	
	英語ⅠB	英語ⅡB					
学部(学科)	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	
法文(全学科)	2	2					4
教育(全学科)	2	2	1				5
理(数理情報)	2	2					4
理(物理科学)	2	2	1	1			6
理(生命化学)	2	2	1	1	1	1	8
理(地球環境)	2	2	1	1			6
医(医)	2	2					4
医(保健)	2	2					4
歯	2	2					4
工(機械)	2	2	1	1			6
工(電気電子)	2	2	1	1			6
工(建築)	2	2	1	1			6
工(環境化学)	2	2	1	1			6
工(海洋土木)	2	2	1	1			6
工(情報生体)	2	2	1	1			6
工(化学生命)	2	2	1	1			6
農(農業生産)	2	2	1	1	1	1	8
農(食料生命)	2	2	1	1	1	1	8
農(農林環境)	2	2	1	1	1	1	8
農・水(国際食料資源)	2	2	1				5
水産(水産)	2	2	1				5

※共同獣医学部は別に定める。

習熟度別のクラス

英語の授業は、1期から4期に開講される科目（英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ）が習熟度別クラス編成になります。どのクラスで授業を受けるかは、1期から4期それぞれの開始前に発表されます。

英語の再履修

やむを得ず英語を再履修しなければならなくなった場合は、不合格となった科目を、翌年度（以降）に、原則として同じ学部・学科の正規クラスで履修し直します。英語科目の再履修は、WEB登録できませんので、履修申請期間内に、共通教育係窓口において履修登録手続きをしてください。

英語の外部試験GTEC Academic

英語の授業では、全学1年次に2回（1期と2期）、英語の外部試験GTEC Academic（ジーテック アカデミック）を実施します。授業や課外の予習、復習等を中心とする自学自習を行い、日頃から実力養成を図り、その取り組み結果を評価する目安のひとつとします。この試験結果は、学期ごとの成績評価の20%に反映させます。残りの80%は、試験等での評価となります。このテストは、リスニングとリーディングからなる約30分のテストで、学内のコンピュータを利用して実施します。試験のレベルはあらかじめ決められておらず、受験者の英語力に応じて問題が出題されます。また、受験直後に確認できるスコアレポート（個人成績表）によって、自己の英語力の状況が具体的に把握出来るので、以後の英語学習の貴重な指針としてください。このテストで特に優秀な成績を修めた学生に対して大学から学年末に表彰が行われます。

英語の技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定

「鹿児島大学共通教育科目履修規則」第12条の規定により、実用英語技能検定に合格した者、及びTOEIC、TOEFL、IELTS、ケンブリッジ英語検定において一定の成績を修めた者は、所定の手続きに従って申請すると、本学における授業を履修したものとして単位の認定を受けることができます。認定を受けようとする者は、「外国語技能審査合格者等の単位認定申請書」に必要事項を記入し、必ず学生証と検定試験の合格証書又は成績認定証を持参して共通教育係窓口申請してください。なお、単位認定申請期間は、前期は4月の指定期間、後期は10月の指定期間とします。手続きの詳細及び単位認定の確認等に関しては、共通教育係の指示に従ってください。（p. 72参照）

〔2〕異文化理解

1 内容

人・もの・情報などが国境を越えて行きかうグローバル社会に生きるということは、多文化が共存する社会に生きるということでもあります。文化的背景が異なる人々と共に生活していくには、私たちになじみのない異質なものを排除したり、自分たちの考え方や価値観を押し付けたりするのではなく、他者を認め、理解し、受け入れようとする寛容な精神と態度がとても重要になります。

世界には多種多様な文化が存在することを認識し、複眼的にものをみる力や判断する能力を獲得して、自文化を相対化しながら他者の文化を受容する姿勢を、これからの私たちは身に付けていかなくてはなりません。このような目標を達成するための第一歩となるのが「異文化理解入門」です。この授業では、テーマを「ドイツ語文化圏」「フランス語文化圏」「中国語文化圏」「韓国・朝鮮語文化圏」「イスラーム文化圏」の5つの文化圏に分け、それぞれの文化圏における言語的側面（あいさつや簡単な日常表現、言語の特徴など）や文化・社会的側面（人々の生活習慣や考え方・価値観、現代事情など）について、日本の言語文化や日本事情との比較を織り交ぜながら、各3回ずつのリレー形式で講義を行います。

2 単位の取り方

全学部2単位必修の授業です。週1回の授業で2単位となります。工学部を除くすべての学部では1期に、工学部では3期に授業が開講されます（学部ごとに曜日・時限が指定されています）。単位を修得できなかった場合は、次年度に、自分が所属する学部・学科のクラスで再履修しなければなりません。

○教養教育科目（教養基礎科目）【選択必修科目】

〔1〕人文・社会科学分野

<1>初修外国語

1 内容

多様な世界観の共存を認め合う国際環境が求められている現在、諸文化間の人的交流や情報交換がますます必要になっています。外国語教育の目標は、諸言語によって表現された内容を正確に理解し、その言語による表現能力を高め、諸文化と価値体系の多様性に対する理解を深め、自己の文化的基盤を自覚し、国際理解と国際交流の能力を養うことにあります。このような目標を達成するため、1年次に初修外国語の基本的な文法や運用能力を修得する初級の授業が、2年次に初級で修得した能力を応用・発展させる中級の授業がそれぞれ開講されます。下記に初級と中級の単位の取り方について説明します。

2 単位の取り方

初級の授業

必修の初修外国語科目として、1期に「初級独語Ⅰ」「初級仏語Ⅰ」「初級中国語Ⅰ」「初級韓国語Ⅰ」（以下、「初級Ⅰ」）、2期に「初級独語Ⅱ」「初級仏語Ⅱ」「初級中国語Ⅱ」「初級韓国語Ⅱ」（以下、「初級Ⅱ」）が開講されます。いずれの初修外国語も「初級Ⅰ」および「初級Ⅱ」は週2回の授業をもって2単位となります。ただし、歯学部で仏語を選択する学生に対しては、1期と2期に週1回「初級仏語Ⅰ」を開講し、通年で2単位となります。1期1単位・2期1単位のような単位の分割は行いませんので、注意してください。

学部・学科により卒業要件単位数が異なります。下の表をみてください。

履修学年	1年次		必修 単位	受講可能な言語
	1期	2期		
履修期	科目名（単位数）			
学部等	科目名（単位数）			
法文学部	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（2）	4	独・仏・中・韓
教育学部（中等教育コース英語科）	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（2）	4	独・仏・中・韓
教育学部（上記を除くすべて）	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（②）	2	独・仏・中・韓
歯学部（独語選択者）	初級Ⅰ（2）	初級Ⅱ（②）	2	独・仏
歯学部（仏語選択者）	初級Ⅰ（2）		2	

法文学部・教育学部（中等教育コース英語科）は「初級Ⅰ」2単位と「初級Ⅱ」2単位の計4単位が卒業・進級に必要な単位数です。この場合「初級Ⅰ」及び「初級Ⅱ」は言語を変えて履修することはできず、同一言語を履修して単位を取得しなければなりません。

教育学部（中等教育コース英語科）を除くすべての学生・歯学部は「初級Ⅰ」2単位が卒業・進級に必要な単位数です。

歯学部で選択できる初修外国語は、独語または仏語のみです。歯学部以外は独語・仏語・中国語・韓国語から1言語を選択できます。なお、言語種によっては受講希望者が多数（60名以上）の場合、抽選により受講者数を制限することがあります。

2単位必修の学部・学科にあつては、2期の「初級Ⅱ」で修得した2単位を、人文・社会科学分野の「選択科目」の単位に含めることができます（上表の②で表示）。また、「初級Ⅱ」の2単位を必修である「初級Ⅰ」の単位に読み替えることもできます。なお、歯部部の仏語選択者には「初級仏語Ⅱ」は開講されません。

法文学部・教育学部で独語を選択する学生のうち希望者は、指定されたクラスでの日本人教員による授業ではなく、外国人教員が前期・後期担当する授業を受講することができます。定員は約25名で、希望者が多数の場合は抽選を行います。

中級の授業

中級の授業科目として、3期に「中級独語A」「中級仏語A」「中級中国語A」「中級韓国語A」（以下、「中級A」）が、4期に「中級独語B」「中級仏語B」「中級中国語B」「中級韓国語B」（以下、「中級B」）が開講されます。「中級A」と「中級B」には難易度の差はありません。「中級A」も「中級B」も週1回の授業で1単位となり、この単位は人文・社会科学分野の「選択科目」の単位に含まれます。なお、中級の授業を受講できるのは、「初級Ⅰ」および「初級Ⅱ」の計4単位を修得した者に限られます。

技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定

「鹿児島大学共通教育履修規則」第12条の規定により、ドイツ語技能検定試験、ゲーテ・インスティトゥート検定試験、オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験、テスト・ダフ（TestDaf）、実用フランス語技能検定試験、フランス国民教育省・フランス語学力テスト（TCF）、フランス国民教育省・フランス語資格試験（DELF/DALF）、中国語検定試験、漢語水平考試（HSK）、ハングル能力検定試験、韓国語能力試験に合格した者は、所定の手続きに従って申請すると、本学における授業を履修したものとして単位の認定を受けることができます。認定を受けようとする場合は、「外国語技能審査合格者等の単位認定申請書」に必要事項を記入し、必ず学生証と検定試験の合格証書を持参して共通教育係窓口申請してください。なお、単位認定申請期間は、前期は4月の指定期間、後期は10月の指定期間とします。手続きの詳細および単位認定の確認等に関しては、共通教育係の指示に従ってください。（p.72参照）

< 2 > 選択科目

1 内容

教養教育科目において教養基礎科目は幅広い教養と高度な専門知識、およびこれらに基づいた論理的思考力を育む科目となります。

その中で人文科学は哲学・文学・史学・語学など広く人類の創造した文化を対象として研究する学問で、社会科学は人間の社会的行為と関連付けながら、社会生活・社会組織・社会問題などのしくみを明らかにしようとする学問です。これらの科目は人文・社会科学の各学問分野に属する科目として、人文・社会科学に関連する専門教育にも深く関わってくる科目です。

2 単位の取り方

卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11 参照。ただし、外国人留学生は p. 37 を参照。）に示されていますので必要な単位数を確認後、下表に掲載されている科目を選択して履修してください。

また、選択科目における全学部対象の初修外国語科目として、2 期に「独語入門Ⅰ」、「仏語入門Ⅰ」、「中国語入門Ⅰ」、「韓国語入門Ⅰ」が、3 期に「独語入門Ⅱ」、「仏語入門Ⅱ」、「中国語入門Ⅱ」、「韓国語入門Ⅱ」が開講されます。これらは週 1 回の授業をもって 1 単位です。初修外国語が必修の学生は、必修と同じ言語の入門科目を履修することはできませんので注意してください。

なお、言語種によっては受講希望者が多数（60 名以上）の場合、抽選により受講者数を制限することがあります。

・開設授業科目一覧（2019 年度）

< 前期 >

科目名	単位	備考
アメーバ経営	2	
医学・行動心理学入門	2	
稲盛和夫のベンチャー企業論	2	
稲盛和夫の経営哲学（Ⅰ）	2	
大人になるための政治学	2	
鹿児島探訪－歴史－	2	地域志向科目
鹿児島の歴史地理	2	地域志向科目
株式会社と会計	2	
韓国語入門Ⅱ	1	
「起業」－ビジネスの発見と創出	2	地域志向科目
キャリア・恋人・コミュニケーションの社会学	2	
狂言の世界	2	
現代企業経営論	2	
現代の日本政治	2	
行動科学	2	

科目名	単位	備考
国際私法入門	2	
こころと「多様な生き方」を学ぶ	2	
古代東アジアの王陵	2	
自己理解の心理学	2	
自然学校へ行こう	2	地域志向科目
自然学校へ行こう 実践編 I	2	地域志向科目
実験医学・行動心理学	2	
障害児教育入門	2	
書物に見る日本近代文学	2	
心理学概論	2	
税と法律	2	
西洋史入門	2	
世界の中のイスラーム	2	
大学の日本史	2	
中国語入門Ⅱ	1	
中国と東アジア世界	2	
著作権とビジネスコンプライアンス	2	
貞観政要を読むー帝王学入門ー	2	
唐代の文学	2	
独語入門Ⅱ	1	
日本国憲法	2	
日本の焼き物	2	
人間と環境の心理学	2	
How Language and Music Influences Society	2	
美術への誘い	2	
仏語入門Ⅱ	1	
文化人類学の世界	2	
平和学ー広島・長崎講座ー	2	
簿記入門	2	
万葉集ー古代人の心とことばー	2	
倫理学入門	2	

<後期>

科目名	単位	備考
アイデア・発明から特許へ	2	
アメーバ経営	2	
稲盛和夫の経営哲学（Ⅱ）	2	
鹿児島探訪－歴史－	2	地域志向科目
環境文学入門	2	
韓国語入門Ⅰ	1	
暮らしから試みるニュース	2	
グローバル人材育成（雲南）	2	海外研修科目※
現代社会を考える	2	
行動科学	2	
コーポレート・ファイナンス	2	
災害と考古学	2	
自然学校へ行こう 実践編Ⅱ	2	地域志向科目
市民として生きる知恵	2	
社会学の世界	2	
16・17世紀イギリス演劇への招待	2	
障害児教育入門	2	
初級フィリピン語講座	2	
進化・文化と心理学	2	
心理学入門	2	
戦後日本外交史	2	
タイ文化研究入門	2	
地域ブランドを学ぶ	2	地域志向科目
中国語入門Ⅰ	1	
独語入門Ⅰ	1	
日本国憲法	2	
日本史学	2	
日本史を読む	2	
入門：起業のための人材養成Ⅰ	2	
仏語入門Ⅰ	1	
陽明学入門	2	

※海外研修科目は渡航先の状況によっては開講しない場合があります。

〔2〕自然科学分野

<1>実験科目

1 内容

教養教育科目の教養基礎科目は幅広い教養と高度な専門知識、およびこれらに基づいた論理的思考力を育む科目となります。

その中で自然科学分野は、自然事象を研究対象とする学問分野になります。中でも実験科目は、事象をとおして自然事象に関する知識や理解を深めることを目的とした科目になります。この科目は、自然科学に関連する専門教育にも深く関わってくる科目です。

2 単位の取り方

卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11参照。ただし、外国人留学生はp. 37を参照。）に示されています。必要な単位数を確認後、下表に掲載されている学部・学科等指定の実験科目を選択して履修してください。

・開設授業科目一覧（2019年度）

学部	学科等	授業科目	単 位	履修方法	卒業に 必要な 単位数
理学部	物理科学科	基礎物理学実験	1	1科目選択	1
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		
		基礎地学実験	1		
	生命化学科	基礎化学実験	1	必修	2
		基礎生命科学実験	1		
	地球環境科学科	基礎物理学実験	1	2科目選択	2
		基礎化学実験	1		
基礎生命科学実験		1			
基礎地学実験		1			
医学部	医学科	基礎物理学実験	1	必修	3
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		
歯学部	歯学科	基礎物理学実験	1	2科目選択	2
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		

工学部	機械工学科 電気電子工学科 建築学科	基礎物理学実験	1	必修	1
	環境化学プロセス工学科	基礎物理学実験	1	必修	1
	海洋土木工学科 情報生体システム工学科	基礎物理学実験	1	必修	1
	化学生命工学科	基礎物理学実験	1	必修	1
農学部	農業生産科学科 食料生命科学科 農林環境科学科	基礎物理学実験	1	2科目選択	2
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		
		基礎地学実験	1		
農学部 水産学部	国際食料資源学特別コース (農学系サブ) (水産系サブ)	基礎化学実験	1	1科目選択	1
		基礎生命科学実験	1		
水産学部	水産学科	基礎物理学実験	1	1科目選択	1
		基礎化学実験	1		
		基礎生命科学実験	1		

よくある質問

他の学部（あるいは学科）のクラスで受講することもできますか？

学部・学科単位で授業クラスを編成します。授業科目名が同じでも他のクラスで履修せずに、時間割で割り当てられた授業クラスで履修してください。再履修などの特別の理由で、他学部・他学科の授業クラスでの履修を希望する場合は、共通教育係へ必ず相談してください。

＜2＞選択科目

1 内容

自然科学の選択科目は、数学、物理学、化学、生物学等の学問分野科目となります。これらの科目は、自然科学に関連する専門教育にも深く関わってくる科目です。

2 単位の取り方

卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11参照。ただし、外国人留学生はp. 37を参照。）に示されていますので必要な単位数を確認後、下表に掲載されている科目を選択して履修してください。

・開設授業科目一覧（2019年度）

＜前期＞

科目名	単位	備考
遺伝のしくみ	2	
宇宙のすがた	2	
教養微分積分学	2	
暮らしの中のバイオ	2	
娯楽数学	2	
スポーツ実習（バドミントン）	1	
地震と火山	2	
焼酎	2	地域志向科目
生物学入門	2	
生物とリズム	2	
動物の病気	2	
乗り物の物理学	2	
放射線と暮らし・地域	2	地域志向科目
身近な話題の生物学	2	
理系ジャーナリズム	2	

＜後期＞

科目名	単位	備考
遊び心と科学	2	
依頼・介入関係の基礎概念	2	
宇宙の利用	2	
家畜の歴史	2	
教養線形代数学	2	
健康管理	2	
焼酎	2	地域志向科目
情報セキュリティ入門	2	

科目名	単位	備考
食品・化粧品・医薬品の有機化学	2	
初心者のためのサバイバル生物学	2	
世界を変えた有機分子	2	
生化学実験 I	2	
生命科学	2	
生命科学情報活用 1	2	
地球と環境	2	
DNA の科学	2	
電気電子工学入門	2	
動物の感覚・脳・行動	2	
力学入門 I	2	

< 3 > 基礎教育入門科目

1 内容

基礎教育入門科目は高校において自然科学の諸分野（数学・物理学・化学・生物学等）を履修していない、あるいは、十分な学習をしていない学生を対象に、大学の理系学部における専門教育を学んでいくうえで必要な知識や理解を修得することを目的とした科目となります。

2 単位の取り方

基礎教育入門科目は理系学部の卒業に必要な科目として開講されます。卒業に必要な単位数については共通教育科目卒業要件単位数（p. 11参照。ただし、外国人留学生はp. 37を参照。）に示されていますので必要な単位数を確認後、下表に掲載されている学部(学科等)指定の科目を選択して履修してください。また、卒業要件となっていない学部(学科等)は受講できませんので、注意してください。

・ 開設授業科目一覧（2019年度）

学部	学科等	授業科目	開講期	単位	履修方法	卒業に必要な単位数
理学部	地球環境科学科	基礎統計学入門	後期	2	必修	2
医学部	保健学科 (理学療法学専攻)	基礎統計学入門	後期	2	1科目選択 (注1)	2
		基礎物理学入門	後期	2		
		基礎生物学入門	前期	2		
	保健学科 (作業療法学専攻)	基礎数学入門	前期	2	1科目選択	2
		基礎化学入門A	前期	2		
		基礎化学入門B	前期	2		
		基礎生物学入門	前期	2		
		基礎物理学入門	後期	2		
基礎統計学入門	後期	2				
工学部	機械工学科 電気電子工学科 建築学科 環境化学プロセス工学科 海洋土木工学科 情報生体システム工学科 化学生命工学科	基礎統計学入門	前期	2	必修	2
農学部	農業生産科学科 食料生命科学科 農林環境科学科	基礎数学入門	前期	2	2科目選択	4
		基礎化学入門A	前期	2		
		基礎化学入門B	前期	2		
		基礎生物学入門	前期	2		
		基礎物理学入門	後期	2		
国際食料 資源学特 別コース	農学系サブ	基礎統計学入門	前期	2	3科目必修	6
		基礎化学入門A	後期	2		
	水産系サブ	基礎生物学入門	後期	2		
水産学部	水産学科	基礎数学入門	前期	2	5科目必修	10
		基礎統計学入門	前期	2		
		基礎物理学入門	前期	2		
		基礎化学入門A	後期	2		
		基礎生物学入門	後期	2		

(注1) 受験時に選択しなかった科目を選択することが望ましい。

○教養教育科目（教養活用科目）【選択必修科目】

〔1〕統合Ⅰ（課題発見）

1 内容

教養教育科目の教養活用科目は、自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目となります。その中で教養基礎科目にて学んだ人文・社会科学および自然科学で得た知識をもとに地域社会や環境問題等、現代社会が抱える諸問題について理解を深めて課題発見を目指す科目が統合Ⅰ（課題発見）となります。

2 単位の取り方

各学部とも統合Ⅰと統合Ⅱを合わせて4単位を取得する必要がありますので、統合Ⅰの科目のみで4単位を修得しても問題はありません。しかし、位置付けとしては統合Ⅰで発見した課題を統合Ⅱで解決をすることを目指していますので、統合Ⅰ・統合Ⅱの科目を2単位ずつ修得することが望ましい単位の取り方になります。

・開設授業科目一覧（2019年度）

<前期>

科目名	単位	備考
稲盛哲学：稲盛研究の最高峰が伝授	2	
いのちと地域を守る防災学Ⅰ	2	地域志向科目
Intercultural Understanding and Acceptance	2	
かごしま教養プログラム	2	地域志向科目
環境ビジネスⅠ	2	地域志向科目
キャリアデザイン	2	
グローバル・イニシアティブ概論	2	
グローバル社会を生きる	2	
自然体験活動入門講座	2	
実用英語短期講座	2	
社会人としての救急措置入門	2	
進取の精神を学ぶ	2	
大学生のための社会人基礎力入門	2	
大学で学ぶ	2	
地球環境保全のための国際協力	2	

<後期>

科目名	単位	備考
アメーバ経営における稲盛経営哲学	2	
Intercultural Understanding and Acceptance	2	
キャリアデザイン	2	
グローバル・イニシアティブ概論	2	
手話入門	2	
人生における出会いの意義と役割	2	
大学生のための社会人基礎力入門	2	
男女共同参画社会	2	
地域リサーチ・スタートアップ	2	
防災フィールドワーク	2	

[2] 統合Ⅱ（課題解決）

1 内容

統合Ⅰにて学習した現代社会が抱える諸問題についての内容を踏まえて、実際に課題解決を試みる科目が統合Ⅱ（課題解決）となります。

2 単位の取り方

各学部とも統合Ⅰと統合Ⅱを合わせて4単位を取得する必要がありますので、統合Ⅱの科目のみで4単位を修得しても問題はありません。（p. 31の単位の取り方を参照）

・開設授業科目一覧（2019年度）

<前期>

科目名	単位	備考
奄美の民俗文化	2	地域志向科目
稲盛和夫のリーダー論	2	
海外研修基礎コース in カリフォルニア	2	海外研修科目※ 地域志向科目
鹿児島探訪－文化－	2	地域志向科目
かごしまフィールドスクール	2	地域志向科目
環境と進化の科学	2	
がんはなぜおこるのか	2	
口と顔の科学	2	
グローバル人材育成（米国ノースダコタ）	2	海外研修科目※
国際異文化交流Ⅰ	2	
国際協力体験講座－ミャンマーコース－	2	海外研修科目※
最先端医療を創出するバイオ研究	2	
自然学校インターンシップⅠ	2	地域志向科目

科目名	単位	備考
島のしくみ	2	地域志向科目
社会システム・政策研究（タイ研修）	2	海外研修科目※
シラス地域学	2	地域志向科目
進取の精神海外研修 in ベトナム	2	海外研修科目※
地域環境論	2	
農家民泊体験講座：里山の家庭教師	2	地域志向科目
派遣留学Ⅰ	1	
派遣留学Ⅱ	1	
ヒトの身体の仕組みと働き	2	
ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅰ	2	
南太平洋多島域	2	
屋久島の環境文化Ⅱ－生き物－	2	地域志向科目
屋久島の環境文化Ⅲ－産業－	2	地域志向科目
有機農業Ⅰ 新しい食と農のかたち	2	地域志向科目
留学生のための異文化理解	2	

※海外研修科目は渡航先の状況によっては開講しない場合があります。

<後期>

科目名	単位	備考
奄美の民俗文化	2	地域志向科目
医学・脳科学入門	2	
いのちと地域を守る防災学Ⅱ	2	地域志向科目
Intercultural Communication for Global Citizens	2	
海外研修基礎コース in ハワイ	2	海外研修科目※
海外研修基礎コース in 東南アジア	2	海外研修科目※
鹿児島探訪-循環型社会と世界遺産-	2	地域志向科目
環境ビジネス2	2	地域志向科目
九州の古墳文化	2	
口と顔の科学	2	
健康を創り、守る	2	
国際感覚を持つバイテク人材育成	2	海外研修科目※
自己理解・他者理解と障害理解	2	
自然学校インターンシップⅡ	2	地域志向科目
自然環境保全と世界遺産	2	地域志向科目
実験医学・脳科学	2	
滞在者のためのコミュニケーションスキル：中国編	2	

科目名	単位	備考
派遣留学Ⅰ	1	
派遣留学Ⅱ	1	
ピアカウンセリング入門	2	
ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅱ	2	
森・ひと・体験	2	
屋久島の環境文化Ⅰ－植生－	2	地域志向科目
屋久島の環境文化Ⅳ－生活と文化－	2	地域志向科目
留学生のための異文化理解	2	

※海外研修科目は渡航先の状況によっては開講しない場合があります。

VI 外国人留学生のための科目の概要と単位の取り方

〔1〕 日本語・日本事情科目

1 学習目標

日本語・日本事情科目は、外国人留学生を対象として、日本文化と日本社会に対する理解を深め、大学において学業を遂行するに十分な日本語能力をつけることを目標にして開講しています。

2 内容

日本語

大学生生活に必要な日本語の4技能「話す・聞く・読む・書く」の運用能力を養う目的で日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳの4科目を開講しています。

授業時間30時間と予習・復習15時間で1単位です。

日本事情

外国人留学生にとっての異文化としての日本文化を中心に、日本の社会構造、日本社会で生活していく上での必要な知識、慣習などを含め、多面的に学習します。日本事情A、日本事情Bの2科目を開講しています。授業時間30時間と予習・復習60時間で2単位です。

3 単位の取り方

外国人留学生は日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの4科目4単位と日本事情A、Bの2科目4単位を必ず修得しなければなりません。日本事情として修得した単位は教養基礎科目「人文・社会科学分野」、または教養活用科目「統合Ⅰ・統合Ⅱ」の単位に読み替えることができます。

日本語・日本事情科目の開講期は下の表のとおりです。

日本語・日本事情科目の開講期

開講期	日本語科目	日本事情科目
1期（1年：前期）	日本語Ⅰ、Ⅱ	日本事情A
2期（1年：後期）	日本語Ⅲ、Ⅳ	日本事情B

〔2〕 外国人留学生の単位の取り方

外国人留学生の各学部・学科ごとの卒業要件単位数はp. 37のとおりです。日本人学生と同じように「初年次教育科目」「グローバル教育科目」を履修しなければなりません。ただし、外国人留学生は「初年次教育科目」の「初年次セミナーⅡ」は受講しません。

日本語・日本事情科目は外国人留学生には必修科目です。履修にあたっては、担当教員などに必ず相談してください。

※共同獣医学部の外国人留学生の場合、単位の取り方は日本人学生と同じです。そのため、日本語・日本事情科目は必修ではありません。単位を修得しても卒業要件にならない自由科目となりますが、外国人留学生の全員が履修することが望ましい授業科目です。

1 教養基礎科目、教養活用科目と日本事情科目の読み替え

日本事情科目の単位を教養基礎科目「人文・社会科学分野」、または教養活用科目「統合Ⅰ・統合Ⅱ」の単位に読み替えることができます。読み替えの際、日本事情科目の4単位をどの選択科目として読み替えるかは、自分で決めることができます。

2 外国語について

「グローバル教育科目」の「英語」は必修科目です。ただし、TOEIC、TOEFL、IELTS、ケンブリッジ英語検定などの検定試験を受け、その得点が一定の基準を超えている場合は、その得点に応じて英語の単位が認定されます。得点と認定される単位数についてはp. 72「鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則」に書いてあります。単位認定を希望する場合は、決められた期間内に申請を行ってください。

また、初修外国語を選択必修科目としている学部・学科であっても、外国人留学生の場合は、定められた英語の単位数を修得すれば、卒業要件が満たされます。

よくある質問

Q1 プレースメントテストがありますか？

学期の初めに必ずプレースメントテストを行うので、その結果にしたがって履修してください。前期のプレースメントテストは、日本語Ⅰの第1日目に行います。後期のプレースメントテストは、日本語Ⅲあるいは日本語Ⅳの第1日目に行います。日本事情A・Bは文系・理系に分かれて受講します。

Q2 3、4年生になってから、日本語・日本事情科目を履修してもいいでしょうか？

日本語・日本事情科目は、全学部の留学生が履修できるような時間帯に授業があります。3、4年生になると、専門科目の授業が多くなっていくので、日本語・日本事情の授業時間と重なってしまうことがあります。できるだけ1年生のうちに履修しましょう。p. 35の表「日本語・日本事情科目の開講期」を参照してください。

共通教育科目卒業要件単位数(外国人留学生)

科目枠組	必修科目											選択必修科目							必修科目単位数小計	選択科目単位数小計	合計単位数
	初年次教育科目						グローバル教育科目		日本語・日本事情			教養教育科目									
	初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康		情報活用	英語	異文化理解	日本語	日本事情	教養基礎科目				教養活用科目						
				理論	実習						人文・社会科学分野	自然科学分野	統合Ⅰ(課題発見)		統合Ⅱ(課題解決)						
学部学科										初修外国語			選択科目	実験科目	選択科目	基礎教育					
法文	法経社会学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	0	4	0	4	12	30	
	人文学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	0	4	0	4	12	30	
教育	学校教育教員養成課程	2	-	2	1	1	2	5	2	4 (注18)	(4)	19	-	4	0	4	0	4	12	31	
	特別支援教育教員養成課程	2	-	2	1	1	2	5	2	4 (注18)	(4)	19	-	4	0	4	0	4	12	31	
理	数理情報科学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4 (注18)	(4)	18	-	4	0	4	0	4	12	30	
	物理科学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	2 (注1)	4	0	4	14	34	
	生命化学科	2	-	2	1	1	2	8	2	4 (注18)	(4)	22	-	4	2 (注2)	4	0	4	14	36	
	地球環境科学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	2 (注3)	4	2 (注4)	4	16	36	
医	医学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	3 (注5)	2	0	4	13	31	
	保健学科(看護)	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	0	4	0	4	12	30	
	保健学科(理学療法)	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	0	2	4 (注6)	4	14	32	
	保健学科(作業療法)	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	0	4	2 (注7)	4	14	32	
歯	歯学科	2	-	2	1	1	2	4	2	4	(4)	18	-	4	2 (注8)	4	0	4	14	32	
工	機械工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
	電気電子工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
	建築学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
	環境化学プロセス工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
	海洋土木工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
	情報生体システム工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
	化学生命工学科	2	-	2	1	1	2	6	2	4 (注18)	(4)	20	-	4	1 (注9)	2	2 (注10)	4	13	33	
農	農業生産科学科	2	-	2	1	1	2	8	2	4 (注18)	(4)	22	-	4	2 (注11)	4	4 (注12)	4	18	40	
	食料生命科学科	2	-	2	1	1	2	8	2	4 (注18)	(4)	22	-	4	2 (注11)	4	4 (注12)	4	18	40	
	農林環境科学科	2	-	2	1	1	2	8	2	4 (注18)	(4)	22	-	4	2 (注11)	4	4 (注12)	4	18	40	
	国際食料資源学特別コース	農学系サブ	2	-	2	1	1	2	5	2	4 (注18)	(4)	19	-	4	1 (注13)	2	6 (注14)	4	17	36
水産	水産系サブ	2	-	2	1	1	2	5	2	4 (注18)	(4)	19	-	4	1 (注13)	2	6 (注14)	4	17	36	
	水産学科	2	-	2	1	1	2	5	2	4 (注18)	(4)	19	-	4	1 (注15)	0	10 (注16)	4	19	38	

- (注1) 基礎物理学実験(1単位)必修 基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)、基礎地学実験(1単位)から1科目選択
(注2) 基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)の2単位必修
(注3) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)、基礎地学実験(1単位)から2科目選択
(注4) 基礎統計学入門必修
(注5) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)の3単位必修
(注6) 基礎統計学入門(2単位)必修、基礎物理学入門(2単位)、基礎生物学入門(2単位)から1科目選択。ただし、物理学及び生物学に関しては受験時に選択しなかった科目を受講することが望ましい。
(注7) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎科学入門B、基礎生物学入門の6科目から1科目選択
(注8) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)から2科目選択
(注9) 基礎物理学実験(1単位)必修
(注10) 基礎統計学入門(2単位)必修
(注11) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)、基礎地学実験(1単位)から2科目選択
(注12) 基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門A、基礎科学入門B、基礎生物学入門の6科目から2科目選択
(注13) 基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)から1科目選択
(注14) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎統計学入門を必修
(注15) 基礎物理学実験(1単位)、基礎化学実験(1単位)、基礎生命科学実験(1単位)から1科目選択
(注16) 基礎生物学入門、基礎化学入門A、基礎物理学入門、基礎数学入門、基礎統計学入門を必修
(注17) 日本事情(4単位)は、人文・社会科学分野(選択科目)または、教養活用科目(統合Ⅰ・統合Ⅱ)の単位に読み替えることができる。
(注18) 日本語(4単位)は、履修申請単位数の上限枠に含まれない。
※ 共同獣医学部は別に定める。

Ⅶ 履修手続きをする前に知っておくこと

〔1〕 入学前に修得した単位の認定

「鹿児島大学共通教育科目履修規則」第11条の規定（p.61参照）により、大学または短期大学を卒業または中途退学し、新たに本学の1年次に入学した学生の既修得単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがあります。

共通教育科目の既修得単位認定を希望する学生は、共通教育係で所定の手続きを取ってください。

〔2〕 技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定

p.19、p.22、p.72をみてください。

〔3〕 教員免許状の取得

本学では、法文・教育・理・工・農・水産の各学部で、教育職員免許状（以下「教員免許状」と略称）を取得することができます。教員免許状には、いくつもの種類があります。自分が所属する学部・学科では、どのような種類の教員免許状が取得できるかを確認し、取得する教員免許状の種類を決めておく必要があります。

教員免許状を取得できる種類、取得のために必要な科目・単位数などについては、所属学部の学生担当窓口にて尋ねてください。教員免許状を取得するために必要な科目の中には、「日本国憲法」、「実験」などの共通教育科目も含まれます。共通教育科目について、所属学部の学生担当窓口にて尋ねてください。

〔4〕 学芸員資格の取得

本学では、法文・教育・理・水産（国際食料資源学特別コース（農・水）を除く）の各学部で学芸員の資格を取得することができます。

資格を取得するために必要な科目・単位数などについては、所属学部の学生担当窓口にて尋ねてください。

また、資格を取得するために必要な科目の一部（下記の表参照）を共通教育センターで開講していますが、卒業要件単位数には含まれませんので注意してください。（詳細はシラバス（学芸員資格科目）を参照）

科目名	単位	科目名	単位
生涯学習概論	2	博物館資料保存論	2
博物館概論	2	博物館展示論	2
博物館経営論	2	博物館教育論	2
博物館資料論	2	博物館情報・メディア論	2

〔5〕 高度共通教育科目

「地域人材育成プラットフォーム」は、地域人材育成を目的とした学部横断型の教育を展開する土台となるもので、「かごしまキャリア教育プログラム」、「かごしま地域リサーチ・プログラム」、「かごしまグローバル教育プログラム」の3つの教育プログラムからなります。

「地域人材育成プラットフォーム」を構成する共通教育科目として、2年次以上の学生を対象とした「高度共通教育科目」があります。ここでは、「地域人材育成プラットフォーム」の構成科目である「プログラム科目」の一部、「実地体験事前演習」「実地体験」「プログラム修了演習」が含まれます。

「高度共通教育科目」は共通教育センターが開講する科目ですが、卒業要件上は専門教育の単位となります。ただし、認められる単位数は学部によって異なりますので、所属学部の学生担当窓口もしくは共通教育係で確認してください。また、「地域人材育成プラットフォーム」の詳細についてはパンフレットをご覧ください。

・開設授業科目一覧（2019年度）

科目名	単位	プログラム	科目区分
地域キャリアプランニング	2	かごしまキャリア教育プログラム	プログラム科目
企業活動の基礎	2	かごしまキャリア教育プログラム	プログラム科目
地域キャリア・インターンシップ事前演習	2	かごしまキャリア教育プログラム	実地体験事前演習
地域キャリア・インターンシップ	2	かごしまキャリア教育プログラム	実地体験
地域キャリア修了演習	2	かごしまキャリア教育プログラム	プログラム修了演習
地域リサーチ・トライアル	2	かごしま地域リサーチ・プログラム	プログラム科目
地域リサーチ実習事前演習	2	かごしま地域リサーチ・プログラム	実地体験事前演習
地域リサーチ実習	2	かごしま地域リサーチ・プログラム	実地体験
地域リサーチ修了演習	2	かごしま地域リサーチ・プログラム	プログラム修了演習
Confronting Kagoshima Regional Issues	2	かごしまグローバル教育プログラム	プログラム科目

Ⅷ 履修手続

〔1〕シラバス

授業科目ごとに担当教員名、授業概要、授業計画、成績評価基準、教科書などを詳しく記載したものをシラバスとといいます。履修申請日までに、シラバス、共通教育履修案内等をよく読んで予め自分が受講したい授業を厳選しておいてください。シラバスは、インターネットにつながったパソコンまたはスマートフォンであれば、どこからでも閲覧できます。次の順にアクセスしてください。

シラバスの閲覧要領

- ①「鹿児島大学」トップページにアクセスし、「在学生」→「学部等の講義概要（シラバス）」→「共通教育センター」をクリックします。
- ②「共通教育科目一覧」が表示されるので、科目名等の入力欄に検索キーワードを入力し、検索ボタン（のアイコン）をクリックします。
※科目名の一部を入力しても検索できます。
- ③検索キーワードに一致する科目情報が表示されるので、シラバス欄に表記されているアイコンをクリックします。

〔2〕履修計画

p. 11の卒業要件単位数を満たすためには、各期に、科目区分ごとに、何単位を修得していけばよいのか、「シラバス」、および4期までの「授業時間割表」も参照しながら、履修計画を立てることが大切です。また、2年次になってから開講される科目については、「授業時間割表」に記載されている科目以外に、若干の追加開設を予定しています。なお、変更する場合もあるので注意してください。

履修は、「授業時間割表」と「開設授業科目表」をよく参照して計画してください。また、開設授業科目表の中には受講対象「学部・学科・学年等」が指定されているものもあります。

なお、選択必修科目は「授業時間割表」に記載されていないものもありますので、当該期の「開設授業科目表」をよくみてください。

〔3〕履修申請

申請日

履修申請は、「共通教育行事予定表」で指定された期日に行われます。

「共通教育行事予定表」や履修方法などの詳細事項は、共通教育掲示板（p. 75参照）などで知らせます。また、専門教育科目の申請日時が異なる場合があるので注意してください。

申請方法

履修科目の申請は、インターネットを利用して行います。指定された期日であれば、みなさんはインターネットにつながったパソコンで、どこからでも鹿児島大学の履修登録システムにアクセスして、履修科目の申請ができます。ただし、1期(1年次前期)の1回目の申請だけは所属学部ごとにパソコン教室に集合して同時に行います。(2019年4月3日)

集合時間と集合場所は所属学部のオリエンテーションで知らせますので、遅れずに必ず集合してください。(学外からの履修申請はできません。)

履修申請時に用意しておくもの

「2019年度入学生 共通教育履修案内」・・・この冊子です。

「開設授業科目表」・・・受講対象や受講制限などが確認できます。

「新入生オリエンテーション資料(共通教育)」・・・履修申請要領が記載されています。

「鹿児島大学IDパスワード設定コード通知書」

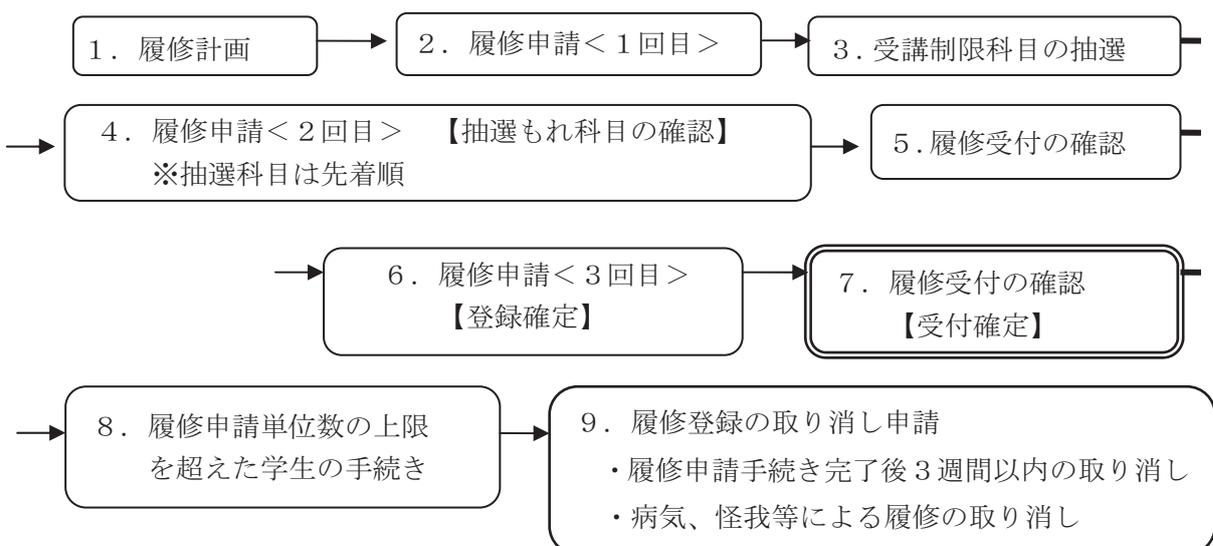
「履修申請表(ワークシート)」

集中講義

夏季休業中などに、集中講義を開講します。開講する科目、履修申請については掲示板で知らせますので、履修希望者は掲示に注意してください。なお、履修登録できるのは特に指定された場合を除き、各期1人1科目のみとなり、履修申請単位数の上限には含まれません。

〔4〕履修手続きの流れ

履修手続きは、下図のような流れになります。それぞれの項目について詳細な説明がありますのでよく読んでください。



1 履修計画

「共通教育履修案内」、「シラバス」、「開設授業科目表」を参考にして履修計画を立て、申請する授業科目を履修申請表（ワークシート）に記入してください。WEB入力のための下書きになります。

共通教育科目の単位の取り方は複雑です。「V共通教育の教育科目と単位の取り方」を必ず熟読してください。（p. 12～p. 34参照。ただし、外国人留学生はp. 35～p. 37を参照）

履修計画の立て方

① 授業時間割表の確認

各学部・学科で、共通教育科目が開講される時間帯が異なります。「共通教育履修案内」に掲載している「2019年度入学生授業時間割表」をみて、どの時間帯にどの科目が開講されているのか確認してください。なお、授業時間割表に記載のない選択必修科目や開放科目などは「開設授業科目表」を、参考にして履修計画を立ててください。

② 必修科目の確認

「初年次セミナーⅠ」、「初年次セミナーⅡ」、「体育・健康」、「情報活用」、「英語」、「異文化理解」は、あらかじめ授業クラスが割り当てられています。開設授業科目表又は掲示板上で担当教員、時間割コードを確認してください。割り当てられた授業クラス以外での受講は原則として認められません。

③ 選択必修科目の確認

教養教育科目で卒業に必要な科目として指定されていない科目は、自分でどの講義を受講するかを選択することができます。シラバスを参考にして、受講したい科目を選択してください。ただし、共通教育ではGPA制度を導入していますので、選択必修科目を履修し、もし単位を修得できなかった場合は、その科目の評価F（=0点）がGPAを算出する際にその数値を下げる要因になります。したがって、安易な履修登録はGPAに悪影響を及ぼします。すなわち、選択必修科目でも履修すれば必修科目と同じ重みを持ちますので、真剣に取り組んでください。

2 履修申請＜1回目＞

履修科目の申請は、インターネットにつながったパソコン（履修登録システム）を利用して行います。（1期（1年次前期）の1回目だけは2019年4月3日に所属学部ごとにパソコン教室に集合して申請します。受講制限科目（受講許可申請が別途必要なものを除く）は、この時点では申請どおり受け付けます。担当教員の受講許可申請が必要な科目については、掲示等に注意してください。履修登録の方法については、入学時に配付される「新入生オリエンテーション資料（共通教育）」を参照してください。

3 受講制限科目の抽選

履修申請終了後、受講人数の上限を超過した授業科目はコンピュータによる無作為抽選を行います。

受講制限を行う授業科目

講義室や実験室等の収容定員や授業の内容により、受講制限をせざるを得ない場合があります。受講制限の内容については、当該期の「開設授業科目表」を参照してください。

抽選もれとなった場合、その科目の登録は自動的に無効となります。履修申請日<2・3回目>に追加登録できますが、履修登録は先着順となり、定員に達すると登録が打ち切られます。

授業科目によっては、担当教員の受講許可が必要な場合があります。それらについては、当該期の「開設授業科目表」や掲示板などを参照してください。

4 履修申請<2回目>【抽選もれ科目の確認】

インターネットにつながったパソコンから履修登録システムにアクセスして、抽選もれ科目がないか必ず確認してください。抽選結果に応じて、履修科目を変更することができます。

5 履修受付の確認

授業開始までにインターネットにつながったパソコン（学務WEBシステム）で、抽選結果や履修規則違反等の情報を反映させた履修受付確認表を公開します。例年、授業クラスの間違いや登録したつもりなのに実際は登録されていなかったということが多々ありますので、学務WEBシステムの登録内容に誤りがないか必ず確認してください。

（履修受付確認は、履修登録システムではなく、学務WEBシステムで確認してください。）

6 履修申請<3回目>【登録確定】

授業開始後に、履修申請を変更する機会が1回だけ与えられ、その後の変更は、原則として認められません。履修申請を変更した際は、登録内容に誤りがないか必ず確認してください。また、新たな科目を追加する場合は、履修申請単位数の上限を超えないように注意してください。

7 履修受付の確認【受付確定】

3回目の履修申請日以降、再び学務WEBシステムで、履修違反等の情報を反映させた履修受付確認表を公開します。未登録科目および履修申請単位数の上限を超えた単位は一切認められませんので注意してください。万が一、誤りがあれば、共通教育係に相談してください。履修申請単位数の超過などの特別な場合を除き、履修登録は確定となります。

8 履修申請単位数の上限を超えた学生の手続き

単位数上限を超えた場合は、履修受付確認表にエラーとして表示されます。所属する学生担当窓口で超過単位数の取り消しの手続きを行ってください。手続きを行わなかった場合には、強制的に履修申請が取り消されるので注意してください。（上限設定については、p.9参照）

9 履修登録の取り直し申請

履修申請の手続き完了後、申請内容の変更は原則として認められません。しかし、受講中の科目で履修を取り止めたい科目があった場合には、履修登録確定後3週間以内であれば、共通教育係で履修登録取消申請をすることができます。また、病気や怪我などで長期欠席となる事態が発生した場合は、医師の診断書を添付して履修登録取消申請ができます。この場合は、学期中であれば申請可能です。これらの手続きは、意に添わない受講や怪我などの不測の事態により、受講科目の単位修得を放棄し、GPAが低くならないようにする特例措置です。

よくある質問

Q 1 現在2年生ですが、1年生で開講されている科目を履修できますか？

上級生でも、1年生のみを対象にしている科目以外であれば履修できます。ただし、授業クラスが学部・学科・番号等で指定されている科目については、該当するクラスで履修してください。受講対象・受講制限については、当該期の開設授業科目表を参考にしてください。

Q 2 IDとパスワードが分からないので、履修登録画面にログインできません。

IDは鹿児島大学ID（kで始まる8文字の文字列）です。

鹿児島大学IDマイページにて[連絡先メールアドレス]または[秘密の質問]を設定している場合、自身でパスワードを再設定できます。設定していない場合は、各学部学生係または学術情報基盤センターで手続きが必要です。

Q 3 外国語技能検定の単位認定をしたいのですが、単位認定を申請する科目の履修申請はどうすればよいですか？

単位認定を申請する科目の履修申請は不要です。単位認定の申請方法は、「技能審査（外国語技能検定試験）合格者等の単位認定について」をみてください。（p.19、22参照）

Q 4 共通教育科目と専門教育科目の履修申請日は同じですか？

共通教育科目と専門教育科目の履修申請日は異なる場合があります。専門教育科目の履修申請日については、学部の掲示板等に注意してください。

Q 5 共通教育科目を欠席した場合はどうすれば良いですか？

所定の欠席届（p.84参照）に必要事項を記入して担当教員に事後報告でも構いませんので直接提出してください。欠席していたことを証明できるもの（医師の診断書、公共交通機関の遅延の証明書、忌引きのお礼状等）があれば欠席届と一緒に担当教員に提出してください。なお、欠席届の取り扱いは担当教員の裁量によります。

Ⅸ 共通教育に関する授業アンケート

鹿児島大学の授業を、素晴らしいものへと発展させるための原動力は、授業を受ける学生の声です。共通教育センターでは、授業に対する学生の意見、感想、要望などを集め、個々の授業をより良いものへとするために授業アンケートを実施しています。アンケートの結果は授業担当教員や共通教育全体にフィードバックされ、授業内容や授業方法の改善のための貴重な資料となります。

また、学期末に実施する「授業改善に資するアンケート」では、みなさんの授業に対する姿勢や教員の授業運営、授業全体の満足度などを質問し、その結果は担当教員にフィードバックされるほか、科目分野ごとに集計され、より良い共通教育のカリキュラム編成のための資料として利用されます。

アンケートの回答がみなさんの成績を左右することは決してありませんので、率直な意見を書いてください。ただし、授業改善のために誠実に回答してください。

X 試験および単位認定

〔1〕 試験

授業科目の成績評価は、シラバスに記載された「学習目標」と「成績の評価基準」に基づく学習達成度の確認により行います。試験は、筆記試験、小テスト、レポート、実技、作品などの方法により行い、総合的に評価します。試験は、各学期末において、共通教育行事予定表（表紙裏面）に記載してある試験日（原則各ターム最終日）に実施する試験（主に筆記試験）や授業中に実施される小テストや授業で課されるレポートなどがあります。

〔2〕 単位認定とGPA制度

共通教育においては、共通教育科目の学習達成度を測るためにグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度による成績評価を行います。成績は、下表に示すように、学習達成度90%以上をA、80%以上90%未満をB、70%以上80%未満をC、60%以上70%未満をD、60%未満をFと評価します。評価のグレード・ポイント（GP）は、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点、F=0点（不合格）となります。

学習達成度	評点	評語	認定
90%以上	100点～90点	A	合格
80%以上90%未満	89点～80点	B	合格
70%以上80%未満	79点～70点	C	合格
60%以上70%未満	69点～60点	D	合格
60%未満	59点～0点	F	不合格

各学期、1年間および入学後のGPAをそれぞれ、学期GPA・年間GPA・通算GPAと呼び、当該履修期間に履修した科目のGPを用いて、以下のような単位平均値により求めます。

$$(\text{学期} \cdot \text{年間} \cdot \text{通算}) \text{ GPA} = \frac{4 \times n_A + 3 \times n_B + 2 \times n_C + 1 \times n_D + 0 \times n_F}{n_A + n_B + n_C + n_D + n_F}$$

ただし、 $n_A \sim n_F$ はそれぞれ当該期間のGPがA～Fの総単位数です。この式から明らかのように、評価F（=0点）で不合格となった科目があるとGPAが下がり、共通教育科目における学習達成度が低いことを意味します。

GPAの具体例についてはp. 10を参照してください。

1 GPA制度の対象外科目

単位認定科目および他大学等単位互換制度により単位を修得した科目（成績評価はP（認定））と卒業要件外の科目が対象外となります。

2 履修申請科目の取り消し

履修登録確定後に放棄した科目の評価はF（不合格）となります。評価Fも成績原簿に記録されますので、GPAを算出する場合に、評価F（=0点）はGPAを下げることであります。ただし、次の場合には、事前に履修を取り消すことができます。

- ・病気や怪我などで長期欠席となるために、医師の診断書を添付して履修登録取消申請をした場合
- ・履修登録の確定後3週間以内に、履修登録取消申請を行った場合

3 不合格科目および単位修得後に成績更新をする科目の再履修

不合格になった科目の評価F（=0点）は、GPAを下げることであります。したがって、選択科目であっても、不合格になった科目は再履修をして、GPの値を改善することができる手続きがあります。また、単位を修得した場合でも、GPの値が低いときには、GPAが下がります。それゆえ、単位を修得した科目でも、成績を更新するために再履修をすることが可能です。

不合格科目あるいは単位を修得した後にGPの値を更新しようとする科目については、成績更新のための再履修手続きを行うことができます。この場合、共通教育係で再履修申請を行います。なお、再履修申請は、原則として通常の履修申請よりも優先して登録されます。

再履修申請を行った場合、再履修が確定した時点で以前の評価は取り消されます。したがって、再履修科目の学習に励まなかったりすると、かえって評価が悪くなりGPAが以前よりも低下することもあるので、注意してください。

また、成績評価の認定が不合格となった科目または単位を修得した後に成績を更新しようとする科目が未開講となり、在学期間中に再履修できない場合は、当該科目と同一の学問分野の授業科目を代替科目として履修し、成績を更新することができます。ただし、当該科目と同一の学問分野の授業科目がない場合は、成績を更新することはできないので、注意してください。

4 GPAに基づく表彰と助言・指導

共通教育の通算GPAが優秀な学生には、「共通教育センター長賞」の表彰を行います。また、学期GPAが低い学生に対しては、クラス担任教員等が面談を行い、修学および学生生活全般にわたり助言・指導を行います。その他、所属学部において、GPAによる賞罰や進級制度などが設けられている場合がありますので、所属学部の履修要項などを参照してください。

共通教育センター長賞表彰基準

1～3期（ただし、医学部医学科、歯学部、共同獣医学部は1～2期）の通算GPA3.5以上の者で各学部上位2名とし、かつ卒業要件を満たした者。

助言・指導基準

1～2期の各学期GPAが1.5未満、または1期の修得単位数が10単位未満（歯学部は15単位未満）、2期の修得単位数が6単位未満の者。

（p.61「鹿児島大学共通教育科目履修規則」）

（p.66「鹿児島大学共通教育科目試験規則」）

〔3〕 追試験

- (1) やむを得ない理由により試験等を受けることができなかった者に対して、追試験を行うことがあります。
- (2) 追試験を希望する場合、当該科目の試験等の終了後に共通教育係で追試験願を受け取り、当該科目の担当教員の許可を得た後、原則として1週間以内に共通教育係に提出してください。
- (3) 担当教員の許可を受けるときには、確認のため以下のような書類が必要です。
 - ・ 病気、交通事故・・・・・・・・・・医師の診断書
 - ・ 交通機関の運休、遅延・・・・各機関の発行する証明書
 - ・ その他・・・・・・・・・・やむを得ない事由を証明するもの

〔4〕 再試験

- (1) 試験の結果、不合格の者に対して、再試験を行うことがあります。
- (2) 再試験の実施科目、日程などについては、掲示により通知します。
- (3) 再試験においては、70点以上の成績は認定されません。
- (4) 再試験の成績判定は、当該授業科目が行われた学期の次の学期に行われます。ただし、再試験に合格した場合の単位は、当該授業科目が行われた学期の単位として認定されません。そのため、各学部における進級判定や卒業判定が行われる学期の再試験授業科目の場合、それらの判定の単位としては算定されませんので、特に注意が必要です。

〔5〕 受験上の注意

- (1) 試験科目、試験時間、試験場等は掲示します。事前に確認してください。
なお、科目によっては小テストなどが行われますが、その場合には担当教員の指示に従ってください。
- (2) 受験に際しては、学生証を必ず持参してください。学生証が受験票の役割を持ちます。
- (3) 試験当日、学生証を持っていない者は、理由を書いた仮受験票発行願を共通教育係に提出し、仮受験票を発行してもらって受験してください。学生証を持参しないことが度重なった場合、仮受験票を発行しない場合もありますので十分注意してください。発行された仮受験票は、当日中に共通教育係に返却してください。
- (4) 学生証又は仮受験票を持参しない者は、試験場への入室を拒否され受験できません。
- (5) 筆記用具以外の筆箱等の持物は、特に指示のある場合を除き、机上においてはいけません。携帯電話、スマートフォン、時計型端末などの通信機器や電子辞書等の情報検索が可能な機器を使用することはできませんので、必ず電源を切ってカバンなどに入れてください。
- (6) 学生証は、机の通路側においてください。
- (7) 試験開始時刻に遅れた場合、試験開始後20分以内は入室を認めますが、20分を超えて遅れた場合には、入室を認めません。また、25分以上経過しなければ退室することはできません。

〔6〕不正行為の措置

不正行為は、試験の際に、代理受験、カンニングペーパーの持込、答案用紙の交換、携帯電話等の使用、他人の答案の盗み見等の行為が該当します。また、レポートの盗用・剽窃（他人の文章を引用なしにあたかも自分の文章として記載すること。）も不正行為にあたります。

不正行為を行った場合は「鹿児島大学共通教育科目試験規則」（p. 66参照）により、原則として、当該期の共通教育科目の全受験科目を不合格（0点）とする措置がとられます。なお、不正行為は、共通教育センターによるこの措置とは別に、学則第60条による懲戒処分を受けることとなります。

〔7〕成績評価等に対する開示請求と異議申立て

共通教育科目に係る成績評価等の開示請求ができる制度があります。

また、開示結果だけでなく、普段の授業等における成績判定などについて異議がある場合、異議を申立てできる制度もあります。

これらの概要を次に示しますが、開示請求等を行わずに解決する場合がありますので、共通教育係に相談してください。

●成績等の開示請求について

成績評価や成績評価の基礎となる試験の答案について、開示請求が可能です。

●異議・再異議申立てについて

- (1) 成績評価の結果が予想と大きく異なる場合など、成績評価等について異議申立てができます。
- (2) 履修・受験したにもかかわらず、成績通知表に成績が記載されていないなど、誤った処理の疑いがある場合、問い合わせができます。
- (3) 異議申立ての回答について、納得がいかない場合、再度異議申立てをすることが可能です。

●成績等開示請求と異議・再異議申立ての手順

- (1) 開示請求と申立ては、原則として本人が行います。ただし、やむを得ない事由がある場合は、代理人を通じて行うことができます。
- (2) 共通教育科目の成績等開示請求の受付期間は、原則として前・後期の成績発表の日から7日以内としています。また、異議申立ては、履修科目の授業開始日に始まり、成績が発表された日から原則として7日以内までの期間に行えます。再異議申立ての場合も、異議申立てに対する回答書を受理してから原則として7日以内です。
- (3) 成績等開示請求をする場合は成績等開示請求書に、申立てをする場合は異議申立書・再異議申立書に必要事項を記入の上、共通教育係に提出してください。以上の内容について、詳しく知りたい場合は、共通教育係に問い合わせてください。

〔8〕単位互換制度

単位互換制度とは、他の大学、短期大学又は高等専門学校において授業科目を履修し、単位を修得した場合、一定の範囲内で本学の単位として認定する制度です。

本学では、以下の単位互換制度を設けていますが、それ以外に学部で行っている単位互換制度もありますので、所属学部の窓口で確認してください。

単位互換制度を利用して、履修可能な単位数及び卒業要件単位として認定される単位数は、各自の所属する学部によって取扱いが異なりますので、所属学部の学生担当窓口で確認してください。

1 鹿児島県における大学等間の授業交流（単位互換）「KRICEキャンパス鹿児島」 (※①)

鹿児島県内の6大学、5短期大学および1高等専門学校(※②)が提供している授業科目の中から、科目開設校(※③)で履修し単位を修得すれば、鹿児島大学の単位として認定されます。

※①「KRICE(クライス)」とは、Kagoshima(鹿児島)Regional(地域)Intercollegiate(大学間)Credit(単位)Exchange(互換)の頭文字による名称です。

※②参加大学等：鹿児島大学・鹿屋体育大学・鹿児島国際大学・鹿児島純心女子大学・志学館大学
・第一工業大学・鹿児島県立短期大学・鹿児島純心女子短期大学・鹿児島女子短期大学・第一幼児教育短期大学・鹿児島工業高等専門学校

※③授業科目を提供する大学等。

2 鹿児島大学と放送大学との間における単位互換

この単位互換制度は、鹿児島大学および放送大学で開講する授業科目を双方の大学の規則に定めるところにより、両大学の学生が相手大学の授業科目を履修し、単位を修得することを認める制度です。

時間に縛られず、場所の制約を受けずに本学にない内容の授業科目を履修したい、自分に深く関連する授業科目を履修したいなどの活用方法がありますので、積極的に利用してください。

放送大学の授業が行われる科目は、印刷教材(テキスト)が用意され、インターネットによる放送授業の視聴と印刷教材による学習を併せて進めます。単位認定試験は、定められた期間のうちの1コマを使い、学内で実施されます。

放送大学の入学料の徴収はありません。また、授業料に関しても予算の都合上、年間100名までは自己負担がありませんが、学生1人当たり、前・後期各1科目を限度とします。

なお、単位互換制度を利用して放送大学の授業科目を履修しようとする場合は、所定の期日までに、「出願票」、「入学願書(鹿児島大学学生用)」を共通教育係に提出してください。

詳細は、「鹿児島大学ホームページ」→「教育・学生生活」→「単位互換制度(県内大学等・放送大学)」を参照してください。

XI 学生生活

〔1〕 学生生活上の相談

学生生活で生じたどのような問題でも、気軽に「学生何でも相談室」へ申し出てください。相談内容により、所属する学部を担当教員、教務委員、学生生活委員などへ連絡して、親切に相談に応じるようにします。

1 修学および学生生活一般

修学および学生生活一般に関する総括的な指導・助言を担当する教員が各学部にありますので、所属学部の学生担当窓口を通して相談することもできます。

<学生何でも相談室等の案内>

充実した学生生活が送れるように、共通教育棟1号館2階に「学生何でも相談室」が設置されています。「学生何でも相談室」は、学生生活をする上で、例えば、セクシュアルハラスメントの相談や事件・事故などにまきこまれた場合の相談など、困っていることや悩んでいることについての相談窓口となっています。

相談員として、各学部学生生活委員および学生生活課職員が対応していますので、気軽に相談してください。

「学生何でも相談室」 電話 099-285-7311

また、次のような相談は下記の部署で応じています。

共通教育科目等の履修・成績に関する相談 「共通教育課共通教育係」
電話 099-285-3453・3454

奨学金の相談 「学生生活課経済支援第一係」
電話 099-285-8154

授業料免除の相談 「学生生活課経済支援第二係」
電話 099-285-7033・7312

就職関係の相談 「就職支援センター」
電話 099-285-7341・7321

<障害学生支援センター>

「障害学生支援センター」では、学生生活につまずきを感じている学生や障害のある学生からの修学に関わる相談に応じています。必要に応じ配慮申請の手続きを行っています。

修学の相談・支援の申請 「障害学生支援センター」
電話 099-285-3287

2 担任教員等

各クラス又はクラス内の一定人数ごとに担任教員・助言指導教員が配置されており、修学に関する諸事項、授業料免除や奨学金に関する諸事項、休・退学や進路に関する諸事項などについて助言・指導を行います。とくに学期末にGPAが低い成績不振者に対する助言・指導を行うなど、適切な学生生活を維持するための良きアドバイザーとして活動しますので、学生は進んで遠慮なく担任教員等に相談してください。

2019年度入学生 クラス担任教員等

学部	学科等	組	学籍番号 (学科等、番号)	担任教員等
法文学部	法経社会学科(法学)	1	62001～	米田 憲市・眞砂 康司
				大野 友也・齋藤 善人
				志田 惣一・木村 朗
				鳥飼 貴司・宇那木正寛
				松田 忠大・中島 宏
				南 由介・植本 幸子
				上原 大祐・伊藤 周平
		阿部 純一・森尾 成之		
	法経社会学科(地域社会・経済)	2	63001～	王 鏡凱
				片桐 資津子
				北崎 浩嗣
				城戸 秀之
				桑原 司
				林田 吉恵
				日野 道啓
				松川 太一郎
	人文学科(多元地域文化・心理学)	3	64001～	金井 静香
				多田 蔵人
				石田 智子
			65001～	榊原 良太
	教育学部	学校教育教員養成課程 初等教育コース	1	67001～
				笠井 高人
				内ノ倉 真吾
				深川 和良
				濱沖 敢太郎
		稲垣 勉		
学校教育教員養成課程 中等教育コース		2	68001～	亀井 森
	69001～		新名 隆志	
	74001～		濱崎 孔一郎	

教育学部	学校教育教員養成課程 中等教育コース数学	3	70001～	山口 武志
	学校教育教員養成課程 中等教育コース理科		71001～	川西 基博
	学校教育教員養成課程 中等教育コース技術		72001～	深川 和良
	学校教育教員養成課程 中等教育コース家政	4	73001～	黒光 貴峰
	学校教育教員養成課程 実技系初等中等教育コース音楽		75001～	山下 晋
	学校教育教員養成課程 実技系初等中等教育コース美術		76001～	池川 直
	学校教育教員養成課程 実技系初等中等教育コース保健体育		77001～	前田 雅人
	特別支援教育教員養成課程		63001～	雲井 未歎
理学部	数理情報科学科	1	51001～	小櫃 邦夫
				吉田 拓真
	物理科学科		52001～	秦 重史
				永山 貴宏
	生命化学科	2	53001～	岡村 浩昭
				有馬 一成
地球環境科学科	54001～		河野 元治	
			上野 大輔	
医学部	医学科	1	10001～	(助言指導教員)
	保健学科 (看護学専攻)	2	21001～	根路銘 安仁
				兒玉 慎平
				西本 大策
	保健学科 (理学療法学専攻)		22001～	大渡 昭彦
				松田 史代
保健学科 (作業療法学専攻)	23001～		築瀬 誠	
		井上 和博		
歯学部	歯学科	1	10001～	田松 裕一
				西谷 登美子
工学部	機械工学科	1	21001～	駒崎 慎一
				中尾 光博
	電気電子工学科	2	22001～	前島 圭剛
			情報生体システム工学科	29001～
	建築学科	3	23001～	黒川 善幸
			海洋土木工学科	25001～
	環境化学プロセス工学科	4	28001～	武井 孝行
化学生命工学科			30001～	上田 岳彦

農学部	農業生産科学科		1	31001～	清水 圭一
					後藤 貴文
	食料生命科学科		2	32001～	赤木 功
	農林環境科学科		3	33001～	畑 邦彦
水産学部	国際食料資源学 特別コース	農学系サブコース	2	41001～	遠城道雄、坂上潤一、 Mun' de C. M Vestergaard 藪田伸
		水産学系サブコース		70001～	石崎宗周、鬼頭景子、 VAZQUEZ ARCHDALE, Miguel (ミゲル)
	水産学科		1	50001～	中村 啓彦
				50016～	西 隆一郎
				50031～	江幡 恵吾
				50046～	小谷 知也
				50061～	西 隆昭
	水産学科		2	50076～	加藤 早苗
				50091～	進藤 穰
				50106～	佐久間 美明
50121～				吉川 毅	
共同獣医学部	獣医学科		1	10001～	浅野 淳

※学籍番号は、以下のように10桁の数値から成り立っています。

○○ ○○ ○○ ○○○ ○
 学部 入学年度 学科等 番号 チェックデジット

〔2〕 諸願・届および注意事項

学生生活を送る上で必要な事項や諸手続きは、「学生便覧」にも記載されています。詳細については、指定された学生担当窓口にお問い合わせください。

1 学生の身分異動等

(1) 学生カード

本学在学学生は、学生カードの登録が必要となっていますので、学務WEBシステムから登録してください。

また、登録後、住所・メールアドレスや電話番号等の変更があった場合は、学生カードの登録内容の変更も忘れずに行ってください。

(2) 学生証の再交付

学生証は必ず携帯しなければなりません。

学生証を紛失、汚損したときは、直ちに学務WEBシステムで再発行の申請を行い、生協本部または生協桜ヶ丘店で購入してください。(費用は自己負担となります。)

(3) 休学

正当な事由によって2カ月以上修学できない場合は、所属学部の学生担当窓口申し出た後、担任教員に相談した上、「休学願」(所定の用紙)を提出してください。病気の場合は、医師の診断書が必要です。

(4) 復学

休学期間中にその事由が解消されたときは、所属学部の学生担当窓口「復学願」を提出してください。病気で休学した場合は、医師の診断書が必要です。

(5) 退学

退学を願い出るときは、所属学部の学生担当窓口申し出た後、担任教員に相談した上、所定の書類により手続きを取ってください。病気の場合は、医師の診断書が必要です。

(6) 欠席届

やむを得ず講義を欠席する(した)ときは、欠席届を各自で受講している講義の担当教員に提出してください。(様式はp. 84にあります)また、連続して3週間以上欠席する場合は、所属学部の学生担当窓口理由書(病気の場合は医師の診断書)を添付して欠席届を提出してください。

2 証明書などの発行

(1) 在学証明書、卒業(修了)見込証明書、成績証明書、健康診断証明書、学割証の発行 IC学生証を用いて証明書発行機で発行してください。

学生カード未登録、学生証不携帯や有効期限切れの場合は利用できません。

<証明書発行機設置場所>

(郡元)大学会館、中央図書館、教育学部第一講義棟、農・獣医共通棟

(下荒田)水産学部講義棟 (桜ヶ丘)桜ヶ丘会館

(2) 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)の発行

実習、見学、教育活動、就職試験、帰省等の目的でJR各社の区間を片道100kmを超えて乗車する場合、1人あたり1年間(4月~翌年3月)10枚を限度として証明書発行機で学割証の交付を受けることができます。有効期限は3カ月です。学割証を使用する

際は、学割証裏面の使用上の注意をよく読み、絶対に不正に使用しないでください。

なお、1年間（4月～翌年3月）10枚を超える場合は、所属学部の学生担当窓口に理由を付して申し出てください。

（3）通学証明書の発行

市電、市バス、JR、南国交通、鹿児島交通、その他の交通機関の定期券購入希望者は、通学証明書を窓口で発行します。3期（ただし、医学部医学科、歯学部、共同獣医学部は2期）までは共通教育係窓口で、4期以降は所属学部の学生担当係窓口で手続きしてください。

3 車両等による通学

やむを得ず自動車で通学しようとする学生は、所属学部の学生担当窓口で手続を行い、所属学部長から入構許可を受けてください。自動二輪車または原動機付自転車で通学しようとする学生は、指定された二輪車専用駐輪場に駐輪してください。

（1）入構許可申請のできる者

- ① 在籍する学部4年生、博士前期課程学生（修士課程含む）、専門職大学院学生等。
- ② 通学距離が10km以上の者。
- ③ 本人が当該自動車の所有者である者。
- ④ 公共交通機関による通学が著しく不便である、または実験・実習等で自動車が特に必要であると認められた者。
- ⑤ 身体の障害で自動車によらなければ通学が困難な者。

（2）入構許可申請時の添付書類

自動車検査証の写し。

（3）構内での遵守事項

- ① 自動二輪車および原動機付自転車は、構内で運転することは禁止します。駐輪場は、外部の道路から直接入れる場所に設置されているので、必ず利用すること。
- ② 入構許可証は、所定の位置に掲示すること。
- ③ 本学の行事、または緊急事態等に際して臨時に車両の運行を規制する時は、それに従うこと。

（4）その他

遵守事項に違反し、交通指導員の指示に従わない時は、入構許可を取り消すことがあります。

4 健康の維持

（1）学生定期健康診断

学生の定期健康診断は、「鹿児島大学学生規則」に基づき実施しているので、必ず受診してください。実施上の詳細については、履修申請時に行われる学生定期健康診断の予約説明会に必ず出席してください。また、メール・掲示板等も確認してください。

（2）診療

大学内で急に気分が悪くなったり、ケガをしたり、休養などの必要がある場合は、遠慮なく保健管理センターに相談してください。

5 共通教育棟の施設の利用（パソコンの利用など）

(1) パソコン教室の案内と利用について

共通教育棟1号館2階と3階には123・134・135・136・137号情報教育教室（以下、パソコン教室）があり、約200台のパソコンが設置されています。学生の皆さんは、休業期や土日祝日を除いた平日の8時50分から17時00分までの間、指定された教室を自習利用としてパソコンを利用することができます。自習利用に開放する教室は共通教育の掲示板に掲示しますが、利用に際しての手続きは必要ありません。

パソコン教室は鹿児島大学の重要な教育施設です。また、多くの学生が教育や研究で活用していますので、基本的なマナーを守り、大切に使用してください。

なお、同様に利用できるパソコンが学術情報基盤センターや附属図書館（中央図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館）にも設置されています。土日も開放していますので共通教育棟のパソコン教室が利用できない時は利用してください。

(2) 利用方法や利用するときの注意とマナーについて

- ① パソコンを利用するためには、鹿児島大学IDとパスワードが必要です。入学時、各学部オリエンテーションで「鹿児島大学ID・パスワード設定コード通知書」が配付されます。パスワード設定コードの有効期限内に各自でパスワードを設定し、鹿児島大学IDを有効にしてください。設定したパスワードは、他人に知られることがないように厳重に管理してください。
- ② 鹿児島大学IDのパスワードを忘れた場合は、事前に鹿児島大学IDマイページにて[連絡先メールアドレス]または[秘密の質問]を設定していると、自身でパスワードを再設定できます。設定されていなかった場合は、各学部学生係または学術情報基盤センター窓口にて鹿児島大学ID手続依頼書に記入の上、学生証を提示してください。パスワード設定コードを再発行し、通知します。
- ③ パソコン教室の自由利用について、利用するときの手続きは特に必要ありません。ただし、授業が行われておらず、かつ利用が許可されている部屋に入室してください。
- ④ 共通教育棟のパソコン教室は土足のまま入室できますが、教室の美化に協力してください。また、教室内は、機器保護のため飲食物持ち込み及び飲食は禁止です。
- ⑤ パソコンの故障が疑われる場合は、共通教育係に連絡してください。
- ⑥ 教育・研究以外でのパソコンの利用やパソコン等を用いての違法行為（ファイル交換ソフトや違法コピーによる著作権侵害、不正アクセスなど）は当然禁止です。もし発覚した場合は、利用資格の停止や制限、さらに懲戒処分などの措置をとることもあります。

6 その他

(1) 遺失物について

共通教育係に遺失物が届けられることがありますので、心当たりがある場合は申し出てください。

(2) 共通教育係の窓口

業務時間は午前8時30分から午後5時までとなります。（土日祝日、年末年始等の大学の休業日を除く）

共通教育科目および学芸員資格の成績や履修に関する重要なことは、直接窓口で問い合わせてください。また、学生の電話口への呼び出しには応じられません。

(3) 掲示について

共通教育の主な連絡事項（行事予定、履修、成績、集中講義、学芸員科目、学部からの案内等）は、原則として共通教育棟1号館南側の掲示板に掲示します。

ただし、「開設授業科目一覧、教室割、体育や英語等のクラス分け一覧表」は、共通教育棟1号館ロビー内（ボランティア支援センター入口の反対側）の掲示板に掲示します。

(4) 奨学金について

① 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構は、学業成績が優秀であり、経済的な理由により修学が困難な学生に対し、学資の貸与などを行っている団体です。第一種奨学金（無利子）と第二種奨学金（有利子）があり、第一種奨学金と第二種奨学金の併用貸与も可能です。

種類	貸与月額（平成30年度）	備考
第一種 （無利子）	自宅通学者 20,000 円、30,000 円、45,000 円 自宅外通学者 20,000 円、30,000 円、40,000 円、 45,000 円、51,000 円	自宅外の学生は自宅月額を選択できる
第二種 （有利子）	20,000 円～120,000 円（10,000 円単位で選択）	利率は最大年 3.0%まで

なお、高等学校等で申請手続きを行い、大学入学後に各種手続を行う給付奨学金の制度もあります。

② その他の奨学金

日本学生支援機構奨学金以外にも、都道府県市町村奨学金や各種団体奨学金があり、本人が直接出願するものと、大学を通して出願するものがあります。なお、団体によっては日本学生支援機構やその他の奨学金との重複採用を認めないことがあります。

(5) 授業料免除

授業料免除は、経済的理由により授業料の納付が著しく困難であると認められるものに対し、選考のうえ授業料の全額または半額を免除する制度です。選考は本人の申請に基づき行い、選考結果が判明するまでの間は、授業料の納付が猶予されます。

(6) 教室の使用

課外活動のため教室の使用を希望する場合は、使用する3日前までに共通教育係へ使用願を提出し、承認を得てください。使用できる教室と時間は原則として次のとおりです。

使用できる教室 共通教育棟1号館および2号館

使用できる時間 月曜日～金曜日 18時～21時

〔3〕台風等非常時における授業・学期末試験等の取扱い

鹿児島県薩摩地方に警報（暴風警報、大雨警報、洪水警報等）が発令された場合、または、不測の事態が生じた場合は、事故防止のため、授業・学期末試験等（以下「授業等」という。）の取扱いを、次のとおりとします。

（1）授業等が休講となる場合

午前6時30分の時点で、警報が発令され、かつ、市電または路線バスが運行を見合わせている（運休を含む）場合は、午前中の授業等を休講とします。ただし、午前11時時点で、警報が解除され、かつ、市電または路線バスが運行した場合は、午後から授業等を行います。

なお、午前11時の時点で、警報が継続し、かつ、市電または路線バスが運行を見合わせている（運休を含む）場合は、午後の授業等も休講とします。

（2）授業等が休講となった場合の周知方法

学務WEBシステムにより休講通知を行い、鹿児島大学ホームページおよびテレビ・ラジオにより周知します。なお、休講の通知等がない場合であっても、（1）の休講となる場合の取り扱いに基づき、登校するかどうかを各自で判断し、身の安全の確保を最優先してください。

（3）その他

- ① 授業等が休講とならなかった場合でも、公共交通機関の運休等の影響を受け、やむを得ず授業等を欠席（遅刻）したときは、不利益が生じないように取り扱うものとします。
- ② 警報は、鹿児島地方気象台の発表によるものとし、警報の発令・解除および市電・路線バスの運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道により確認してください。
- ③ 研究指導など少人数の授業は、担当教員と学生が合意した上で授業を行うことがあります。
- ④ 教育実習、病院実習、介護等体験実習、または、インターンシップ等は、各受け入れ先の指示に従うものとします。

XII 転学部について

本学では、他の学部に転学部を志願する者があるときは、関係学部の定めるところにより、転学部を許可することがあります（学則第35条）。ただし、次のとおり学部ごとに条件が異なっているため、当該学部で確認してください。

法文学部 他学部からの転入は、当該学科・コースの教育・研究に支障のない限り、教授会の議を経て認めることがある。また、他学部への転出は、特別な事情がある場合に限り、教授会の議を経て許可することがある。

教育学部 他学部からの転入は、入学年次の定員に欠員がある場合に限り、教授会の議を経て認めることがある。また、他学部への転出は、特別な事情がある場合に限り、教授会の議を経て認めることがある。

理学部 他学部からの転入は、教授会において審議の上、認めることがある。また、他学部への転出は教授会において審議の上、許可することがある。

医学部 他学部からの転入は原則として認めない。他学部への転出を志望する者があるときは当該学部の定めるところによりこれを許可することがある。

歯学部 他学部からの転入は原則として認めない。他学部への転出は、教授会の議を経て許可することがある。

工学部 他学部からの転入は、当該学科の教育・研究に支障のない限り、当該学科で審査の上、教授会の議を経て許可することがある。また、他学部への転出は教授会の議を経て許可することがある。

農学部 他学部への転出、他学部からの転入は、教授会の議を経て認める。転入については、入試の成績が志望学科の合格最低点以上の者だけ願いを受理し、当該学科の在学生の修業に支障がない限りにおいて許可することがある。

水産学部 他学部からの転入は、欠員がある場合に限り、選考の上、教授会の議を経て許可することがある。また、他学部への転出は、教授会の議を経て許可することがある。

共同獣医学部 他学部からの転入は原則として認めない。他学部への転出を志望する者があるときは当該学部の定めるところによりこれを許可することがある。

鹿児島大学共通教育科目履修規則

鹿児島大学共通教育科目試験規則

鹿児島大学共通教育センター科目等履修生に関する細則

鹿児島大学共通教育科目既修得単位認定規則

鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則

鹿児島大学共通教育科目履修規則

平成16年4月1日

規則第115号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則(平成16年規則第86号。以下「学則」という。)第38条第7項の規定に基づき、鹿児島大学(以下「本学」という。)における共通教育科目の履修方法等について、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の開講期)

第2条 授業科目の開講期は、原則として次のとおりとする。

前期 4月1日～9月30日

後期 10月1日～翌年3月31日

(共通教育科目の区分)

第3条 共通教育科目の区分は、別表第1から別表第3までのとおりとする。

2 共通教育科目に係る授業科目名、単位数、講義内容及び開講期は、別に定める。

(開放科目)

第4条 学生は、各学部が開設する専門教育科目のうち、他学部の学生に受講を開放する授業科目(以下「開放科目」という。)を履修することができる。

2 前項の規定により学生が開放科目を履修する場合、教養教育科目として履修するものとする。ただし、共同獣医学部にあつては、卒業要件単位とならない自由単位の科目として履修するものとする。

(授業期間)

第5条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の計算)

第6条 各授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法、当該授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験及び実習については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(学部別卒業要件単位数等)

第7条 各学部における共通教育科目の卒業要件単位数及び履修方法は、別に定める。

(外国人留学生の履修の特例)

第8条 外国人留学生(共同獣医学部の外国人留学生を除く。)に係る日本語・日本事情科目の履修については、日本語4単位及び日本事情4単位を修得しなければならない。この場合において、日本事情の4単位は、人文・社会科学分野(選択科目)、統合Ⅰ又は統合Ⅱの単位に読み替えることができる。

(授業時間割及び履修申請)

第9条 開設する授業科目の時間割及び担当教員は、各期の履修登録日の前に公示する。

2 学生は、受講する授業科目を選定のうえ履修計画を作成し、各期の始めの所定の期日に履修申請をしなければならない。

3 履修申請し受講の承認を得ていない授業科目については、単位の認定を受けることができない。

4 履修登録の変更は、原則として認めない。ただし、次の各号の一に該当する場合は、履修登録を取り消すことができるものとする。

(1) 病気や怪我などで長期欠席となるために、医師の診断書を添付して履修登録取消申請をした場合

- (2) 履修登録の確定後3週間以内に、履修登録取消申請をした場合
- 5 同じ授業科目が、同一時間帯に複数開設される場合、指定された授業クラス以外の受講は、原則として認めない。

(再履修)

第9条の2 成績評価の認定が不合格となった科目又は単位を修得した後に第10条の2に定めるグレード・ポイント(以下「GP」という。)の値を更新しようとする科目は、再履修の申請を行うことができるものとする。

- 2 再履修の申請は、原則として前条第2項に基づく履修申請よりも優先して登録されるものとし、再履修が確定した時点で、当該科目の成績評価は削除する。
- 3 再履修登録の変更は、前条第4項第1号に定める場合を除き、認めない。
- 4 再履修に関し必要な事項は、別に定める。

(試験及び単位認定)

第10条 授業科目を履修した学生に対しては、授業総時数の3分の2以上出席した場合に限り、シラバスに記載された方法で試験を行い、合格した者には、単位を認定する。

- 2 試験及び認定単位に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 学則第44条の2の規定により、共同獣医学部の学生が、山口大学が開設する共同教育課程に係る授業科目の履修により修得した単位は、本学の教育課程において修得したものとみなすものとする。

(GPA制度による成績評価)

第10条の2 共通教育科目の成績評価は、グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。)制度により行い、シラバスに記載された学習目標と評価基準及び方法に基づき、学習達成度を評価する。

- 2 各学期、1年間及び入学後のGPAはそれぞれ、学期GPA、年間GPA及び通算GPAと称する。
- 3 各科目の学習達成度のGPの値及びGPAの算出方法は、別表第3のとおりとする。
- 4 履修登録確定後に放棄した科目の評価は不合格とし、成績原簿に記録する。
- 5 GPA制度に基づき、成績優秀者に対する表彰及び成績不振者に対する助言・指導を行う。
- 6 前項の表彰及び助言・指導に関し必要な事項は、別に定める。

(1年次入学前の既修得単位の認定)

第11条 本学入学前に他の大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学における共通教育の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学入学前に行った大学の専攻科、短期大学の専攻科、高等専門学校の専攻科又は高等専門学校の課程における学修について、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、共通教育科目及び専門教育科目の単位について学則第45条に規定する単位と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 単位の認定方法等については、別に定める。
- 5 編入学、転学等の場合における共通教育科目の既修得単位の認定については、各学部において定める。

(技能審査合格者等の単位認定)

第12条 本学が認定した技能審査等に合格又は一定の成績を修めた各学部(共同獣医学部除く。)の学生について、教育上有益と認めるときは、当該技能審査等の成果を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項の本学が認定した技能審査等は、次のとおりとする。
- (1) 実用英語技能検定
- (2) TOEIC L&R及びTOEIC S&W (TOEIC L&Rに関して、IPテストを含む。)

※4技能(聞く、話す、読む、書く)試験

- (3) TOEFL(iBT)
 - (4) IELTS
 - (5) ケンブリッジ英語検定
 - (6) ドイツ語技能検定
 - (7) ゲーテ・インスティトゥート検定試験
 - (8) オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験
 - (9) テスト・ダフ(TestDaF)
 - (10) 実用フランス語技能検定試験
 - (11) フランス国民教育省・フランス語学力テスト(TCF)
 - (12) フランス国民教育省・フランス語学力資格試験(DELF / DALF)
 - (13) 中国語検定試験
 - (14) 漢語水平考試(HSK)
 - (15) ハングル能力検定試験
 - (16) 韓国語能力試験
- 3 第1項の規定により履修とみなし、与えることができる単位数は、前条第3項に規定する単位数に含めるものとする。
- 4 単位の認定方法等については、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、在学する学生は、改正後の第8条の2、第9条第4項ただし書き、第9条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生は、改正後の第12条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する農学部獣医学科の学生については、改正後の規則(第9条を除く。)にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生に対しては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第12条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第8条第1号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
 2 この規則の施行日の前日において在学する学生に対しては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。
 2 この規則の施行日の前日において在学する者については、改正後の第6条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
 2 平成28年3月31日において在学する者については、改正後の第3条第1項、第10条の2第3項、別表第3及び別表第4の規定にかかわらず、なお従前の例による。
 3 この規則の施行日の前日において在学する者については、改正後の第12条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1(第3条関係)

法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部

大分類	中分類	小分類
必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーⅠ 初年次セミナーⅡ 大学と地域 体育・健康(理論) 体育・健康(実習) 情報活用
	グローバル教育科目	英語 異文化理解
	日本語・日本事情	日本語
日本事情		
選択必修科目	教養教育科目 (教養基礎科目)	人文・社会科学分野(初修外国語) 人文・社会科学分野(選択科目) 自然科学分野(実験科目) 自然科学分野(選択科目) 自然科学分野(基礎教育入門科目)
	教養教育科目 (教養活用科目)	統合Ⅰ(課題発見) 統合Ⅱ(課題解決)
卒業要件外科目	高度共通教育科目	プログラム科目 実地体験事前演習 実地体験 プログラム修了演習
	学芸員資格科目	学芸員資格

備考1：初年次セミナーⅡは、原則として一般学生を対象とする。

備考2：日本語・日本事情は、原則として外国人留学生を対象とする。

別表第2(第3条関係)
共同獣医学部

共通教育科目	一般教養教育科目
	体育・健康科目
	初期教育科目
	外国語科目

備考：共同獣医学部規則別表第1に規定する履修課程表にない共通教育科目の授業科目を履修し、修得した単位は、自由単位とする。

別表第3(第3条関係)

高度共通教育科目	プログラム科目 実地体験事前演習 実地体験 プログラム修了演習
----------	------------------------------------------

備考1：高度共通教育科目の単位は、共通教育科目の卒業要件外単位とする。

備考2：高度共通教育科目の単位は、各学部において、専門教育科目の卒業要件単位に認定することができる。

別表第4(第10条の2関係)

項目	学習達成度	評語	GPの値
成績評価及び評語	90%以上	A	4点
	80%以上90%未満	B	3点
	70%以上80%未満	C	2点
	60%以上70%未満	D	1点
	60%未満	F	0点
単位認定科目及び他大学等単位互換により単位を修得した科目の成績評価	認定	P	
GPAの算出方法	$(\text{学期} \cdot \text{年間} \cdot \text{通算}) \text{GPA} = (4 \times n_A + 3 \times n_B + 2 \times n_C + 1 \times n_D + 0 \times n_F) / (n_A + n_B + n_C + n_D + n_F)$ 注) n_A 、 n_B 、 n_C 、 n_D 、 n_F は、それぞれ当該期間に履修した科目のA、B、C、D、Fに対応する総単位数とする。		

鹿児島大学共通教育科目試験規則

平成16年4月1日
規則第142号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学共通教育科目履修規則（平成16年規則第115号）第10条第2項の規定に基づき、試験に関し必要な事項を定めるものとする。

(試験の受験資格)

第2条 試験は、授業科目の授業総時数の3分の2以上出席した場合に限り、受験することができる。ただし、授業総時数の3分の2以上出席していない場合であっても、担当教員が特に必要と認めたときは、補講を受講した上で受験することができるものとする。

(単位の認定)

第3条 授業科目を履修した学生に対しては、シラバスに記載された学修目標の達成度を評価するため、当該科目の成績評価基準に基づき試験を行い、合格した者に単位を認定する。

(方法)

第4条 試験は、筆記試験、小テスト、レポート、実技及び作品等の方法により総合的に行う。

(成績の評価)

第5条 成績の評価は、評点又は評語をもって表し、可否の認定は、次の基準によるものとする。ただし、成績の報告は評点で行う。

学習達成度	評点	評語	認定
90%以上	100点～90点	A	合格
80%以上90%未満	89点～80点	B	合格
70%以上80%未満	79点～70点	C	合格
60%以上70%未満	69点～60点	D	合格
60%未満	59点～0点	F	不合格

単位認定科目及び他大学等単位互換により単位を修得した科目の成績評価は、P（認定）の評語で表す。

(発表)

第6条 試験の結果は、成績通知表によって発表する。

(追試験)

第7条 やむを得ない事情によって試験を受験できなかった者に対して、追試験を行うことがある。

2 追試験を受けようとする者は、担当教員の承認を得て追試験願を提出しなければならない。

(再試験)

第8条 試験の結果、合格しなかった者に対して再試験を行うことがある。

2 再試験を受験できる者は、成績通知表等により通知するものとする。

3 再試験においては、70点以上の成績は認定しない。

4 再試験の成績判定は、当該授業科目が行われた学期の次の学期に行う。ただし、再試験に合格した場合の単位は、当該授業科目が行われた学期の単位として認定する。

(不正行為の措置)

第9条 試験の際、不正行為の事実が確認された場合、原則として、当該期の共通教育科目の全受験科目を不合格（0点）とする措置をとる。

- 2 前項の不正行為を行った者については、鹿児島大学学則（平成16年規則第86号）第60条の規定により当該学部教授会の議を経て、学長が懲戒することがある。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、在学する学生は、改正後の第5条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、在学する学生は、改正後の第5条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成21年12月24日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、なお従前の例による。

鹿児島大学共通教育センター科目等履修生に関する細則

〔平成 16 年 4 月 1 日〕
制 定

(趣旨)

第 1 条 この細則は、鹿児島大学科目等履修生規則（平成 16 年規則 112 号）第 11 条の規定に基づき、共通教育科目を受講する科目等履修生（以下「履修生」という。）について必要な事項を定める。

(資格)

第 2 条 共通教育科目の履修を志願する者の資格は、鹿児島大学学則（平成 16 年規則第 86 号）第 30 条の規定を準用する。

(出願方法)

第 3 条 共通教育科目の履修を志願する者は、次に掲げる書類を添えて共通教育センター長に願出しなければならない。

- (1) 願書
- (2) 履歴書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
- (4) その他共通教育センターが必要と認めた書類

2 外国人の場合は、前項各号に掲げる書類のほか、旅券の写又は在留カードを提出しなければならない。

(出願期日)

第 4 条 出願は、共通教育センターの指定する期日までに行わなければならない。

(入学許可)

第 5 条 履修生の入学許可は、当該授業科目の担当教員の内諾を得た後、共通教育センター運営委員会の議を経て、共通教育センター長が行う。

(履修期間)

第 6 条 履修期間は、履修を許可された当該授業科目の開設期間とし、引き続き履修を志願する者は、その都度手続きを更新するものとする。

(単位の認定)

第 7 条 履修した授業科目については、別に定めるところにより試験を受けることができる。

2 前項の試験に合格した者には、所定の単位を認定する。

附 則

この細則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学共通教育科目履修規則(平成16年規則第115号)第11条第4項の規定に基づき、1年次入学前の既修得単位の認定について必要な事項を定める。

(申請期間)

第2条 本学に入学した年度に限り、入学前の既修得単位の認定を願い出ることができる。

(認定方法)

第3条 認定方法は、別表第1-1及び別表第1-2のとおりとする。ただし、卒業要件単位数を超えないものとする。

(認定の手続)

第4条 認定を希望する者は、認定願及び成績証明書等を所定の期日までに共通教育センター長に提出しなければならない。

- 2 認定願及び成績証明書等の提出日は、入学年度の4月1日及び共通教育センター長が定める7月の所定の期日とする。ただし、4月1日が日曜日若しくは土曜日又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この項において「日曜日等」という。)に当たる場合は、当該日の直後の日曜日等でない日とする。
- 3 単位の認定は、申請者の所属学部で内容の確認を行い、共通教育センター運営委員会の議を経て共通教育センター長が行う。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1-1 (第3条関係)

1年次入学前の既修得単位の認定方法(法文・教育・理・医・歯・工・農・水産学部)

科目枠組	必修科目									選択必修科目				
	初年次教育科目					グローバル教育科目		日本語・日本事情		教養教育科目				
	初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅡ	大学と地域	体育・健康		情報活用	英語	異文化理解	日本語	日本事情	教養基礎科目		教養活用科目	
				理論	実習						人文・社会科学分野	自然科学分野	統合Ⅰ(課題発見)	統合Ⅱ(課題解決)
学部	認定方法(認定できる上限単位数)													
法文学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	4単位	2単位	4単位	4単位	6単位	4単位	2単位	2単位
教育学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	4単位 ただし、英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBに限る。	2単位	4単位	2単位	6単位 イ. 選択科目については、4単位 ロ. 独語、仏語、中国語又は韓国語については、2又は3単位修得している者には、初級Ⅰの2単位を、4単位以上修得している者には、初級Ⅰ・初級Ⅱの4単位	4単位	2単位	2単位
理学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	数情報科学科は4単位 物理科学科及び地球環境科学科は6単位 生命化学科は8単位	2単位	4単位	4単位	4単位	4単位	4単位	
医学部(医学科)	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	4単位	2単位	4単位	4単位	4単位	5単位	4単位	
												※教養基礎科目、教養活用科目を合わせて6単位		
医学部(保健学科)	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	認定しない	2単位	4単位	2単位	4単位	4単位	6単位	6単位 (看護学専攻は4単位)	4単位	
												※教養基礎科目、教養活用科目を合わせて10単位		
歯学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	4単位	2単位	2単位
工学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	6単位	2単位 ※備考6	4単位	4単位	4単位 ※備考6	6単位 ※備考6	認定しない	認定しない
農学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	6単位	2単位	4単位	4単位	4単位	10単位	4単位	
	学特別コース 国際食料資源	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	5単位	2単位	4単位	4単位	4単位	9単位	4単位	
水産学部	認定しない	認定しない	認定しない	1単位	1単位	2単位	5単位	2単位	4単位	4単位	4単位	11単位	4単位	

備考

- 1 本学以外において修得した単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、30 単位（歯学部にあつては 18 単位）を超えることはできない。
- 2 本学において修得した共通教育の単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、各学部の判断で、上記表に掲げる認定単位数を超えて認めることができる。
- 3 本学において修得した共通教育の単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、上記表に掲げる認定しない科目を認めることができる。
- 4 教育職員免許状取得のために科目名（日本国憲法、体育・健康科学理論、体育・健康科学実習、英語 I A、英語 II A、英語 I B、英語 II B、初級独語 I、初級独語 II、初級仏語 I、初級仏語 II、初級中国語 I、初級中国語 II、初級韓国語 I、初級韓国語 II 及び情報活用）を特定する必要がある場合又は卒業要件を満たすために科目名を特定する必要がある場合を除き、科目名は特定しない。
- 5 卒業要件外科目（学芸員資格科目）及び高度共通教育科目の単位認定は行わない。
- 6 工学部については、異文化理解、人文社会科学分野（選択科目）及び自然科学分野は表中の単位数を上限とし、合わせて 10 単位までを既修得単位として認定する。

別表第 1-2（第 3 条関係）

1 年次入学前の既修得単位の認定方法（共同獣医学部）

一般教養教育科目	初期教育科目	外国語科目	体育・健康科目
6 単位以内 (必修科目を除く。)	認定しない	認定しない	体育・健康理論、体育・健康実習それぞれ 1 単位

備考

- 1 本学以外において修得した単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、8 単位を超えることはできない。
- 2 本学において修得した単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、学部の判断で、上記表に掲げる認定単位数を超えて認めることができる。
- 3 本学において修得した共通教育の単位を、共通教育科目の既修得単位として認定する場合は、上記表に掲げる認定しない科目を認めることができる。
- 4 卒業要件を満たすために科目名を特定する必要がある場合を除き、科目名は特定しない。
- 5 卒業要件外科目（学芸員資格科目）及び高度共通教育科目の単位認定は行わない。

鹿児島大学共通教育グローバル教育科目群及び教養基礎科目群における技能審査合格者等の単位認定規則

平成16年4月1日

規則第144号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学共通教育科目等履修規則(平成16年規則第115号)第12条第4項の規定に基づき、技能審査合格者等の単位認定について必要な事項を定める。

(認定基準)

第2条 単位が認定できる技能審査等及び与える単位数は、次のとおりとする。

言語	技能審査等の名称	級位又は得点	認定単位
英語	実用英語技能検定	a. 1級	4単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. 準1級	2単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
	TOEIC L&R及びTOEIC S&W (TOEIC L&Rに関して、IPテストを含む) ※4技能(聞く、話す、読む、書く)試験	a. 1305～1390点 L&R 945点～ S&W 360点～	4単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. 1095点～ L&R 785点～ S&W 310点～	2単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
	TOEFL(iBT)	a. トータルスコア95～120点 各セクションスコア22点以上	4単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. トータルスコア72～94点 各セクションスコア17点以上	2単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
	IELTS	a. オーバーオール・バンド・スコア7.0～8.0点 各パート7.0点以上	4単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. オーバーオール・バンド・スコア5.5～6.5点 各パート5.5点以上	2単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
	ケンブリッジ英語検定	a. CAE (180-199点)	4単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
		b. FCE (160-179点)	2単位以内(英語IA・IIA・IB・IIB)
独語	ドイツ語技能検定試験	a. 3級から1級	4単位(初級独語I・II)
		b. 4級	2単位(初級独語I)
	ゲーテ・インスティトゥート検定試験	a. SD 2 (A2)からGDS (C2)	4単位(初級独語I・II)
		b. SD 1 (A1)	2単位(初級独語I)
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 テスト・ダフ(TestDaF)	a. GD 2 (A2)からWD (C2)	4単位(初級独語I・II)	
	b. GD 1 (A1)	2単位(初級独語I)	
仏語	実用フランス語技能検定試験	a. 4級から1級	4単位(初級仏語I・II)
		b. 5級	2単位(初級仏語I)
	フランス国民教育省・フランス語学力テスト(TCF)	a. A2、B1、B2、C1、C2	4単位(初級仏語I・II)
		b. A1	2単位(初級仏語I)
	フランス国民教育省・フランス語学力資格試験(DELF/DALF)	a. A2、B1、B2、C1、C2	4単位(初級仏語I・II)
b. A1		2単位(初級仏語I)	
中国語	中国語検定試験	a. 4級から1級	4単位(初級中国語I・II)
		b. 準4級	2単位(初級中国語I)
	漢語水平考試(HSK)	a. 3級から6級	4単位(初級中国語I・II)
		b. 1級、2級	2単位(初級中国語I)
韓国語	ハングル能力検定試験	a. 4級から1級	4単位(初級韓国語I・II)
		b. 5級	2単位(初級韓国語I)
	韓国語能力試験	a. 2級から6級	4単位(初級韓国語I・II)
		b. 1級	2単位(初級韓国語I)

※ 級位又は得点欄に付されている記号(a. b.)は、同じ記号であれば級位又は得点が同一であるとみなす。

※ 独語、仏語、中国語、韓国語の級位又は得点にaが付されているものは、2単位申請も可能である。

(申請)

第3条 単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に検定試験合格証書等の必要書類を添えて共通教育センター長に提出しなければならない。

2 申請できる単位数は、既修語・初修語それぞれ最大4単位までとする。

3 申請は、各言語において同一の級位又は得点について1回限りとする。

4 技能審査の資格又は成績は、申請期間の開始日において資格取得等の日から2年を経過しないものを有効とする。

5 実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、IELTS若しくはケンブリッジ英語検定で得た資格又は成績を同時に複数利用することはできない。

6 申請期間は、原則として前期は4月1日から4月20日まで、後期は10月1日から10月20日までとする。

(単位認定)

第4条 単位の認定は、外国語教育部門会議の議を経て共通教育センター運営委員会で行う。

2 単位を認定された者の成績は「認定」とする。

3 認定の結果は、通知する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生は、改正後の第3条第4項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生に対しては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第2条及び第3条第3項の規定に関わらず、なお従前の例による。

附 則

1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

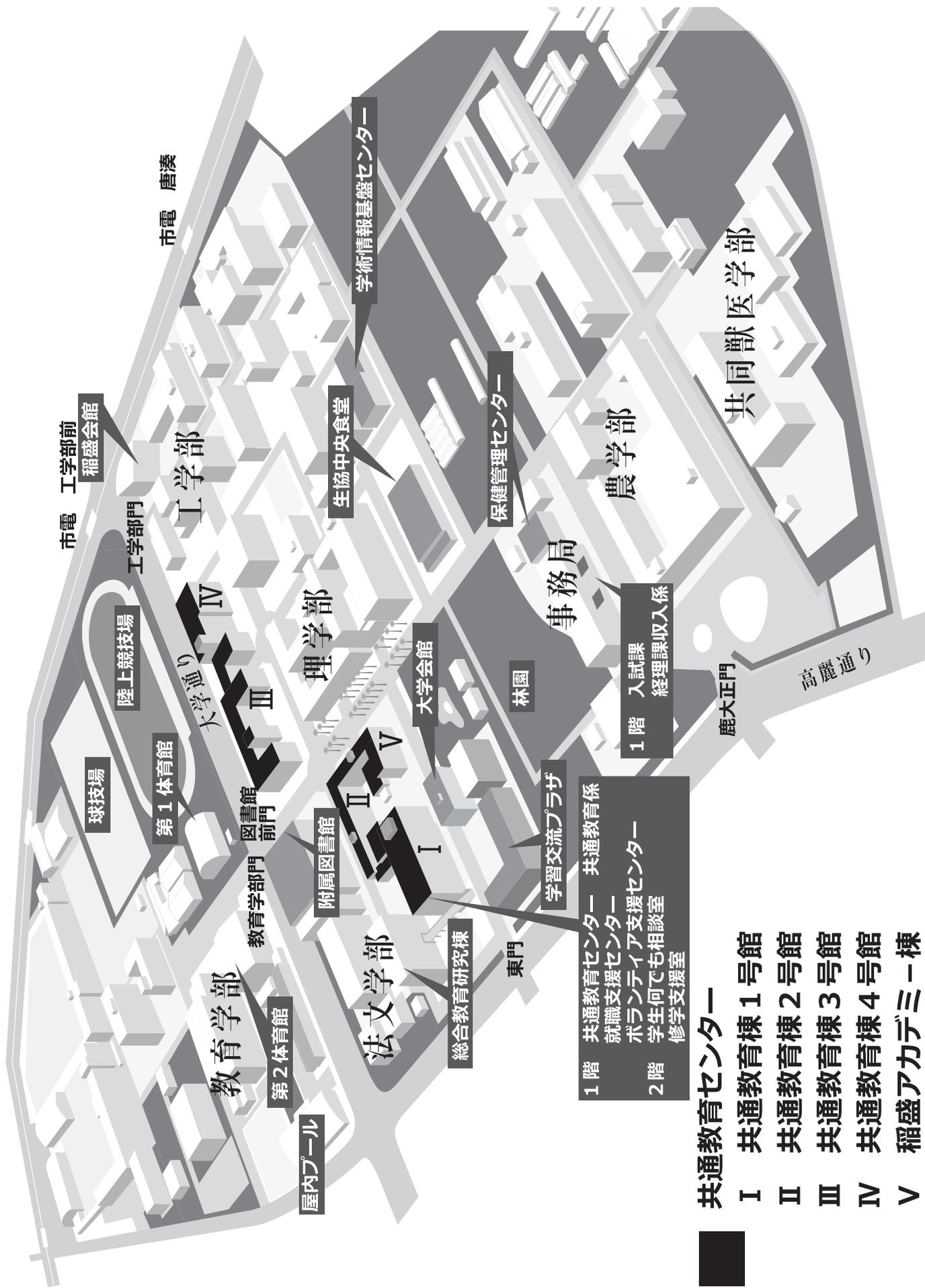
附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成30年4月1日から施行する。

2 この規則の施行日の前日において在学する学生については、改正後の第2条及び第3条第5項の規定にかかわらず、なお従前の例による。



共通教育センター

- I 共通教育棟 1号館**
- II 共通教育棟 2号館**
- III 共通教育棟 3号館**
- IV 共通教育棟 4号館**
- V 稲盛アカデミー棟**

1階 共通教育センター
 就職支援センター
 ボランティア支援センター
 学生何でも相談室
 修学支援室

2階 共通教育係
 学習交流プラザ

1階 入試課
 経理課収入係

総合教育研究棟

学習交流プラザ

東門

林園

大会館

屋内プール

第2体育館

教育学部

教育学部前
 図書館

第1体育館

球技場

陸上競技場

工学部前
 稲盛会館

工学部

理学部

生協中央食堂

学術情報基盤センター

保健管理センター

農学部

事務局

共同獣医学部

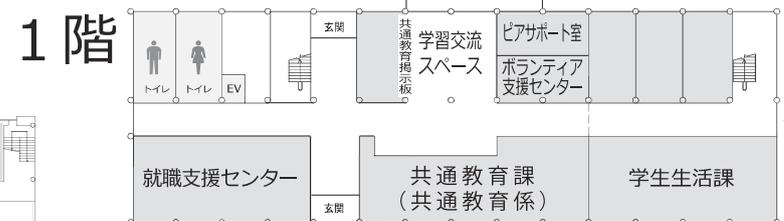
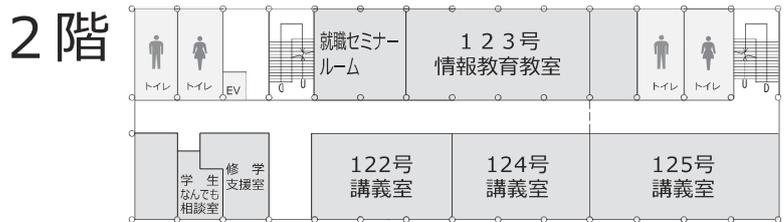
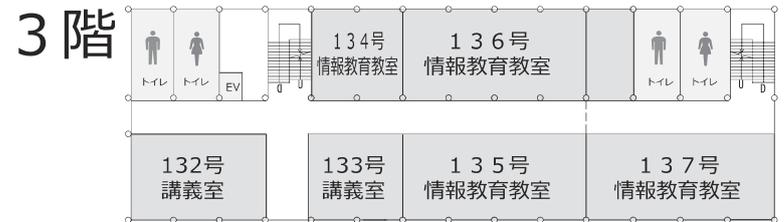
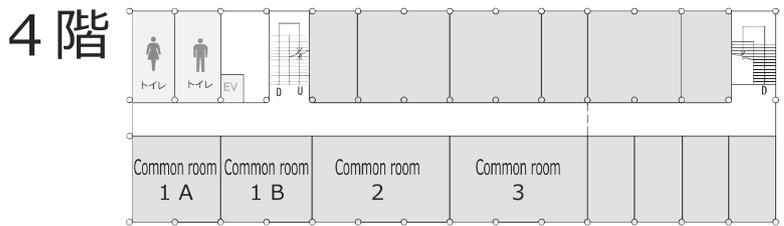
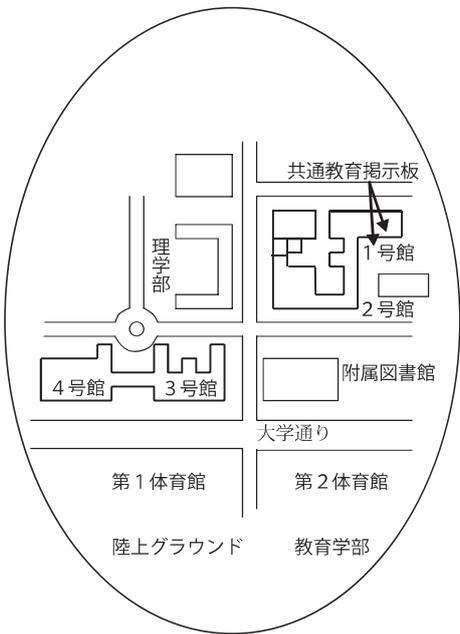
高麗通り

鹿大正門

市電 唐湊

市電

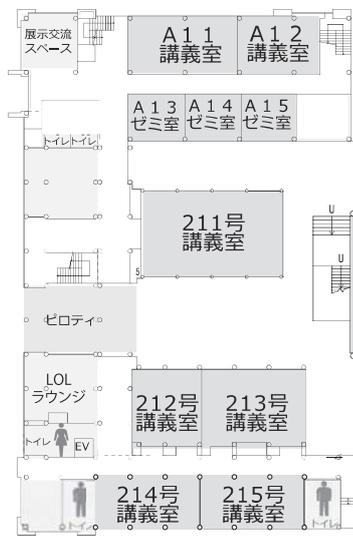
鹿児島大学共通教育棟配置図



共通教育棟 1号館
共通教育掲示板

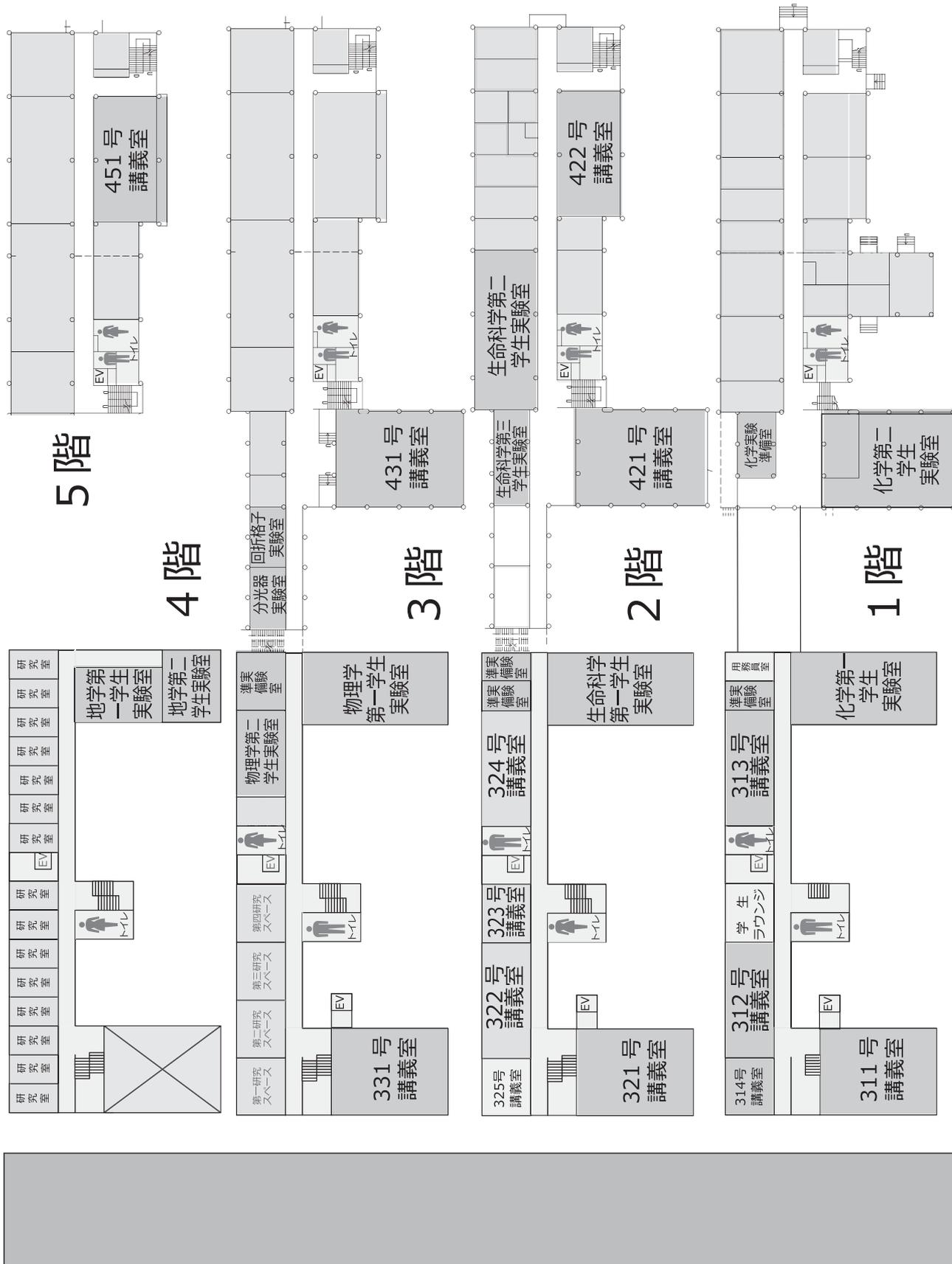
理学部

稲盛アカデミー



共通教育棟 2号館

附属図書館



共通教育棟4号館

共通教育棟3号館

共 通 教 育 科 目 時 間 割 表

_____年度(前・後)期

履修申請表(ワークシート)

学部・学科	
学籍番号	
氏名	

履修申請 単位数の合計	単位
----------------	----

	月	火	水	木	金
1限	時間割コード □□□□	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□
	科目名 ()	()	()	()	()
	担当教員・授業教室				
2限	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□
	()	()	()	()	()
3限	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□
	()	()	()	()	()
4限	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□
	()	()	()	()	()
5限	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□	□□□□
	()	()	()	()	()

※()内は、単位数を記入してください。

欠 席 届

年 月 日提出

年度入 学部 学科 組

学籍番号：_____

ふりがな：_____

氏 名：_____

授業科目	(曜日 時限)
教員名	教員
欠席期間	自 年 月 日 至 年 月 日
欠席理由	病 気 () その他 ()

上記のとおり欠席しますので、お届けします。

2019年度前期分

共通教育シラバス

シラバス目次

	ページ
◎初年次教育科目	85
○初年次セミナーⅠ、初年次セミナーⅡ	85
○大学と地域	85
○体育・健康（理論・実習）	85
○情報活用	86
◎グローバル教育科目	87
○英語	87
○異文化理解	87
◎日本語・日本事情科目	88
◎教養教育科目（教養基礎科目）	89
○教養基礎科目（人文・社会科学分野）	89
・初修外国語	89
・選択科目	90
○教養基礎科目（自然科学分野）	101
・実験科目	101
・選択科目	102
・基礎教育入門科目	106
◎教養教育科目（教養活用科目）	108
○統合Ⅰ（課題発見）	108
○統合Ⅱ（課題解決）	112
◎学芸員資格科目（卒業要件外）	119
※資格取得希望者のみが対象	

（注）このシラバスは、記載項目を簡略したものですので、授業担当教員ごとの詳細なシラバスや後期科目についてはWebシラバスで確認してください。

「鹿児島大学ホームページ」→「在学生」→「学部等の講義概要(シラバス)」
→「共通教育センター」で閲覧できます。

1-1. 初年次教育科目

授業科目名	初年次セミナー I	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位
		桑原季雄 他	初年次セミナー I	講義	毎週	2
授業概要	この科目では、学部混成型で編成されたクラスごとに、様々な関心や知識を持つ他者と協働での学修活動を通じて、下記の「学習目標」の達成を目指す。それには、的確な情報を収集・精査・統合しつつ、自ら設定した課題に沿って論理展開を行い、適切な結論を導き出すという学習過程を、他者とのコミュニケーションを図りながら進めていく必要がある。授業の内容は、各回ごとにテキストに明記されている。ただし、授業時間外学習に積極的に取り組んでもらうために、予習としての「事前学習」、復習としての「事後学習」、より深く学びたい人のための「発展的学習」それぞれの内容について、1回の授業ごとに具体的に示されている。1クラスは30人程度で、複数の学部・学科の学生から成る。授業は、5,6人で1つのグループを基盤として様々な活動を行う。最終レポートは各自で作成するものの、そこまでの学習活動を他者と協働で行うことを通じて、自身の考えを他者に分かりやすく伝えることや他者の考えを受け止め自身の学習に活かす力を高める。					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を発見し、その解決に向けて検索・収集した資料を分析・整理し、自ら考えつつ、適切で妥当な結論に至ることができる。 ・グループ活動に積極的に参加し、他者と協力して作業を進めることができる。 ・調べた内容や自分の考えを、効果的に説明・発表できる。 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進捗状況・取り組み方 (30%) ・中間レポート (20%) ・最終レポート (50%) 	受講要件	特になし			

授業科目名	大学と地域	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位
		出口英樹 他	大学と地域	講義	毎週	2
授業概要	「大学と地域」テーマ：「防災」、「医療」、「観光」、「教育」、「動物・畜産業」、「食」、「環境・島嶼」 鹿児島大学は「地域とともに歩む大学」として、地域に貢献する思いや能力を育む教育に取り組んでいる。この取り組みの教育上の核となる授業が「大学と地域」である。7クラス(7テーマ)から希望する1つを選択して受講する。 この授業は鹿児島のことを取り扱うが、鹿児島のことを単に「知る」ことが目的ではない。大学に入学した学生が、「大学」の名にふさわしい教育を受け、それを身に付けるためには、「自ら論理的に思考する力」や「多くの情報から重要なものを探し出す力」、「物事の課題を発見しそれを合理的に解決する力」などが必要である。この授業では、地域という教材を通して、そのような力を養成することを目指している。					
学習目標	地域の現状を把握し、それを理解したうえで整理し、説明できる。 地域課題について発見し、その論理的・科学的な解決方法を考え、表現することができる。 大学と地域の関係を理解し、「大学とは何か」あるいは「地域における大学の意義」について考えることができる。					
成績評価	15回の授業のうち10回以上の出席を前提として、以下のような割合で評価する。 中間レポート(1) <第9回に実施> : 20点 中間レポート(2) <第15回に実施> : 20点 最終レポート <第15回に実施> : 40点 授業シート <毎回実施> : 20点	受講要件	特になし			

授業科目名	体育・健康科学理論	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位
		福満博隆 他	体育・健康(理論)	講義	毎週	1
授業概要	大学において充実した生活を送り、さらに生涯に渡って豊かな人生を送るためには、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義では、心身の基本的な機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な運動、栄養、休養の三本柱を中心にライフスタイルのあり方について学習する。授業は、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成できる知識、技能、態度、習慣を身につけることができるように、配付資料やパワーポイント等をもとに講義形式ですすめる。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活における健康の重要性について認識を深めることができる 2) 運動習慣と健康との関係について理解を深めることができる 3) 運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成できる 4) 自身の健康管理を行う態度と方法を身につけることができる 5) 悪い生活習慣による健康阻害要因について理解を深めることができる 					
成績評価	毎回授業に関する小レポート有り。評価:20% 出席が3分の2に満たない(3回欠席する)と失格(欠は認めない) 理解度確認の筆記試験は、授業ノート(プリント)から出題し、持ち込みは、不可 評価:80%	受講要件	特になし			

授業科目名	体育・健康科学実習	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位
		末吉靖宏 他	体育・健康(実習)	実習	毎週	1
授業概要	「体育・健康科学理論」で学習した身体機能とその適応性や健康と運動の関係などを背景に、本実習では実習ノートをもとに、各自の身体能力について測定し、自己の形態や体力の現状を把握する。そして、具体的な健康づくりに適した運動を安全に実施するための方法を学ぶ。健康づくりの運動を行うための知識、技能、態度・習慣を身につけることができるように、課題レポートを提出する。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康に関わる運動の要素について理解する。 2) 自己の形態や体力について客観的に把握する。 3) 手軽に実施できる健康体操と筋力を効果的に高めるトレーニング法について理解する。 4) 運動強度と心拍数の関係を把握し、適切な運動強度を設定する方法について理解する。 5) ウォーキング、ジョギングの適切な実施方法を理解する。 6) スポーツにおける投や打の合理的な基礎的動きを理解する。 7) いろいろなスポーツの実習を通して、それらの特徴を理解する。 					
成績評価	課題レポート60%(4回提出、各15点満点)、授業中の活動(授業への取り組み、クラスメートとの協力やコミュニケーション、リーダーシップ)40%として評価する。	受講要件	運動するにあたり、特別に配慮すべき要件のある学生は、事前に申請すること			

1-1. 初年次教育科目

授業科目名	情報活用	担当教員	1-1. 初年次教育科目	科目形態	開講区分	単位
		新森修一 他	情報活用	講義	毎週	2
授業概要	<p>1. 目的：情報化社会およびグローバル化が進展する中で、重要性を増しているコンピュータやインターネットについての基礎的知識や技能を身に付け、本学の情報ネットワークやコンピュータの教育環境を有効に活用する能力を修得することを目指す。</p> <p>2. 内容：パソコンの機能を十分に活用するための基本的な知識・技術、プレゼンテーション技能、インターネットの適切な利用方法および情報セキュリティについて学修する。</p> <p>3. 方法：共通教育棟の情報端末室において、講義と各自のパソコン操作実習を併用しながら学修を進める。学修成果や学修効率の向上を図ることを目的に、TA（ティーチング・アシスタント、大学院生）2名が学修の支援を行う。</p>					
学習目標	<p>1. コンピュータの基本操作を修得する。</p> <p>2. インターネット上のルールやマナーを理解し、情報交換や検索・収集ができる。</p> <p>3. 基本的な文書作成やデータ処理および図表の作成ができる。</p> <p>4. プレゼンテーションソフトの基本的な操作や効果的な活用ができる。</p> <p>5. コンピュータやネットワークをめぐるトラブルなどに適切に対処できる。</p>					
成績評価	授業への参加態度(10%)、2回の時間内小テスト(40%)、5回の課題レポート(50%)により総合的に判定。	受講要件	特になし			

2-1. グローバル教育科目

授業科目名	英語 I A (E L A I)	担当教員	2-1. グローバル教育科目	科目形態	開講区分	単位
		金岡正夫 他	英語	講義	毎週	1
授業概要	ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。それらに役立つ内容(多様なものの見方、価値観、歴史の変遷、社会情勢、異文化に関する問題など)を理解し、考えを深める習慣を身につけ、大学1年間を通して視野の拡大と個の確立をめざす。前期のこの科目では、(1)大学生としての自己発見と自己覚醒 (Self-Discovery and Self-Awareness) [Stage 1] (2)大学生としてのアイデンティティ構築 (Self-Identity Development) [Stage 2] というプロセスを進めていく。					
学習目標	[英語力] (Reception - Interaction重視のスキル獲得) ※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	詳細はWebシラバスを参照	受講要件		2/3以上の出席者を評価対象とする		

授業科目名	英語 I B (E G A P I)	担当教員	2-1. グローバル教育科目	科目形態	開講区分	単位
		金岡正夫 他	英語	講義	毎週	1
授業概要	EGAPコースはELAコース同様、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。EGAPでは大学生での所属(学部、学科)を軸に、専攻分野や学術上の専門領域に対する関心を、英語学習を通して高めていく。前半にあたるこの科目では、最初から専門性に目を向けるのではなく、その周辺・関連領域にまず目を向け、広い視点から自分自身の所属(学部、学科)と専攻について考えていく学際的な視点を養う。「使う英語」「自己表現のための英語」を意識し、ライティングとスピーキング能力を統合的に習得し、内容と論理性にすぐれたコミュニカティブな英語運用能力を獲得し、高めていく。同時にELAコースで習得するリーディング(音読)、リスニング(シャドウイング)のスキルをEGAPコースで活用していく。					
学習目標	[英語力] (Production重視のスキル獲得)※その他詳細はWebシラバスを参照					
成績評価	詳細はWebシラバスを参照	受講要件		2/3以上の出席者を評価対象とする		

授業科目名	異文化理解入門	担当教員	2-1. グローバル教育科目	科目形態	開講区分	単位
		大野克彦 他	異文化理解	講義	毎週	2
授業概要	目的：グローバルな時代に生きていることを改めて認識し、英語圏以外の多様な文化を理解し受容する態度、自文化をより深く知ろうとする姿勢、ものごとを複眼的に考察・判断できるような素地を涵養することを目的とする。なお、学部・学科によっては、初修外国語学習への動機付けも図る。内容：日本語、日本文化・日本事情、日本人のものの見方や考え方などと比較対照しながら、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語およびイスラーム圏の言語(クラスによりアラビア語またはトルコ語)の特徴やあいさつことばなどの日常表現、英語文化圏以外の地域の文化・風習・現代事情、各文化圏に住む人々のものの考え方・価値観・生活習慣、各文化圏に対する一般的なイメージ・固定観念・ステレオタイプの思考とそこから生じる偏見や誤解、授業担当者自身の異文化体験(当該言語文化を学ぶようになったきっかけ、異文化に触れて、あるいは、異なる文化背景の人々と付き合いの中で経験した驚き・当惑・困惑・トラブルなどの実例)などを授業内容とする。方法：独語文化圏、仏語文化圏、中国語文化圏、韓国・朝鮮語文化圏、イスラーム文化圏に関する授業を各3回ずつの総合講義形式で行う。					
学習目標	1. グローバル化が進行する現代社会において、異なる文化・価値観・思考方法等を理解することの意義を認識することができる。 2. 複眼的な視点からものごとを考え判断する力や、多様性を受け入れ異質性を楽しめる感性を身につけることができる。 3. 異文化理解を通して、自国の文化に関心を持ち理解を深めることができる。					
成績評価	小レポートや毎回の授業の中で課すミニッツペーパー(授業の理解度を測る小テスト、または、授業の要旨・感想・疑問点等を記入したもの)等で評価し、授業担当者5名の合計(20点×5=100点)を評点とする。	受講要件		特になし		

3-1. 日本語・日本事情

授業科目名	日本語I	担当教員	3-1. 日本語・日本事情	科目形態	開講区分	単位
		和田礼子 他	日本語	講義	毎週	1
授業概要	<p>目的：レポートや学術論文などの論説文を自力で読むために必要な基礎的読解力をつける事を目的とする。 内容：論文を読むための基礎となる文章の構成に関する知識・文法事項、論旨の把握、レジュメ作成について学習する。 授業の方法：教科書にそって文法知識、文章構造に識について学び、実際の文章の中で確認する。 講義のほか、読解内容をまとめてグループで発表する。 また、表現、語彙の定着のためのペアワークを行う。</p>					
学習目標	<p>(1) 論文の構造を理解することができる。 (2) 文章から必要な情報を取り出し、まとめることができる。 (3) 自律的な学習ストラテジーを身につける。 (4) 発表用のレジュメ作成に必要なスキルを身につける。</p>					
成績評価	授業内活動10%、提出物・小テスト30%、試験60%で評価する。	受講要件	原則として学部留学生・1年生を対象とする。(ただし、特別聴講学生は要相談) プレースメントテスト後、指定されたクラスを受講すること。			
授業科目名	日本語II	担当教員	3-1. 日本語・日本事情	科目形態	開講区分	単位
		市島佑起子 他	日本語	講義	毎週	1
授業概要	<p>この授業では、大学の学業生活に必要な日本語の技能の中で、特に書く技能について学ぶ。具体的には、「レポート」の書き方(構成・表現等)について学び、豊富な練習と添削を通して技能の向上を目指す。毎回、レポート作成→添削→修正という流れで練習を行い、必ず宿題が出されるので、提出が遅れない様に注意すること。</p>					
学習目標	<p>1) 日本語でレポートを書くために必要な言語知識(構成・表現等)を身につける 2) 他学生のレポートや良質なレポート例を参照する事で、書き表し方の多様性を知る 3) 必要な言語知識を使いながら、実際に日本語でレポートを書く 4) 自分の書いたレポートを客観的に点検、評価し、修正する</p>					
成績評価	授業参加度(積極的な発言等、学期を通して総合的に評価する)20%、宿題80%	受講要件	原則として学部留学生・1年生を対象とする。(ただし、特別聴講学生は要相談)			
授業科目名	日本事情A	担当教員	3-1. 日本語・日本事情	科目形態	開講区分	単位
		大嶋真紀	日本語	講義	毎週	2
授業概要	<p>目的 留学生が日本の大学、日本社会で円滑な学生生活を送り、自分の目標を達成できるように、日本語能力を強化し、日本理解を深め、基本的な自己発信ができることを目的としている。 内容 自然環境、文化とは何か、カルチャーショック理論、鹿児島、習慣とマナー、歴史入門、社会のキーワード、文化のキーワード、留学史 方法 講義、文献読解、討論、グループワーク、口頭発表などを行い、総合的な学習能力の強化を図る。</p>					
学習目標	<p>(1) 日本の文化・社会の諸相について説明できる。 (2) 自国の文化・社会について、適切な日本語でプレゼンテーションを行うことができる。 (3) 日本と自国の異文化間摩擦の問題を解決できる。</p>					
成績評価	小テストまたはタスク30% 積極性20% 口頭発表30% 修了レポート20%	受講要件	特になし			

4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	初級独語 I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		安東清 他	人文社会科学分野 (初修外国語)	講義	毎週	2
授業概要	この授業はドイツ語の文法・語彙に関する知識の習得と、それに基づくコミュニケーション能力の育成が授業の目標です。さらに、授業計画ではドイツ語圏の地理・歴史・文化・社会・暮らしに関する情報の提供も行います。 ※ 初めて学ぶ言語ですから、学習目標の達成には欠かさず予習・復習をすることが必要です。そのことを忘れずに授業に臨んでください。					
学習目標	(1) 文法・語彙など言語の構造的側面に関する基礎知識を身につける (2) 発音・聴解など言語の運用的側面に関する知識を身につける (3) 短い日常会話を聞き取って理解し、自らも話すことができるようになる					
成績評価	授業時の試験(複数回)と期末試験において、文法事項と語彙がどの程度まで習得されたか、コミュニケーション能力がどの程度まで獲得されたか、を確認し、評価します。 また、つづりの読み方等に関して発音テストを実施し、その正確さを確認します。	受講要件	特になし			

授業科目名	初級仏語 I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		二村淳子 他	人文社会科学分野 (初修外国語)	講義	毎週	2
授業概要	【目的】 この授業ではフランス語の学習を通して、ヨーロッパ諸語の言語的特徴について知識を身につけ、その思考方式に親しみ、外国語文化一般を学ぶ基礎力を涵養することを目指す。また、国際社会における有力言語であるフランス語を習得することによって、多面的に世界を知るきっかけを与える。 【内容】 基本的な知識を習得するための入門的な授業なので、発音・文法・基礎語彙の習得が授業の中心となる。夏休みまでには仏語検定5級の力を持つ。 【方法】 基本的には教科書に沿って授業を行う。練習問題をこなすことによって理解を深める。					
学習目標	1) フランス語の基本的な発音の規則を覚える。 2) フランス語の基本的な文法事項を覚える。 3) フランス語の基本的な語彙を覚える。 4) フランス語圏の文化に親しむ。 5) フランス語の知識をもとに英語の理解を深める。 6) フランス語を参考に言語一般の基本構造について理解を深める。					
成績評価	三分の二以上の出席(欠席は10回未満)を前提として、原則として試験(筆記・発音)で評価する。 また、学期中の小テスト、及び、授業中での積極的な参加も考慮する。	受講要件	特になし			

授業科目名	初級中国語 I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		寺西光輝	人文社会科学分野 (初修外国語)	講義	毎週	2
授業概要	基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、中国語の発音と初歩的文法の習熟を目指します。発音の基礎や挨拶の表現から始めて、読む、書く、話す、聞くというコミュニケーションの基礎的能力の涵養に努める。さらに、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていきながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を身につけていく。					
学習目標	・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。 ・自分や他人を紹介することができ、姓名、年齢、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物、趣味、能力などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ・もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。					
成績評価	中間試験40%、期末試験40%、受講態度・提出物等20%で評価する。	受講要件	特になし			

授業科目名	初級韓国語 I	担当教員	4-1. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		鄭芝淑 他	人文社会科学分野 (初修外国語)	講義	毎週	2
授業概要	この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語および日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることにある。 授業内容としては、ハングル(韓国文字)の創字原理を理解してその読み書きに習熟し、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。 教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。					
学習目標	・ハングルの正しく確実に読み書きできるようにする。 ・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書けるようにする。 ・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介ができるようにする。 ・韓国・韓国文化に対する理解を深める。					
成績評価	授業への取り組み状況(20%)、小テスト・課題(20%)、中間試験・期末試験(60%)	受講要件	・韓国語を初めて習うやる気のある学生を対象とする。 ・なぜ韓国語を学びたいのかについて具体的に述べられるようにしておく。 ・授業に積極的に取り組む姿勢が求められる。			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	アメーバ経営		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			劉美玲	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>授業目的: この講義の目的はアメーバ経営の基本デザインと導入状況を理解することにある。</p> <p>授業内容: 京セラ(株)は創業以来一度も赤字を出したことなく、成長性と収益性を両立してきた。その理由の一つは「アメーバ経営」にあると言われている。この講義は、主に管理会計の観点から、アメーバ経営を解説する。一方、広義のアメーバ経営は、管理会計の要素、組織的要素、稲盛フィロソフィーを含み、三者が相互補完的に機能を発揮する。アメーバ経営を包括的に理解してもらうために、必要に応じて組織論(組織構造や組織文化)の内容も含む。また、アメーバ経営は、京セラグループだけではなく、多くの日本企業や海外企業にも導入されている。これらの企業へのアメーバ経営の導入状況を理解してもらうために、導入の概要や事例を講義内容に含む。</p> <p>授業方法: パワーポイントを使って講義する。</p>						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 一般的な管理会計の仕組みが理解できること。 アメーバ経営における管理会計が理解できること。 アメーバ経営の導入状況が理解できること。 管理会計やアメーバ経営の知識を(サイクル活動などに)活用できること。 						
成績評価	授業への参加態度(40%) 小課題(30%) 期末レポート課題(30%)	受講要件		経営学に興味を持っていること			

授業科目名	医学・行動心理学入門		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			桑木共之	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	<p>授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。授業の内容は、同じ日に同じ教室で開講される実験医学・行動心理学を受講するに当たって必要な基礎知識である。合計4単位が取得できる。授業の方法は、教員による講義と学生自身によるプレゼンテーションである。</p>						
学習目標	<p>実験行動心理学研究で多用される基本的な実験手技の原理が説明できる。仮説設定・検証実験・修正した仮説の再設定というサイクルで行われる科学研究の基本方法が実行できる。実験から得られた結果を基に自ら立てた疑問を解決できる。</p>						
成績評価	レポート(50%)と授業への参加態度(50%)	受講要件		医学・行動心理学に興味を持ち、実験を体験したい学生。高等学校の生物習得程度の基礎知識を持っていることが望ましい。			

授業科目名	稲盛和夫のベンチャー企業論		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			吉田健一	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>この授業の目的は、将来、起業または企業経営を目指す学生に、どのようにして会社を経営し成長させていくか、企業経営に必要なマインド及び会社経営の考え方について、基礎的な理解を図ることである。本講義では本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏(京セラ株式会社名誉会長、日本航空名誉顧問)と盛和塾(稲盛氏に学ぶ経営塾)の塾生との問答録をテキストとして使用する。授業内容としては、稲盛和夫氏の経営観を学習するとともに、企業経営を超えた基本的な人間観についても学習する。授業は配布資料等による講義を中心とし、毎時間、講義の後にA4、1枚のフィードバックシートを提出していただく。本講義は稲盛アカデミーの専任、特任教員である吉田、牧原、劉の3人が共同で担当する。</p>						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 企業経営者に求められる資質への理解を深めること。 企業を成長させるためには、何を構築していかなければならないかを理解すること。 起業の意義と大義ある目的を掲げることの重要性を理解すること。 起業の意義を経済活性化に及ぼす影響についての観点から理解すること。 						
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。レポート提出の要件は3分の2以上の出席。	受講要件		企業経営に関心があることが望ましい。真面目に全ての回を受講する意思のある方。			

授業科目名	稲盛和夫の経営哲学(I)		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			吉田健一	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏の思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのあるべき内容を理解することが本講義の目的である。 授業の内容は、稲盛氏の経営哲学の集大成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。 授業の方法は、毎時間、『京セラフィロソフィ』を担当者が解説し、受講生にはフィードバックシートを提出して頂く。次の時間にフィードバックシートの代表的な意見を紹介し双方向性を高めた講義を行う。 						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> なぜ、経営に哲学が必要なのかを説明できる。 経営哲学とは、どのようなものでなければならないかを説明できる。 経営者は、いかにあるべきかを説明できる。 経営哲学を、組織内で共有するためにどうすればいいかを説明できる。 経営哲学がいかなる可能性を開くかを説明できる。 						
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。	受講要件		経営哲学及び稲盛氏の経営思想に関心をもっていることが望ましい。なお、後期開講の「稲盛和夫の経営哲学(II)」は本講義の続きの内容である。後期の「II」もセットで受講してくれることが望ましい。			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	大人になるための政治学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤村一郎	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>本授業は、「社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力」を養成するために、大人(≒市民)として必要な、最低限の政治に関する知識と、それらを科学的に考察し判断するための方法を習得してもらうことを目標とする。授業内容は、私たちの生活に立ち現れるさまざまな問題が政治と密接に関わっていることに気づくことにはじまり、社会科学の視座より問題への理解を深める。そして、現在の問題へとつながる歴史や分析枠組みを知ること、その原因や将来の展望について学習することを目指す。授業ではしばしば、下記テーマの他に時事問題について議論する。日々のニュースや社会的課題について常に目を配ることを勧める。また予習復習のためにEラーニングシステムを多用する。</p>					
学習目標	<p>市民のための基本的な政治制度や理念を理解し、適切に対応することができる。 市民として政治学の基本的な概念を論理立てて説明できる。 政治的議論を通じて今後の学習目標を立て、行動することができる。</p>					
成績評価	定期試験の成績50%、Eラーニングによる小テストや宿題30%、授業への参加態度・取組姿勢20%	受講要件	特になし			

授業科目名	鹿児島探訪一歴史一	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		日隈正守	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>現在の鹿児島県域における古代から近世にかけての歴史的展開を、史・資料を読み解きながら講義形式で概観する。</p>					
学習目標	<p>今日、常識とされていることでも、歴史的由来をたずねると案外その根拠が乏しいことが多い。 (1) 虚心坦懐に史料から先人の残したメッセージを読み取ることが出来る。 (2) 鹿児島の歴史的歩みを理解する。 (3) 現代の諸問題に対応する能力を身につけることが出来る。</p>					
成績評価	授業への参加態度(3割)と学期末試験(7割)で評価する。	受講要件	特になし			

授業科目名	鹿児島の歴史地理	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		小林善仁	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>歴史地理学は、過去の地域における自然・人文に関する諸事象に注目して、地域の仕組みとその特性を明らかにするものである。本講義では、身近な地域である鹿児島県・鹿児島市を対象に、歴史地理学の手法を用いて地域の成り立ちや日本における鹿児島の地域的特性を考える。また、現在の地域との比較を念頭に、地域の地理的諸変化もみていく。</p>					
学習目標	<p>1. 地域を研究する際の歴史地理学的方法を理解できる。 2. 鹿児島の地域的特性について、地理学の視点から考察・説明することができる。</p>					
成績評価	授業への取り組み態度(25%)、レポート(75%)	受講要件	特になし			

授業科目名	株式会社と会計	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		澤田成章	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>現代社会では、企業は財やサービスの生産・供給だけでなく、雇用や地域活動などさまざまなシチュエーションでわれわれの生活を支えている。会計(企業会計)は「事業の言語」と言われ、こうした企業の活動を理解するために重要な役割を果たしている。とりわけ有価証券報告書は企業の情報開示の中核を担う。本講義では、会計制度の基礎的な概念を理解することを通じて、有価証券報告書を情報源として使いこなすことができるようになることを目的とする。</p>					
学習目標	<p>(1) 株式会社の仕組みと会計制度との関係を理解すること (2) 財務諸表・有価証券報告書を読みこなすことができるようになること (3) 財務諸表・有価証券報告書から読み取った情報を自身の判断・意思決定に活用することができるようになること</p>					
成績評価	小レポート(30%)、中間試験(30%)、期末レポート(40%)による総合評価による。	受講要件	特になし			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	「起業」ービジネスの発見と創出	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		中武貞文	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>○目的：鹿児島大学は、「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに発展する知の拠点形成し、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。地域社会からは、起業マインドを持つ人材の輩出が期待されている。本学では既に教職員や大学院学生および学部生から起業に挑戦する者も現れている。この機運をさらに高め、起業マインドを持つ人材の育成とその人材間・支援者間の交流ネットワーク形成を行うべく講義を開講する。社会情勢や「ヒト・モノ・カネ」の運用や流れを起業の観点から知ることで、日常生活の諸現象を複眼的な視点で理解できる。そのため、人間力の涵養にも資するものになる。</p> <p>○講義内容・方法：起業を取り巻く環境や社会・経済情勢を学び、チャレンジ精神（進取の精神）の実践として、ビジネスアイデアを共同で言語化する作業を行う。講義の前半は座学形式を主とし、後半はアクティブラーニングを志向したワークショップ形式とする。11回から14回は集中開講とし、教員他、外部アドバイザー（野村證券や鹿児島銀行など）による指導も実施する。</p>					
学習目標	<p>1) 起業と取り巻く環境を理解できる 2) 他者との共同作業ができる 3) 起業の源泉となるビジネスアイデアを言語化し、他者に説明することができる</p>					
成績評価	プレゼンテーションの評価 (30点)、プレゼンテーションの受講生の評価 (20点)、授業期間中に度設定するレポートの内容 (30点)、質疑応答の内容 (20点)	受講要件	<p>受講要件は特にないが、世界を、日本を、鹿児島を良くするビジネスアイデアを考え、実行したい学生には積極的に参加をして欲しい。</p>			

授業科目名	キャリア・恋人・コミュニケーションの社会学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		櫻井芳生	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>激化する就職戦線にむけて必要なスタートダッシュをめざす。「眠りこみがちな一年前期の脳ミソ」に活をいれる！。コミュニケーションを媒介するものをすべてメディアととらえ、現代文化の諸相をコミュニケーションとの関連で論究する。職業選択とパートナー選択を、ともに、「一生のキャリアプランニング」の一環として位置づける。私のホームページもご参照ください（「桜井芳生」で検索）。</p>					
学習目標	<p>1.メディア、大人、友達のうわさ、SNS、などにたいして、批判的になる。(批判的思考力) 2.自分の人生を、現実即して、計画できる。それに即して行動する。(計画的行動力) 3.スマホだけでなく、PCをはじめとする、社会人メディアを使いこなせる。(社会人情報リテラシー) 4.自分の意見をまとめ、さらに、それに対する反論を想定できるようにする。(自立的思考力) 5.大人や異性にはなしかけることができるようになる。(成人のコミュニケーション能力)</p>					
成績評価	「その場ミニ論文」20%、期末小論文メール(中身は自由テーマ論文です)80%。ともに、上記の学習目標の到達具合から評価します。【遅刻するひと】【スマホいじる/ふるわせるひと】【私語をするひと】は、単位を認定しません！	受講要件	<p>17+ (18歳以上限定)。端末室を使う予定です。で、万一教室キャパを超えた場合に備えて、「開講まえに!、チャオミニ、レポート」を課します。共通教育の掲示板を、ガイダンス一丁目より、ご注視ください。</p>			

授業科目名	狂言の世界	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		内山弘	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>狂言は、中世に能と能の間に挟まれる形で上演された、滑稽をむねとする伝統芸能である。芸術性という点では兄貴分にあたる能には及ばないにしても、年齢や国籍を問わず親しまれているのは何といっても狂言の方である。最近では狂言尽くしと言って狂言だけが独立して演じられることも多い。本講では、人文科学の入門編としてこの狂言を取り上げ、その歴史や構造等を概観しつつ、ビデオ鑑賞を通して日本の伝統芸能に親しませる。なお、原則として毎回ビデオ鑑賞(付、感想文)を行う。</p>					
学習目標	<p>(1) 狂言という古典芸能の歴史や構造を学ぶことができる。 (2) 日本の伝統文化についての理解を深めることができる。 (3) ビデオ鑑賞を通して狂言という劇の面白さ・楽しさを知ることができる。 (4) 狂言のことを通して中世の日本語について学ぶことができる。</p>					
成績評価	授業への取組態度と意欲(30点)+期末試験(70点)	受講要件	<p>特になし</p>			

授業科目名	現代企業経営論	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		大前慶和	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>▼経営学は、組織マネジメントを研究対象とする学問で、経済学とは質的に異なる学問分野である。まず経営学の基本的・伝統的な理論を紹介する。続いて、近年の組織マネジメント理論を概観し、現代が変革の時代であることを解説する。最後に、理論と実践との融合を図るために、授業担当者の実践としての共同研究を紹介する。なお、ホスピタリティについても取り上げ、東京ディズニーリゾートを事例として用いる。▼ほとんどの授業は板書によって進めるが、板書は口頭での説明を補助するためのものであり、そのまま書き写すことは全く想定していない。ノートをとる技術の向上が求められる。最後の3回の授業では、パワーポイントを用い、資料配付を行わない。ノートをとる技術を高めておく必要性がさらに高まる。▼できる限り各回にグループディスカッションを採用し、またその成果報告をしてもらう。また、授業シートを配布し、毎回の授業終了後に記入・提出してもらう。授業シートは次回授業冒頭に返却する。第15回授業終了後には提出する必要はなく、試験勉強に活用して欲しい。なお、授業シートではなく manaba を活用することもある。</p>					
学習目標	<p>▼第1は、受講生が経営学を理解することである。経営学理論の基礎を理解することはもちろん、経営学の本質を探究する態度を求める。 ▼第2は、受講生が経営学を実践することである。経営学は極めて実学的な性格が強く、したがって理解するとともに実践することが求められる。漫然と講義を受講するだけでは意味のない学問であることを理解した上で、履修登録を行って欲しい。</p>					
成績評価	▼穴埋め記号問題および論述問題からなる期末試験を実施する(70%)。持込は不可とする。▼必要に応じ授業内にて小レポートを3回課す(合計で30%)。復習の態度を測定するほか、当日の授業内容に関する出題もあり得る。単なる出席確認ではない。授業シートの提出を小レポート提出と見なし、採点する(manaba に入力してもらうこともあり得る)。	受講要件	<p>▼意欲的に経営学を学ぶ姿勢を持っていること。 ▼シラバスの内容を熟知していること。</p>			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	現代の日本政治	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>1. 授業の目的は、我が国の戦後政治史の知識を得た上で、今日的課題への理解を深めることである。</p> <p>2. 授業の内容は、大きく2期に分かれる。1回目「はじめにー政治とは？」から7回目「利益団体・社会集団・ネットワーク」までは、基本的な知識を伝授する。8回目から15回目までは、戦後の我が国の政治史を、主要政党の歴史に焦点を当てて概観する。本講義は「現代の日本政治」であるが、現在起こっている事の時事解説を直接的に行うものではない。現在起こっていることへの理解を深めるためにはある程度、歴史的な視点が必要であるという観点から、本講義では、前半では、政治を見る際の視点に触れた、後半では、我が国の現代政治について学ぶ。</p> <p>3. 授業の方法は、配付したオリジナルテキストを使いながら解説して行くが、随時、補足資料も配付する。本講義では、発表や討論は予定していないが受講生のフィードバックシートに書かれた意見を紹介しながら、検討する時間を何回かは設けたい。</p>					
学習目標	<p>1. 政治学の基本概念をある程度まで解説できる。</p> <p>2. 戦後の我が国の政治史の流れの概略を解説できる。</p> <p>3. 現代日本政治の抱える政策課題についての意見を表明できる。</p> <p>4. 日々の政治ニュースを独自の視点で見ながら、自身の見解を周囲に解説できる。</p> <p>5. 民主社会の一員として、主体的に世の中を作って行くことの意義を考え、結果として、自ら公共の課題について自分なりの価値観によって政策を判断できる。</p>					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出 (50%)、期末レポート (50%)。	受講要件	公共政策、現代政治の諸課題に関心をもっていること。選挙、政策、政治思想、政党制、地方自治、国際政治、外交、メディア、官僚制など何でも良いので何か1つ特定のテーマに関心を持っていることが望ましい。近隣諸国への差別的言辭を弄するもの他、以下の			

授業科目名	行動科学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		横山春彦	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>1. 授業の目的：生きているヒト・動物の行動について理解と関心を持つこと。</p> <p>2. 授業の内容：ヒト・動物の持つ環境への適応行動やメカニズムを学ぶこと。</p> <p>3. 授業の方法：具体的な行動の例を視覚的な材料を用いてわかりやすく解説。</p>					
学習目標	<p>1. ヒト・動物の様々な行動について一定の説明ができる。</p> <p>2. ヒト・動物の行動に対する様々な疑問について仮説を立てることができる。</p> <p>3. ヒト・動物の行動とその仮説について初歩的なデータ収集ができる。</p>					
成績評価	期末試験の成績(60%)、コメントペーパーへの記載 (20%)、受講態度等 (20%) の比率で総合的に判断し、評価する。	受講要件	特になし			

授業科目名	国際私法入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		眞砂康司	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>現在の世界では、婚姻や契約といった私法的生活関係を規律する法律（民法や商法など）は原則として国によってその内容を異にしています。そのため、国際結婚や国際契約などの複数の国に關係する私法的生活関係（これを渉外的私法関係といいます）の法的規律においては、いずれの国の法律によって規律をすればよいのかという問題がでてきます。国際結婚や国際契約などの渉外的私法関係の法的規律においては、まず、渉外的私法関係を規律する法律を選ばなければならないのです。本講義では、この法選択を任務とする国際私法という法律を中心に国際結婚や国際契約などの渉外的私法関係の法的規律のあらましをみていきます。</p>					
学習目標	<p>国際私法を中心とした渉外的私法関係の法的規律のあらましが理解できる。</p> <p>概していえば、人類知産につき理解と修得ができる。これを以って、国際的な社会問題への理解度・認識力の向上ができる。</p>					
成績評価	原則として出席をした上での講義への参加態度とレポートあるいは小テストの評価によります。レポート提出あるいは小テストは、授業の進み具合にもよりますが、3回～6回要求あるいは実施する予定にしています。当然でしょうが受講生は全回出席するつもりでいきましょう。	受講要件	特になし			

授業科目名	こころと「多様な生き方」を学ぶ	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		飯田昌子	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>本授業の目的は、これまで「あたりまえのこと」と思ってきた価値観や事象を問い直して見ることである。本講義では、セクシュアリティとHIV/AIDSを切り口に現代社会が抱える心理的諸問題について理解を深め、多様な生き方を認め合う対人関係のありかたについて議論する。</p> <p>授業の方法は、基本的には講義形式で行うが、ゲストスピークを通してトピックについて具体的なイメージを持ってもらうことも予定している。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・セクシュアリティについて理解を深め、「多様な性」の意味を自分の言葉で説明することができる。 ・自己尊重に基づいた意思決定・行動選択ができる ・多様な価値観や生き方を尊重する社会の実現に貢献できる 					
成績評価	期末試験のみ (持ち込み不可)	受講要件	全学部1年生のみ。定員60名。			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	古代東アジアの王陵	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		橋本達也	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>目的：1. 大型墳墓を素材として古代東アジアの遺跡・考古学研究的知識を得る。 2. 東アジアの墳墓遺跡と国家形成の考古学研究について概要を理解する。3. 遺跡資料から歴史を復元する。 内容：日本列島の古代、西暦3～6世紀には権力者のための墓として巨大な前方後円墳を造る社会が存在した。この前方後円墳はどういった存在だったのかを解説する。 日本古代の古墳時代を同時代の東アジア社会と比較する。 人類史的に巨大なモニュメントにはどのような意味があったのかを考える。それには王墓の構造や副葬品の考古学研究で明らかにされつつある成果を紹介する。 方法：スライドを中心とした講義。</p>					
学習目標	<p>考古学的な手法で日本古代の国家形成過程について学ぶ。 古代の東アジア社会の関係性を理解する。 巨大墳墓の比較から日本列島の古代国家と韓国・中国の各地域に形成された古代国家との歴史的特質について理解する。 さまざまな時代の墓を素材とした考古学研究から歴史の復元方法について理解する。</p>					
成績評価	期末試験85%、授業への参加態度15%	受講要件	歴史、とくに古代史に関心があること			

授業科目名	自己理解の心理学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		稲垣勉	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>私たちは、自分のことは自分が一番よく理解していると思いがちですが、必ずしもそうではないこともあります。自分を客観的な視点で理解するという事は、自分のみならず、他者を多角的に理解することにもつながります。この授業では、みなさんに複数の心理テストを体験していただき、その意味について考えたり理解を深めたりすることを通じて、「自分」というものを客観的にとらえる方法を考えていきます。講義による解説も並行して行います。 原則として、各回の授業では、心理テストなどの作業を行なったのち、教員で内容や結果についてディスカッションを行います(30分前後)。その後、結果の解説を含めた講義というスタイルをとります(60分前後：合計で90分の授業時間内に収めます)。</p>					
学習目標	<p>1. 心理テストの結果を解釈することを通じて、自分を幅広い視点から理解できる。 2. 授業で扱う心理学の領域について、基本的な知識を習得する。 3. 自分の考えを他者に伝えることを通じて、議論や理解を深めることができる。 4. 講義内容を踏まえて、自分の考えを適切に文章で表現できる。</p>					
成績評価	期末試験(60%)、復習の課題(40%)から評価します。	受講要件	特になし			

授業科目名	自然学校へ行こう	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		井倉洋二	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>自然学校へ、ようこそ！ 自然体験や暮らしの体験を通じた教育活動をベースにしながら、地域の資源を活かし、新たな価値を創造し、ソーシャルビジネスを興していくことで持続可能な農山漁村社会をつくっていく一連の活動や組織を「自然学校」と呼ぶ。豊かで持続可能な未来社会を創造するための新しい方法として、注目され始めている「仕事」である。この授業では、そんな自然学校の世界を知ってもらうことを目的に、九州各地で活動する自然学校の経営者たちを迎えて、そこでの取組と熱い想いを語ってもらう。この授業は、あなたの人生を変えるかもしれません！！ 1. 授業の目的は、自然学校について知り、将来の仕事を考えるきっかけとすること。 2. 授業の内容は、自然学校経営者の話を聴くこと。 3. 授業の方法は、毎回の講義とその感想レポートによる。</p>					
学習目標	<p>1) 自然学校について理解できる。 2) 豊かで持続可能な農山村社会について考察することができる。 3) 自然学校の活動に参加し、持続可能な社会と自らの「仕事」を切り拓いていく意欲を持つことができる。</p>					
成績評価	毎回のレポートと出席態度を80点、期末レポートを20点で評価する。	受講要件	自然体験、環境教育、持続可能な社会作りなどに興味がある人、タイトルを見て面白そうと思った人			

授業科目名	自然学校へ行こう 実践編I	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		井倉洋二	人文社会科学分野 (選択科目)	実習	集中	2
授業概要	<p>前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校に実際に行き活動してみたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地または全国各地の自然学校において、参加・体験活動(原則として7日間以上)を行うものである。なお、本授業を経てさらに深く実践的に学びたい学生は、「自然学校インターンシップ」を受講することができる。 1. 授業の目的は、自然学校での体験を通じて、自然学校の意義や活動内容を理解することである。 2. 授業の内容は、各地の自然学校(教員が紹介します)へ行き、活動に参加すること。 3. 授業の方法は、7日間以上の体験活動と、それをまとめたレポート作成および発表による。</p>					
学習目標	<p>自然学校での体験を通じて、自然学校の意義、活動内容等について理解できる。</p>					
成績評価	受講態度60点、期末レポートおよび発表会40点	受講要件	前期講義「自然学校へ行こう」を受講している者、受講済みの者、もしくはそれと同等の知識がある者			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	実験医学・行動心理学		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			桑木共之	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。実験を通じて、本を読んだだけではわかり難い医学・心理学の最先端の知識を具体的なイメージを伴って体得する。実験内容は、答えが予想できる実習形式のものから始め、最先端の未知の領域にも挑戦する。同じ日に同じ教室で開講される医学・行動心理学入門を受講することで合計4単位が取得できる。授業の方法は、各自が選択した課題を解決のための実験の遂行である。						
学習目標	実験行動心理学研究で多用される基本的な実験手技を説明し実践できる。仮説設定・検証実験・修正した仮説の再設定というサイクルで行われる科学研究の現場を体験することによって、「未知への挑戦」のが実行できる。各自が選択した課題が解決できる。						
成績評価	レポート(50%)と授業への参加態度(50%)		受講要件	医学・行動心理学に興味を持ち、実験を体験したい学生。高等学校の生物習得程度の基礎知識を持っていることが望ましい。			

授業科目名	障害児教育入門		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			米衛政光	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的は、障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる 共生社会の実現に向けて、障がい児教育に関する基本的な内容を理解することを目的とする。 2. 授業の内容は、障がいの概念、日本や世界の障がい児教育動向、障がい児とのかかわり方の理解につながるものを学習する。 3. 授業の方法は、毎回DVD等を視聴し、障がい児とその家族及び教師等の姿にふれさせ、イメージをもって理解を促す。 						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「障がい」と障がいによる活動制限についての基礎知識をもつ。 2. 障がい児理解の基本的な視点を知る。 3. 日本の障がい児教育の歴史と現状・課題について知る。 4. 障がい児教育をめぐる国際動向について知る。 5. 障がい理解を実践つないだ数々の取り組みから、障がい児とのかかわりの方向を考える。 						
成績評価	授業への参加態度・提出物(ミニレポート)(30点)、課題レポート(10点)、試験(60点)		受講要件	特になし			

授業科目名	書物に見る日本近代文学		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			多田蔵人	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	この授業では、日本近代文学の学習のために不可欠であるところの、書物に関する理解と調査方法を身につけることを目的とする。授業内容としては、近代における書物の流通について学ぶとともに、流通がどのように文学作品の成立に関わったのかを理解する。授業は配布資料等による講義と自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本近代文学を学ぶための様々な素材を理解し、適切に対応することができる。 ・書物の探索と調査を通して身につけるべき学習目標を立て、行動することができる。 ・日本近代文学において書物の果たした意味や役割を自分の言葉で説明することができる。 						
成績評価	期末試験60%、課題提出40%。		受講要件	特になし			

授業科目名	心理学概論		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			有倉己幸	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	初めて「心理学」を学ぶ学生を対象に「心理学」に関するさまざまな知見を紹介していきます。その上で、人間とはどんな存在かについて考えたり、対人関係や社会現象を多面的に見る視点を持ったりしてもらうことや、自分や他者、社会に関心を持って関わる態度を形成してもらうことを目指します。各回の授業では、最初に、性格テストなどの簡単な作業を行ってもらい、数人で結果についてディスカッションをしてもらいます(30分)。結果の解説を含め、講義を展開します(60分)。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の各領域について、基本的な知識を習得する。 2. 他者の行動や世の中の出来事に対して、多面的な見方をすることができる。 3. 自分や他者および社会に関心をもって関わるすることができる。 4. 講義の内容を踏まえた上で、自身の考えを適切に文章に表現できる。 						
成績評価	1. 期末試験80点(学習目標1, 2, 4) 2. 授業中や授業外に課す学習課題20点(学習目標1, 2, 3)		受講要件	1年生に限りません。再履修を認めません。			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	税と法律	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		鳥飼貴司	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	税金と世の中にある法律の要点について初歩的な知識を講義する。 1. 授業の目的は、社会人としての「常識」を理解する。 2. 授業の内容は、法律と税金の初歩的知識を解説する。 3. 授業の方法は、学生からのフィードバック(感想文提出)を紹介しながら、新規項目の解説を行う。					
学習目標	将来社会人となる学生に必要な税金と法律に関する基本的知識の涵養をめざす。 1. 学生は、社会の仕組みが説明できる。 2. 学生は、社会問題がどこにあるのか判断できる。 3. 学生は、社会問題への対処ができる。					
成績評価	3分の2以上の出席(レポート提出要件)、期末レポート(80%)と平常点(感想文採用度合20%)。期末レポートはA4で1枚です。2枚以上は減点(場合によっては不可)とします。表紙は要りません。遅刻は30分まで認めます。30分を過ぎた場合、欠席とします。	受講要件	特になし			
授業科目名	西洋史入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤内哲也	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	ヨーロッパやアメリカの歴史に関する諸問題について、単なる政治的な事件の羅列や概説ではなく、できるだけ身近で具体的な視点から考え、理解することを目的とします。2人の教員のリレー形式で行うため、それぞれの教員の詳しいテーマや進め方については、授業中に説明します。					
学習目標	1. 身近な視点から歴史をみる視角を得ることができる。 2. 西洋史研究に関する新たな動向を理解することができる。 3. 現代社会の問題を相対的に捉えなおす視点を身につけることができる。					
成績評価	それぞれの教員の持ち点を50点ずつとする。細川:授業への取り組み(授業内容に対する理解、それを発展させた柔軟な思考力を問うため、毎回小レポートを課して、総合評価とする:50点) 藤内:授業への取り組み(史料の読解:25点)とレポート(授業内容や西洋史に対する関心と理解:25点)	受講要件	特になし			
授業科目名	世界の中のイスラーム	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		森田豊子	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	目的: 1. イスラームについての基本的な知識の理解 2. イスラーム主義の歴史とその背景の理解 3. パレスチナ問題についての理解 4. 9・11事件以降の世界の動きとイスラームとの関連についての理解 5. 現代世界のイスラーム教徒の移民の問題についての理解 内容と方法: 基本的には講義形式を用いる。理解を深めるために映像などを使うこともある。					
学習目標	本講義では、イスラームに関する基礎的な知識を身につけ、現代世界で起きている西洋世界とイスラーム世界との間の様々な事件や問題について考察することを通して、現代の国際社会で起きている問題解決のためには何が必要であるのかについて深く考えることを目標としている。西洋側からだけ見た一面的な見方によって物事を理解するのではなく、多面的な視点を持って、もう一度国際問題について考え直すきっかけにしたい。					
成績評価	学年末の試験もしくはレポート(50%)、毎回授業で提出する小レポート(50%)	受講要件	特になし			
授業科目名	大学の日本史	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		金井静香	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	高校までの日本史の教科書で取り上げられていた内容はあくまで、これまでに積み重ねられてきた日本史研究の成果の一部であり、その研究は今現在も様々な研究テーマに基づいて続けられている。この講義では、そうした日々進展する学問としての日本史について、受講者各自が理解するとともにそれについて考察することを目的とする。担当教員の専攻にしたがって、日本史研究の現状と課題を、主に中世における公家と武士の関係にそくして講義する。					
学習目標	(1) 日々進展する学問としての日本史について理解する。 (2) 日本中世の公家と武士について、史料に基づいて理解し考察する。 (3) 日本史の研究内容について自分で説明できる。					
成績評価	小レポートおよび授業への取り組み(45%)、期末試験(55%)。	受講要件	特になし			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	中国と東アジア世界	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		福永善隆	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	私たちは一口に中国というが、そこには様々な文化・地域が含まれている。そのことは、中国語といっても、それは北京を中心とする北京方言にすぎず、例えば広東語などそれ以外の地域には様々なバリエーションがあることに示されている。現在の中国はそのような地域が分裂・統合されるなかで生まれ、さらに、その中国における歴史展開は日本・朝鮮半島を含む東アジア世界のそれと密接に結びついてきた。本講義では、中国古代の歴史を通じて、その統合がどのようにして達成されたのか、また、古代中国が世界帝国へと変化したのは何故か、などの点について中国社会の特質を踏まえながら講義していく。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 儒教を中心として、中国社会の特質を理解する。 (2) それぞれの歴史展開における中国と周辺諸国の関連性、及び両者の社会の異同を理解する。 (3) 中国を中心とした東アジア世界の国際秩序の特質について理解する。 					
成績評価	期末試験 (100%)	受講要件	特になし			

授業科目名	著作権とビジネスコンプライアンス	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		高橋省吾	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	近年、著作権問題が世界的に注目を浴びるなか、一般の学生も社会の一員として法規を遵守し、また自らの身を守る上でも、著作権制度を理解しておくことが強く求められる。この講義では、著作権制度に関しての法律の理解を基礎とし、著作権の権利の発生から消滅までの権利の一生の解説を行う。さらに、著作権保護に関連の深い、ゲームソフト、アニメーション、映画等のメディア産業の全体像を俯瞰し、そこで扱われる知的財産を総合的に把握しつつ権利化と管理および事業遂行に必要な知識とスキル習得を目指す。併せて、企業間における不正な行為を禁止する法律である不正競争防止法等に関する解説を行う。					
学習目標	今後の社会活動において、著作権やコンプライアンスに関し、何らかの形で対応を迫られる場面に遭遇したときに適切な処理ができる能力・知識を身に付ける。					
成績評価	授業への参加態度 (50%)、レポート・実習の内容 (50%) に基づいて、総合的に判断する。	受講要件	特になし			

授業科目名	貞観政要を読むー帝王学入門ー	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	この授業の目的は、古来、帝王学の教科書ともいわれた『貞観政要』を読むことにより、組織のリーダーに必要な資質及びリーダーを支える人間に必要な資質について考え、理解を深めることである。『貞観政要』とは「貞観の治」(627年～649年)とよばれている中国史上、最も平和な治世を実現した唐の太宗皇帝(李世民: 598～649)と名臣たちの政治問答集である。『貞観政要』は中国のみならず、日本においても北条政子や徳川家康、近くは明治天皇などに読まれてきた書物であり、組織の上に立つものにとって必要なことが説かれている。また、この書は、リーダーは如何にあるべきかということのみならず、リーダーを支える側近が如何にリーダーに諫言を行うか、人材の登用を如何に行うか、後継者はどのように育成すべきかなどについても論じられている。帝王学という言葉は、たまに聞く言葉であっても、正確に理解されていない言葉でもある。また、社会では誤解されている面もある。本講義で、その誤解を正すことも含め、本当にリーダーに必要な資質について考え、理解を深めるため実際の『貞観政要』をテキストとして使用する。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『貞観政要』という書物の概要を説明することができるようになる。 2. 人を治めるリーダー、組織のトップにとって真に必要な資質を理解する。 3. リーダーを支える立場の人間にとって真に必要な資質を理解する。 4. 『貞観政要』を熟読玩味することによって、「人間」というものへの洞察力を深める。 5. 自分なりのリーダー論、側近論を確立する。 					
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出 (50%)、期末レポート (50%)	受講要件	特段の要件はないが、将来、政治家、官僚(地方公務員含む)、経営者などの指導的立場を目指す人や、組織や団体の長を目指している学生には積極的に受講して欲しい。また、自身はリーダーではなくフォロワー(リーダーを補佐する人)に向いていると自覚している			

授業科目名	唐代の文学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		高津孝	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的は、中国の古典詩の精密な読解とより深い理解を目的とする。 2. 授業の内容は、唐代の詩を取り上げる。 3. 授業の方法は、唐代の詩を唐代の社会状況との関連の中で読み解くことで、中国古典詩の世界文学における意義を理解する。 					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 中国唐代の歴史・文化についての深い理解を得る。 (2) 唐代の詩についてのより深い知識に達する。 (3) 文学の社会性について理解する。 					
成績評価	作品理解に関するレポート提出2回で40点、学期末の筆記試験(60点)で評価を行う。筆記試験は、学期中に講義した内容について、確実な理解に達しているかを問う。	受講要件	予備知識は必要なし。中国文化に興味があれば十分。			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	日本国憲法	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		渡邊弘 他	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	日本国憲法を支える基本的な理念である「立憲主義」「民主主義」「平和主義」について、基礎的な知識を獲得すると共にその知識をもとに課題を解決することができるようになることをめざす。他者と協力して学習すること、その成果を授業内で発表し討論することを中心とする。また、憲法に関する基本的な知識については、予習段階で多様な参考文献を参照しつつ独習することが求められる。予習・授業・復習のサイクルを重視するので、予習をしてこない学生には出席を認めない。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法を支える基本的な理念である「立憲主義」「民主主義」「平和主義」について、説明することができる。 2. 日本国憲法に関わる基本的な知識について説明することができる。 3. 日本国憲法に関する基本的な知識を用いて、現実の社会が抱える諸課題について、自分なりの解決策を提示することができる。 4. 他者との討議を通じて、自らの考えを練り上げ、その結果を発表することができる。 					
成績評価	小レポート(全部で2回)と基礎知識確認テスト(第4回)を実施し、上記の学習目標が達成されているか否かを評価します。また、授業への取り組みを評価するため、予習確認プリントの評価も組み入れます。 小レポート=40% 基礎知識確認テスト=20% 予習確認プリント=40%	受講要件	旺盛に学習する意欲、授業中に私語をすることのない規範意識、新聞と書籍を読む習慣を持っている者のみ受講することができる。			
授業科目名	日本の焼き物	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		渡辺芳郎	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	日本における焼物の歴史を、先史時代から近代まで通観する。					
学習目標	日本陶磁器の歴史と特質について理解する。					
成績評価	ミニレポート(30%)、期末試験(70%)	受講要件	特になし			
授業科目名	人間と環境の心理学	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		園田美保	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	ここで取り扱う「環境」は、家や学校、地域など、日常的生活環境である。 1. 授業の目的は、自分を含む人間を理解する際に「環境」という視点を取り入れられるようになることと、また、心理学的な視点から環境をとらえ直し、快適な環境セッティングの構築にいかにせるようになることである。 2. 授業の内容は、人の心理・行動と物理的環境とが相互に関係し合っていることを具体的な研究例から学習する。 3. 授業の方法は講義形式で、テキストと配布資料を手元に置き、プロジェクタによる投影と口頭説明によって行われる。各回授業の最後には、各自が自らの環境や環境行動を重ねて考え、表現する出席カードを提出する。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 人が環境をとらえる際の特徴を、キーワード・概念を使用しながら理解する。 (2) 環境と関連深い人間行動のしくみを理解する。 (3) 日常生活や非常時でより効果的もしくは適切な環境行動がとれようになる。 (4) 心理学的視点から生活環境を見直すことができる。 (5) 環境の心理的意義を知った上での環境設定が行えるようになる。 					
成績評価	期末試験(100%)により評価します。ただし、期末試験結果が50点台であった者に関しては、毎回講義後に提出された出席カードの内容で積極的な受講態度がみられた場合、加点を考慮します。詳細は第一回の講義で説明を行います。	受講要件	80名以内			
授業科目名	How Language and Music Influences Society	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		トレマール・ジョン	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	This course is an introduction to Sociolinguistics. In this course, you will be introduced to the basic concepts of Sociolinguistics, and have the opportunity to study how language use influences certain aspects of society, including cultural norms, expectations, and context. In addition to this, we will look at how this is coupled with the influences of both classical and modern music on society. The two areas of study we will focus on will be 19th century Romanticism and the 1980s.					
学習目標	By the end of this course you will gain a basic understanding of what Sociolinguistics is. You will be able to demonstrate this understanding through a number of discussions and essays throughout the course. In addition, you will be expected to provide					
成績評価	Homework and Classroom Assignments 50% FINAL REPORT 50%	受講要件	This is NOT a second language learning class. All lectures and materials are in English only; you need to be competent in English to register for this class.			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	美術への誘い	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		池川直	人文社会科学分野(選択科目)	講義	集中	2
授業概要	1. 授業の目的は、絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術理論及び美術史・美術教育学の6分野における基礎的知識・技能の習得し、美術への興味・関心を獲得することである。 2. 授業の内容は、美術作品の制作過程・技法・背景、歴史、教育等、6分野の基礎的な箇所を取り扱う。 3. 授業の方法は、6分野を2-3コマごとにオムニバス形式で行うものである。					
学習目標	1. 人間らしく生きるために、また、これからの社会人としての資質向上の一方途として、美術に関心を持つことができる。 2. 美術を楽しむ契機とすることができる。 3. 美術への入門的内容を6分野にわたって理解することができる。 4. 美術を表現する上の初歩的な技術を理解することができる。 5. 美術教育、美術史の初歩的な知識を述べるることができる。					
成績評価	分野ごとに提出するレポート(100点)	受講要件	人数制限あり(30名)			

授業科目名	文化人類学の世界	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		桑原季雄	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	様々に異なる文化の研究を通して人間の深い理解にせまる文化人類学という学問の世界について、その研究対象や研究テーマ、人類学の歴史、独自の研究方法、人類学の視点のユニークさや面白さ、そして、現代の諸問題に人類学がどう貢献できるか等について紹介する。					
学習目標	1. 人類の長い進化の歴史を踏まえて、人間と人間以外の動物との比較を通してその違いを理解する。 2. 世界の多様な環境に暮らす人々の生活を通して人間および文化の多様性と普遍性について理解する。 3. 普段の生活で当たり前として意識されない身近なことを異文化の目を通して捉えてみる。 4. 人類学的な広い視野から現代の様々な問題を読み解いてみる。					
成績評価	レポート(50%)、予習レポート(20%)、小テスト(30%)	受講要件	特になし			

授業科目名	平和学-広島・長崎講座-	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		木村朗	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	第二次世界大戦(アジア太平洋戦争)末期に米国によって日本の広島・長崎両都市に対して行われた原爆投下と戦後の被爆者の問題を取り上げて、日米双方の歴史認識のあり方や戦後の対応の変遷を多角的な視点から総合的に考察する。					
学習目標	平和学の主要テーマの一つである「原爆と被爆体験」を取り上げ、特に原爆投下問題の歴史的背景や原因・目的などを考察することによって、平和学の基礎的知識および歴史認識を身につける。					
成績評価	レポート(45%)および試験(50%)、そしてアンケートなど(5%)で総合的に評価する。	受講要件	特になし			

授業科目名	簿記入門	担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		劉美玲	人文社会科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	会計は事業の言語と言われ、ビジネスにおいて、英語とともに重要視されている。簿記の基本知識は、企業活動や経営を理解するため、業種・職種を問わずすべての企業人に必要とされている。本講義は簿記の基本知識について学ぶ。日商簿記初級レベルの知識の習得を目標とし、演習問題に取り組みながら進めていく。適宜小テストを実施する。					
学習目標	日商簿記初級に合格するための基礎知識を身につけること。					
成績評価	授業への参加態度(20%) 小テスト(30%) 期末試験(50%)	受講要件	特になし			

4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	万葉集-古代人の心とことば-		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			富原カンナ	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業の目的は、万葉集について、原文表記、諸本の形態、歴史的背景を踏まえ、古代人がいかに自身の心情を表現したかという文学の営みを考えることにある。また、日本人が外来の文字である漢字を使ってどのように日本語を表したか、万葉集の原文に触れながら学ぶことをも目的とする。 2. 授業の内容は、万葉集の代表的な歌人の作品を学ぶことにある。歴史的背景、中国文学の影響等を踏まえ、あるべき解釈を考察する。 3. 授業の方法は、講義形式による。						
学習目標	1. 上代の文字使用について理解する。 2. 万葉集についての知識を習得する。 3. 歌への関心を高め、文学の感性を深める。 4. 中国の文化、文学の影響を受けながらなお独自性を保つ日本文学の特性について考えを深める。						
成績評価	授業の内容を踏まえた小レポート20点 期末試験80点	受講要件		教科書のない者の受講は認めません。 学期中に小テスト、およびミニレポートを課して授業に対する取り組みを評価します。			

授業科目名	倫理学入門		担当教員	4-2. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			柴田健志	人文社会科学分野 (選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	倫理学の基本的な考え方を講義します。						
学習目標	倫理学の基本的な考え方を理解すること。						
成績評価	期末試験によっておこないます(100%)。評価基準は(1)問題提起の的確さ(2)結論の妥当性(3)論理の整合性、以上3点です。	受講要件		特になし			

4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	基礎物理学実験	担当教員	4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		廣井政彦	自然科学分野 (実験科目)	実験	毎週	1
授業概要	物理をよりよく理解するには実験で確認して納得することが欠かせない。物理現象や法則は実験で確認されて初めて、普遍的な真理として万人に認められ、科学技術の基礎としても花開いてきたのである。その基礎的で代表的な物理の実験をいくつか体験して、納得し、物理に感動し、親しみながら物理の理解を深めてもらう。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験を通して物理現象を解明し理解する能力を養う。 2. 基本的測定器具の取扱いに習熟する。 3. 測定データの取扱い方、レポートのまとめ方に習熟する。 4. パソコンを使ったプログラミングの初歩を体得する。 					
成績評価	実験への参加意欲・態度50%： 実験では、出席し、自ら実験を行うことが重要なので、この点について厳しく評価する。各実験毎に提出するレポート点50%： レポートについては、口頭試問を行って理解度を調べる。	受講要件	高校程度の物理は習得していることが望ましいので、高校での物理の学習や理解が不足している人はそれを補うようにすること。			

授業科目名	基礎化学実験	担当教員	4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		横川由起子	自然科学分野 (実験科目)	実験	毎週	1
授業概要	化学の学習は、講義だけでなく実際に実験を行い、現象を観察し、理解を深めることが大切である。理論だけに走り、実験技術をかえりみないのは片手落ちである。逆に機械的に操作するだけでは意味がなく、操作の原理も説明できることが必要である。反応、定量の原理を学習しながら、実験技術を体得することを目的とする。内容は無機化学、分析化学、有機化学のもっとも基本的な部分であり、各自で実験を行い、結果を観察する。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 高校までの化学の学習において、実験の経験のない場合や、グループ実験しか行ったことがない場合でも、一人で実験を行うことができるようになる。 (2) イオンや化合物の反応に関する知識、系統的な組み立てや法則性、定量的な関係を観察し、操作法を理解する。 (3) レポート作成、実験マナーを体得する。 (4) 排水廃液管理と廃棄物管理の実務に関わる環境保全施設教員(公害防止管理者水質1種保持)より、化学薬品、実験廃液の取り扱いや、水質汚濁防止法などについて解説する。 					
成績評価	毎回のレポートは、A、B、C、Dの4段階で評価し、すべてのレポートの評価を平均して評価する。実験態度が悪い場合は減点する。	受講要件	高校化学の内容は習得していること。			

授業科目名	基礎生命科学実験	担当教員	4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		宮本句子	自然科学分野 (実験科目)	実験	毎週	1
授業概要	生命科学は生き物の共通性や独自性の仕組みを解き明かすことで生命の本質を理解しようとする学問です。生命の本質を理解するためには、実際に生命現象を観察することと実験により結果を導き出すことが必要です。本実験では、生命科学を理解するための基礎となる観察・実験を行うことで、生命現象を理解するとともに基礎的技術を修得します					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命現象の基礎的事例を観察し、理解を深める。 2. 生き物そのものへの関心を高める。 3. 生命科学に関する実験に必要な器具・装置類の扱い方の基本的技術を修得する。 4. 実際に観察したものを正確かつ明瞭に表現する能力を養う。 5. 実験から得られたデータを的確に取りまとめる能力を養う。 					
成績評価	毎回のレポートを評価の対象とする。欠席した場合はその回の点数がゼロになり、総点が不足して単位を取得できないことがある。	受講要件	特になし			

授業科目名	基礎地学実験	担当教員	4-3. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		井村隆介	自然科学分野 (実験科目)	実験	毎週	1
授業概要	共通教育棟3号館4階地学第一学生実験室(部屋番号417)・地学第二学生実験室(部屋番号419)で行なう。授業目標にあげた内容について、1回に1課題程度を逐次実施していく。野外実験の際にはそれに適した服装が必要である。					
学習目標	(1)室内実験では、鉱物や化石、地形や地質など各回のテーマが変化するため、実験の説明を理解し、主体的に取り組む。(2)野外実験では地形・地質調査の概略を理解し、岩石・鉱物・化石の採集を通じて、地球の生い立ちを理解する。					
成績評価	ほぼ100%レポートによる。各回のレポートによって成績をつける。実験を欠席した場合にはレポートが提出できず、成績がつけられなくなるので欠席しないよう留意すること。	受講要件	特になし			

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	遺伝のしくみ	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		一谷勝之	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業の目的: 19世紀後半にメンデルが構築した「仮想的粒子としての遺伝子」に基づく遺伝のしくみから、20世紀半ばに発見された「物質としての遺伝子」DNAに基づく新しい遺伝のしくみまで、遺伝学の基礎を理解する。 2. 授業の内容: 細胞分裂、メンデルの法則、連鎖、遺伝子の発現、突然変異など。また、遺伝のしくみに関連する最近の諸問題も学ぶ。 3. 授業の方法: 教科書の図表をスクリーンに映し、解説する形で進める。紙に印刷した補足資料を配布することもある。実験材料、実験器具を閲覧し、手にとってもらうことも計画している。					
学習目標	1. 高校程度の遺伝学を理解する。 2. 最近の遺伝学に関する基本的な内容を理解する 3. 遺伝学が生命・生活と関係していることを理解する					
成績評価	小テスト(1回ごとの講義内容の復習 30%、欠席の場合は0点)と、講義内容全体が出題範囲となる期末試験(70%)	受講要件	特になし			

授業科目名	宇宙のすがた	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		半田利弘	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	目的: 現代科学が明らかにした宇宙の姿を知ることで、宇宙における地球人という意識を持つための素地となる認識を持つことを目的とする。 内容: 現在理解されている宇宙の姿について、全体を概観した上で、地球近傍から順次遠方へと話題を進め、それぞれのスケールでの現代の宇宙観を示すとともに、それらの知見がどのようにして得られたのかについても言及する。 授業形式: パワーポイント等を用いた視覚教材と口頭による解説を組み合わせで行う。適宜、ミニツペーパーや課題レポートを課す。					
学習目標	(1) マスコミ等で報道される宇宙や天文の話題が理解できる。 (2) 1つの対象でも、異なった複数の立場から見ると違いがあることを実感できる。 (3) 「科学的」の本当の意味を実例や科学の歴史を通して考えることができる。 (4) 限定された方法しか使えない場合でも対象の正体に迫る方法を具体例を通して学ぶ。 (5) 講義内容のノートを取ることで、他人の話の要点を的確に把握・記録することができる。					
成績評価	授業中の小テストやレポートを総合して評価する。原則として再試験等は行わない。	受講要件	特になし			

授業科目名	教養微分積分学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		小櫃 邦夫	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	講義の目的は、現代数学の基礎をなす微分積分学の発展の歴史、理論の進展に貢献した数学者たちの業績、微分積分学の重要な概念について学ぶことである。					
学習目標	1. 微分積分学における諸概念がどのようにして生まれたかを理解する。 2. 微分積分学の発展に貢献した数学者たちの業績を知る。					
成績評価	微分積分学の発展の歴史、理論の進展に貢献した数学者たちの業績、微分積分学の重要な概念、基礎的な微分積分の問題についてレポートを課し、成績評価する。	受講要件	微分積分学の発展の歴史を理解したいと真摯に思っていること。高校の数学I、数学A、数学II、数学Bの内容を学習済みであること。 高校数学レベルの初等関数(三角/対数/指数関数)の定義や基本的な性質を理解していること。			

授業科目名	暮らしの中のバイオ	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		侯徳興	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	バイオテクノロジー(バイオ)は種々の生物の活動を分子レベルで解析し、理解しながら、それらの成分、産物、機能を最大限に活用して人の生活を豊かにする技術である。これらに関する技術は21世紀を拓く先端技術の1つとして、近年の生物学、生化学、工学、分子生物学の飛躍的な発展により誕生して、社会の認知と理解を得ながら発展し実用化されている。そして、今後一層の進展が期待されている。本講義ではバイオの基礎となる、私たちの食の素材・歴史・科学を学び、そこに込められている人類の経験と叡智に触れ、さらに酵素や遺伝子の働きや利用までをその分野のエキスペートから分かりやすく学ぶ。					
学習目標	1. 微生物を利用して作られる乳製品、酒、酢、醤油についての理解を深める。2. 生活の中で遺伝子組換えはどのように利用されているか学ぶ。3. 遺伝子組換えの原理を知り、この技術について学ぶ。4. 抗菌ペプチドの成り立ちと作用機構および産業への応用について理解を深める。5. カロリー源としての糖質だけでなく機能性食材としての新しい糖質について学ぶ。6. 生体の健康を保つ機能が食品成分によりいかに影響されているかを理解し、食品の重要性への認識を高める。7. 微生物感染による植物の病気発症のメカニズムとその防御機構を理解する。					
成績評価	毎回、講義の最後にレポートを提出する(100%)。	受講要件	特にありませんが、遅刻しないこと			

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	娯楽数学		担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			青山究	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>もともと数学は面白いんです、考えることはとても楽しいことなのです。それがどうして「そう」なってしまったんでしょう、文系さん？ ということで、この授業ではパズルなどを題材にして、とにかく考えることを楽しみましょう。サイン・コサイン出てきません、微分・積分もついでに。高校までとはまったく違う「これ数学？」な授業です。</p> <p>ただし学習目標達成のために、正しく「疑い」正しく「考える」例として、「お子ちゃん」の目から隠されてきた話題に触れたり「善良な市民」として根拠無く信じ込まされてきた事を否定してみせたりしますので、人によっては不快に感じる部分があるかと存じます。受講に際してはこれらの点を充分にご留意下さい。つまり、この授業はアダルトコンテンツを含みますので18歳未満の受講・聴講を固くお断りするとともに、すべて自己責任にて受講下さい。</p>						
学習目標	<p>「信じる」人から「疑う」人に、 「思う」人から「考える」人に、 「数が苦」な人から「数楽」な人に、 なること。</p>						
成績評価	毎回の授業で課せられるレポートによる。		受講要件		こんな授業は1回聞けば十分なので、再履修はご遠慮下さい。		

授業科目名	地震と火山		担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			宮町宏樹	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>日本は大地震、火山噴火がしばしば発生する地域です。広域被害をもたらす大地震の発生や火山噴火現象は広く報道され多くの情報が提供されますが、それらの自然現象に対する基礎的な科学的知識に基づき的確に理解し判断することが大切です。この授業では、地震や火山に関する基礎的な科学的知識をトピックス別に学び、地震や火山に関して適切に理解を深めることを目的としています。</p>						
学習目標	<p>(1) 地震予知と火山噴火予知の現状を理解する。 (2) 地震現象の基礎を理解する。 (3) 火山噴火現象の基礎を理解する。 (4) 地震及び火山に関する防災を知る。</p>						
成績評価	(1) 授業毎に取り上げるトピックスの中から一つを選び、そのトピックスに関する設問や課題に関する回答を小レポートとして提出してもらい、その内容で授業毎の理解度を評価します。 (2) 防災レポートを評価します。 (3) 小レポート50点、防災レポート50点として評価します。		受講要件		特になし		

授業科目名	焼酎		担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			高峯和則	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>1. 授業の目的は、南九州に根ざした食品産業である焼酎に関して理解を深めることを目的とする。 2. 授業の内容は、南九州の重要な地場製品である焼酎について、嗜好品としての特徴は当然であるが、その歴史、文化、経済、製造法、さらに健康関連副産物、環境に関わる後処理技術等の講義を行う。 3. 授業の方法は、多数の非常勤講師が参加するが、各講義において講義終了前にレポート(学習の振り返り)提出を義務づけている。</p>						
学習目標	<p>・焼酎の嗜好品としての位置づけ、歴史、文化、経済、製造法等について幅広い知識を修得する。 ・「焼酎」について、地域と関連づけて1時間程度の話ができる。</p>						
成績評価	授業概要に記した通り、毎回のレポート(学習の振り返り)によって、評価する。		受講要件		特になし		

授業科目名	生物学入門		担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			河邊弘太郎	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	<p>近年、急速な発展を遂げている生物学を基礎とした科学技術は、新聞やニュースで取り上げられない日は無いといっても良いくらい私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。この授業では、生物学の基本となる事象から現在ホットな研究トピックスを紹介し、教養としての生物学を体系的に身につけることを目的とする。授業内容としては、高校レベルの生物を復習しながら、現在行われている関連した最先端の研究内容を紹介する。</p>						
学習目標	<p>本授業を履修することにより、生物学の発展により明らかとなった知見や、現在起こっている様々な問題について、主体的な判断ができるような基本的な知識を得られることを目指す。</p>						
成績評価	毎回の授業後にManabaから小レポートを提出(100%)。		受講要件		特になし		

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	生物とリズム	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		笠井聖仙	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	私たちはふつう夜寝て、昼間活動している。それに対してラットやゴキブリは夜行性の動物で、暗くなると活動を始める。これら昼夜の活動はからだの中にある生物時計が、明暗サイクルに同調することで起こる。この生物時計がどのような性質をもつかを理解し、私達人間にとっても不可欠なものであるかを知ってほしい。理解を深めるために動物のからだの仕組みと働きについても解説する。					
学習目標	日常のなにげない生活は、体の働きと密接な関係において成り立っている。登校拒否などは心の問題であるとともに、体の中にあるリズムの乱れが原因となることがある。このリズムがヒトを含むすべての生物にとって重要である。このことを理解することを学習目的とする。					
成績評価	レポート(70%)と受講態度(30%)	受講要件	受講者数制限(110名以内)。受講希望者多数で抽選の場合、以下のように優先順位をつける。 優先1位 1年生 優先2位 2年生			

授業科目名	動物の病気	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		三好宣彰	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	動物は生活する環境により、人との関係が強い家畜(産業動物)および伴侶動物と野生動物さらに実験動物とに区別され、これらの動物に発生する病気には動物固有の病気と人にも感染する共通の病気(人獣共通感染症)がある。 1. 授業の目的は、このような動物と人との病気を理解することである。 2. 授業の内容は、様々な動物における体の構造と機能を理解し、動物に感染する病原体による病気や病原体とは関係なく発生する病気の概要や要因を学び、さらに動物の病気の診断法、治療法、予防法についての知識を修得できるように構成している。 3. 授業の方法は、主にスライドを利用した講義形式で、共同獣医学部所属の15名の教員が担当し、必要に応じて資料を配布する。毎回、その回の授業に関してあるいは各担当教員が指示する課題についてのレポートを授業時間中に作成して提出する。					
学習目標	1. 動物の体の構造、機能、反応を理解し、動物の体の仕組みについて説明できる。 2. 動物に感染する病原体を知り、動物の感染症について説明できる。 3. 動物の感染症以外の病気を学び、その特徴や要因について説明できる。 4. 動物の病気の診断、治療、予防を理解し、その方法について説明できる。					
成績評価	学習目標の達成度を毎回授業中に提出するレポートについて各共同担当教員が評価し、その平均を最終評価とする(100%)。欠席した場合、その回は0点である。	受講要件	特になし			

授業科目名	乗り物の物理学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		半田利弘	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	鉄道、ロケット、航空機を中心に、それらが機能する基本原理と物理学との関連を解説する。これによって、高校までに習った物理学が実生活ではどのように応用されているかを実例を通じて紹介する。					
学習目標	(1)身近な機械装置やシステムの背後に物理学があることに考えが及ぶ。 (2)様々な装置やシステムの動作原理を考慮することに意義を見つめられる。 (3)高校までに習う物理学が実生活でもいかに役立っているかを納得できるようになる。					
成績評価	出席状況、授業時のレポートを総合して評価する。再試験等は原則として行わない。	受講要件	高校程度の物理学や数学。 各種交通機関のしくみについて興味があること。			

授業科目名	放射線とくらし・地域	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		中村祐三	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	本授業では、放射性物質や放射線について、その発生の原因や私達に与える影響、放射線の利用に関する諸原理や技術の基礎を理解することを目的とする。このため、本授業では、現代物理の基礎に触れ、原子と原子核の構造について学ぶ。原子由来の放射線として、医療から工業まで幅広く用いられるX線の性質を学び、私達の暮らしの中だけではなく、科学技術にも応用されている例を学ぶ。また、原子核由来の放射線としてα線、β線、γ線、及び放射線と物質との相互作用について学び、放射線が私達の体に与える影響について基礎的な知識を得るとともに、生物学的影響を加味した線量の単位シーベルトで表される数値について理解する。加えて、原子力発電の原理について学ぶとともに、原子力関連の事故について調べる。これらの知識を体験的に深めるため、環境放射線測定、自然放射線測定、分析機器見学、霧箱作成などの実習を行うとともに、ディベートを通じて相互の理解力を高めよう。					
学習目標	自然界、暮らしにある放射性物質、放射線についてどのようなものがどれだけあるか、また、場所や時間によってどのように変動するかを理解することができる。医療、科学技術の様々な分野における放射線の利用について基礎的な素養を得、郡元キャンパスでどのようなものが使われているかを学ぶ。放射線が生体に及ぼす影響の原理、放射線障害とその防止について素養を得る。核分裂反応、原子炉の原理について理解し、原子力発電(特に地元の川内原子力発電所)に関する素養を得る。原子力関連の事故について学び、防災の概念について素養を得					
成績評価	個人あるいはグループに1) 授業で出す課題、演習問題のレポートならびにディベートの参加度が60%、2) 試験をかねたまとめの課題レポートで40%で評価する。総合評価により90%以上をA、80%以上をB、70%以上をC、60%以上をD、60%未満をFとする。授業外学習(授業時間の2倍)が不十分と認められた者はFとする。	受講要件	特になし			

4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	身近な話題の生物学	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		富山清升	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	身近なテーマをキーワードとして、細胞のいとなみや遺伝の様式に関して、生物学の基礎的な知識を更に発展させて理解を深めると共に、生物をとりまく環境の問題にもふれます。細胞の発見、構造、化学成分、遺伝のしくみ、遺伝子とは何か、食物をとり入れエネルギーを得るしくみ、情報の伝達、生体を防御する仕組み、などをわかりやすく説明し、生命とは何か、生きていることは何かを、生物科学の内容を通して考えていきます。					
学習目標	本講義では、生活にかかわりのある生物学関連の話題を理解するために、誰もが必要とする生物学の基礎知識が得られるように、細胞の営みや遺伝を中心とした生物学の基礎知識をさらに深めることを目的とします。 1. 生物学の基礎知識を習得する。 2. 生活に関わりのある生物学関連の話題を理解する。					
成績評価	毎時間書いてもらう簡易レポート(70%) 確認プリントを含む授業への積極性および参加態度(30%)	受講要件	高等学校の生物学を受講しているほうが理解はしやすいとは思いますが、文系の学生も意識した開講ですので、さほど専門的な予備知識は要求しません。意欲をもって講義に臨めばよいと思います。			

授業科目名	理系ジャーナリズム	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		半田利弘	自然科学分野(選択科目)	講義	毎週	2
授業概要	現代社会では科学や科学技術と無縁で生活することは不可能である。したがって、科学に関する報道の特性、一般の報道の特性をよく理解して対処することは現代人には必須の素養と言える。いろいろな分野の報道関係者や報道に関連した取材・発信経験を持つ研究者からその体験やそれを通じて得た知見を学ぶ。					
学習目標	1. 科学に関する報道を受ける際に留意すべき点を認識する。 2. 科学や科学技術に携わる者として取材を受ける際に気にすべき点を意識する。 3. 一般的な報道、科学に関する報道の違いと特性を認識する。					
成績評価	平常点(授業中の質問(50%)と担当教員が随時出す課題レポート等(50%))	受講要件	授業計画とその他に記載した変則時間割に対応できること。			

授業科目名	スポーツ実習(バドミントン)	担当教員	4-4. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		宮脇千恵美	自然科学分野(選択科目)	実習	毎週	1
授業概要	体育・健康科目の「体育・健康科学理論」や「体育・健康科学実習」で自己の運動能力や体力に応じた安全で効果的な運動やスポーツの行い方を学習したことを大学生活の中で実践することを目的としている。この実習では、生涯にわたって生活のなかにスポーツを取り入れることの意義や重要性を理解するとともに、ライフステージに応じた実施可能なスポーツ種目を見つけ出し、楽しみながらスポーツを継続していける態度・習慣を確立する。さらに、コミュニケーションやリーダーシップの能力を高めることができるように、各スポーツの基礎および応用練習やゲーム等をチームメイトやパートナーと協力して実施する。					
学習目標	1) 生涯にわたる運動の重要性について認識する。 2) 運動による怪我や障害を防ぎながら技能を高めるとともに運動を楽しむ方法を理解する。 3) スポーツのルールを理解し、ルールを変更することでスポーツの楽しみを増す方法を理解する。 4) コミュニケーションを積極的に図り、協力してスポーツを楽しむ態度を身につける。 5) スポーツを日常生活に取り入れることができるようになる。					
成績評価	運動技能60%、授業中の活動(授業への取り組み、クラスメートとの協力やコミュニケーション、リーダーシップ)40%として評価する。	受講要件	体育・健康科学実習1単位を満たしていること			

4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	基礎数学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		郭永明	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業の目的は、微分積分学の基本定理や積分の基本公式を理解し、計算する力を養うことである。 2. 授業の内容は、微分積分学の基本概念、1変数関数の微分積分学の基本定理や積分の基本公式等である。 3. 授業は講義、レポート、小テストおよび期末試験を組み合わせた方法で行う。					
学習目標	(1) 関数、関数の極限および連続関数の概念が理解できる。 (2) 1変数関数の「微分」、「積分」の概念が理解できる。 (3) 1変数関数の微分積分の基本定理、基本公式を十分理解し、それを運用することができる。					
成績評価	小テスト(30%)、数回のレポート(20%)および期末試験(50%)で評価する。	受講要件	特になし			

授業科目名	基礎数学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		重廣律男・須本祐史	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	高校「数学II」の履修の有無によらず、幅広い学生層に対応できるよう基本的な例題を中心とした内容である。厳密な理論展開を避け、基本的な例題解説を行なう。さらに、講義と演習を組み合わせ、演習問題を解くことにより実用的な手法が身につく。					
学習目標	1. 三角関数、指数関数と対数関数の実用的な活用ができること。 2. 微分・積分の物理的な意味を理解し、かつ、実用的な活用ができること。					
成績評価	レポート(30点)、期末試験(70点)の評価を行う。	受講要件	特になし			

授業科目名	基礎物理学入門	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		中村啓彦・江幡 恵吾	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	この授業では、物体の運動を中心とした物理学の基礎を習得することを目的とします。 授業の内容は、はじめに指定した教科書をもとに身のまわりの物理現象を例として挙げながら説明を行い、次に演習問題を解くことで物理学に対する理解を深めます。 そのため、この授業では教員が板書やパワーポイントなどのスライドを用いながら説明を行う講義形式の方法で行います。					
学習目標	1) 身のまわりの自然現象について物理的側面から考えることができる。 2) 物体の運動に関する数学的表現を理解することができる。 3) 力学の基本的な概念や法則(ニュートンの運動の3法則、力学的エネルギー保存則など)を理解することができる。					
成績評価	期末試験で評価します。(100%)	受講要件	特になし			

授業科目名	基礎化学入門A	担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
		横川由起子	自然科学分野(基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	化学は、原子のレベルから物質を理解する学問であり、自然科学のあらゆる分野と何らかの関わりをもっている。本講義では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎的な内容を修得することを目標とする。					
学習目標	原子や分子を理解するためのミクロな側面として、原子の構造、軌道の概念と電子配置、結合と分子・集合体の形成、周期表の構成を学ぶ。さらにマクロな側面として、物質の三態、熱力学的変化、化学反応などについて学ぶ。					
成績評価	3回の試験の合計点で評価する。	受講要件	高校時代に「化学」の学習・習得が不十分であったり、大学受験で「化学」を選択しなかった学生を対象とする			

4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)

授業科目名	基礎化学入門B		担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			橋本文雄	自然科学分野 (基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	生物は有機化合物によって構成され、生命体内のほぼ全ての反応には有機化合物が関与しているため、生命現象を理解する上で、有機化学を学ぶ事は特に重要である。有機化学の原理を把握し、それによって多くの現象を統一的に理解する。生命現象の基本となる有機化学の基礎を統一的に理解させることを目的とする。本講義では教科書の前半6章、有機化学の最も基礎となる部分を講義し、例題問題を解答して深く理解する。						
学習目標	化学構造式、分子の骨格、基礎化学反応、立体化学を理解する。						
成績評価	期末試験(80%)と授業理解度(20%)により評価する。また、この不合格者に対しては再試験を行う。授業理解度とは、授業中に演習問題を解くことにより評価する。			受講要件	特になし		

授業科目名	基礎生物学入門		担当教員	4-5. 教養教育科目(教養基礎科目)	科目形態	開講区分	単位
			坂巻 祥孝	自然科学分野 (基礎教育入門科目)	講義	毎週	2
授業概要	生物を履修していなかった学生にも理解できるように努める。学生に身の回りの生物や生物現象に関心を持たせ、主体的、積極的にかかわらせる中で、問題を見出す力や科学的な思考力や表現力を育成する。						
学習目標	高校生物レベルの知識の習得と理解につとめ、生命科学分野の専門教育への橋渡しとなるような授業を提供する。生命科学を深めるための基礎的学力を養うことに努める。						
成績評価	小テスト、受講態度 (20%) 最終テスト (80%)			受講要件	特にないが、高校で生物を取っている学生は受講の必要はない		

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	稲盛哲学：稲盛研究の最高峰が伝授	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		吉田健一	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	授業目的：経営哲学、社会哲学としての稲盛哲学（稲盛フィロソフィ）のアカデミックな理解を図ることを目的とし、「社会生活の基盤となる倫理について考えを述べられる」ようになるための学力（とりわけ「思考力・判断力」及び「主体性・協働性」）の拡大を目指す。 授業内容：社会哲学、経営人類学、管理会計学の立場から、この分野における国内最高峰の研究者（稲盛アカデミー客員教授）による稲盛哲学理解に資する内容。 授業方法：教科書及び担当教員が配布する資料による講義を行うとともに、ワークシート等を介した理解の深化を図る。					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・稲盛哲学（稲盛フィロソフィ）について、社会哲学、経営人類学、管理会計学（「アメイバ経営論」）の立場から学術的に理解する。 ・稲盛哲学がなぜ人、組織、社会を動かすことができるのかについて自らの言葉で説明することができる。 ・稲盛哲学の学びと自らの倫理観の関係を知る。 					
成績評価	ワークシート60点、レポート40点	受講要件	特になし			
授業科目名	いのちと地域を守る防災学 I	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		松成裕子	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。後期の「いのちと地域を守る防災学II」と対になる構成となっており、前期の本授業では、災害を知り、それに対する対処・対策を考えることに重きが置かれている。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の1つとなっている。					
学習目標	1. さまざまな自然災害の発生のしくみを始めとして、防災にかかわる知識や技術などを理解し、災害種ごとに説明できる。2. 災害種ごとに一般的な対策・対処のしかたを理解し、地域の特性に応じておおよそ適当な対策などを選択できる。3. 方が一に災害が生じた場合、いのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得する。					
成績評価	各担当教員によるレポートの成績（評点）を集計し、評価する。別途レポートを課すこともある。	受講要件	後期に開設される「いのちと地域を守る防災学II」も併せて受講することを基本的な要件とする。			
授業科目名	Intercultural Understanding and Acceptance	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		福富渉	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	本授業には、日本人学生・留学生両方の参加が望まれる。授業参加者のあいだで、英語（および日本語あるいはその他の言語）によるプレゼンテーションやディスカッションをおこなう。さまざまなバックグラウンドをもつ授業参加者の多様な価値観をすり合わせ、共有し、理解しようと努めることで、自身が現代の多文化世界に生きていることを強く自覚し、そこに存在するさまざまな論点・問題に関して自らの意見を発信する訓練をおこなう。授業では、担当者（参加者数にもよるが、毎週二名程度）が各回のテーマに沿って簡単なプレゼンテーションを作成し、翌週に発表する。その発表をもとに、受講者のあいだで議論をおこなう。プレゼンテーションは基本的に英語で作成し、英語で発表すること。ただし、流暢な英語・整った英語を書き、話す必要は一切ない（担当教員の英語も決して流暢ではないし、整ってはいない）。重要なのは自らの意見をアウトプットし、他人に伝えることであり、その場で辞書を引いてでも自分の考えを積極的に相手に伝えようとする姿勢が望まれる。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異なる価値観が交流する中で、相手の意見を受け取り、自らの意見を発信する能力を養う。 2. グローバル化の進む現代社会において、自らが多様な文化状況の中に生きている一人の人間であるという自覚を養う。 					
成績評価	エッセイ (40%)、グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%) Final essay (40%), Group work (30%), Presentations (30%)	受講要件	特になし			
授業科目名	かごしま教養プログラム	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		岩船昌起	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を生かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習し、グループテーマについて取りまとめと発表を行います。					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 (2) グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 (3) テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。 					
成績評価	発表内容30%、ポスター完成度15%、発表態度15%、レポート内容40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。	受講要件	連続開講する「かごしまフィールドスクール」を原則として受講することを、受講要件とします。			

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	環境ビジネス1	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		大前慶和	統合I (課題発見)	演習	毎週	2
授業概要	<p>▼環境ビジネスの考え方を学ぶと共に、実際に環境配慮イベントを開発し、展開することにより、知識と実践の融合を目指す。</p> <p>▼本講義では、基礎知識および行動枠組みを担当教員より与えつつ、受講生全員が計画立案、作物栽培、堆肥製造、イベント開発、イベント展開、さらには様々な協力主体との交渉を主体的に担当する。</p> <p>▼座学的要素だけではなく、ディスカッション、様々な実践、また資料づくりやプレゼンテーションの訓練など、総合的な教育方法を採用する。</p> <p>▼後期に環境ビジネス2を開講し、実際にイベント展開等を行うことになる。前期開講の環境ビジネス1では、その前提となる計画立案、作物栽培等が中心的な課題となる。環境ビジネス1と2は、連続して受講することを想定している。連続受講に合意できる者のみ、履修登録すること。</p>					
学習目標	<p>▼環境配慮とビジネスとの接点を理解する。</p> <p>▼知識の蓄積だけではなく、実践には知識の活用が必要であることを体得する。</p> <p>▼コミュニケーション能力、コラボレーション能力、発想力、交渉力を身につける。</p> <p>▼特に、グループワークが中心となるので、主体的かつ責任ある判断と行動がとれるようになる。</p>					
成績評価	▼授業への参加度(授業態度、貢献度、企画運営への参画度):80%、提出課題(プレゼンテーション資料、最終レポート):20%	受講要件	▼少人数を対象とした実践的な内容を含む講義であるため、強い参加意欲および貢献意欲を持っていること。 ▼毎回の出席の意欲のない者の履修登録は遠慮して欲しい。			
授業科目名	キャリアデザイン	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		高丸理香	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	<p>1) 授業の目的は、鹿児島大学生がおかれている状況や働くことに関する基礎知識について学ぶとともに、人生を通して柔軟にキャリアを形成していこうとする姿勢を養うことで、社会人となるための基礎力を身につけることである。</p> <p>2) 授業では、自分自身の適性や価値観の気づきに加え、他者との違いや多角的なものの見方について考えることを重視する。</p> <p>3) 授業の内容は、座学および多彩なゲストスピーカーによる講話である。</p>					
学習目標	<p>1) 自己を客観的に見つめ直し、適性について考えることができる。</p> <p>2) 社会人となるための基本的態度やマナーを身につける。</p> <p>3) 多様な働き方や価値観について考え、自身や他者の考えを尊重することができる。</p> <p>4) 働くうえで必要な資源や情報とは何かを考え、獲得するための行動に移すことができる。</p>					
成績評価	期末レポート(40%)、小課題(40%)、授業への参加態度およびコメントページの提出(20%)とし、評価する。 (※3分の2以上の出席が必須)	受講要件	授業中に「manaba」を利用する。			
授業科目名	グローバル・イニシアティブ概論	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		森田豊子	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	<p>本授業は共通教育科目として実施される種々の海外研修に参加した学生を対象に、事後学習として行う。様々な異なる地域を訪れた学生たちが、研修先での経験を報告しあい、共有し、議論しあうことを通じて、海外でのそれぞれの「気づき」を言葉で表現し、確かなものにする。また、お互いに切磋琢磨しあう中から、さらにステップアップするための方向性を見つけるよう導く。授業内容には、海外研修に参加した学生同士のグループワークに加えて、国際舞台で活躍する著名な方の講演、長期海外留学や企業やNGOにおける海外インターンに関する情報提供、語学学習のサポートなども含まれる。</p>					
学習目標	<p>1. 【Global Understanding】 自己の立脚する歴史と文化の価値を深く認識するとともに、他国の文化やその独自性・多様性を尊重し、自文化を相対的に捉えることができる。</p> <p>2. 【Global Exploration】 グローバル化する世界の現状を認識し、既存の価値観を越えた柔軟な判断により解決策を提案できる。</p> <p>3. 【Global Actions】 多文化的状況において自立して行動し、母国語と外国語で意思を明確に伝えることができる。</p>					
成績評価	授業への参加態度および毎回授業後に提出するレポートによって評価する。授業での発言はプラス2ポイント、レポートは5点満点の1.4回、発表は30点	受講要件	鹿児島大学の共通教育科目で実施されているP-SEG海外研修に参加した者を対象とする			
授業科目名	グローバル社会を生きる	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		中谷純江	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	<p>国家や国民を意味するnationを基本単位としたinternationalとは異なり、globalは世界を一体化したものとして考えることを意味する。そこでは、世界で起きているさまざまな出来事は、自分とは関係のない遠い世界のことでではなく、自ら解決方法を考えなければならぬものとなる。ヒト・モノ・カネがかつたないほど流動性を持つ現在、世界をどのように捉えて、自らコミットしていくべきなのかについて、本講義で共に考えていく。講義が基本となるが、随時、グループディスカッションなどを含めながら進めていきたい。</p>					
学習目標	<p>「グローバリゼーション」のプロセスが、現在の国際社会が直面している様々な問題、「開発」「環境」「貿易」「人権」「移民」をどのように引き起こしているのかについて基礎的な理解を得る。学習の目標は、国際社会の抱える問題に対して自分なりの意見をもつことと、異なる立場の人と議論することを通して問題の複雑な諸相に気づくことである。</p>					
成績評価	期末試験(50%)、授業中の小レポート(50%)	受講要件	授業の出席者は毎回小レポートを提出する			

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	自然体験活動入門講座	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		福満博隆	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	農学部高隈演習琳に隣接し、垂水市と鹿児島大学が提携している垂水市立大野ESD自然学校(旧大野小中学校跡)をベースキャンプにして、高隈の森の自然を利用した野外活動を通して、自然とのふれあいを深め、仲間と協力して成し遂げる喜びを体験し、自分の可能性について見つめ直す学習をする。					
学習目標	1)自然の中での生活を通して、自然と人間(自分)との関わりについて理解を深めることができる。 2)仲間との共同生活を通して、人間(自分)と人間(他人)との関わりについて理解を深めることができる。 3)すべての活動を通して、自分自身について見つめ直し、自分の可能性について気づくことができる。					
成績評価	1.出席状況及び活動に対する取り組み姿勢(80%) 2.活動に対する振り返りレポートの内容(20%)	受講要件	2泊3日の集団宿泊(テント泊)が可能であること。 簡単な山歩きが可能であること。			

授業科目名	実用英語短期講座	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		坂本育生	統合I (課題発見)	講義	集中	2
授業概要	TOEICテストのリスニング教材を使用して、実用英語の集中訓練を行います。短期集中による英語力の強化が主な内容です。担当者は、英語検定1級および通訳資格所有者です。主に英語を使用しつつ授業を行います。またテキストとは別に、ビデオかDVD教材(映画)も使用する予定です。予習は必要ありませんが、講義に出席して、しっかりと復習してください。なお、担当者は、英語検定1級、および通訳資格所有者で、鹿児島地区のTOEICスーパーバイザーも勤めていますので、TOEIC等の最新情報を提供します。					
学習目標	21世紀を生き抜く国際人として、国際語である英語の実用運用能力の育成を図ります。2013年度も100名近い受講者がありましたが、短期集中により、有意義な1週間を過ごしてくれました。2014年度も頑張ります。					
成績評価	出席、dictation test30%、最終テスト70%	受講要件	特にありませんが、英語検定準2級以上およびTOEIC500点以上の学生を希望します。			

授業科目名	社会人としての救急措置入門	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		萩野誠	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	目的：これからの社会人は、ボランティアをはじめとして、緊急的な措置を要求される。もちろん、傍観者であることも選択肢であるわけだが、積極的に参画するという選択もあり、これが社会への積極的なアプローチとなる。そのような社会へ貢献するための最低限の知識・技術について修得する。内容：本講義は、PADI(認定団体)エマージェンシー・ファースト・レスポンス(EFR)インストラクターである教員が、EFRプログラムにしたがい、社会人に必要な緊急措置について講義する。本講義終了後、希望するものは、EFR認定カードを取得することも可能である(有償)。方法：講義と実技による。エマージェンシー・ファースト・レスポンス・プログラム2002年にエマージェンシーファーストレスポンスCorp.から発表されたものであり、国際的に認識された医療的ガイドラインである「AHA心肺蘇生と救急心臓治療の為に国際ガイドライン2005」に基づいている。また、これを基盤に、国際蘇生法連絡委員会(ILCOR=International Liaison Committee on Resuscitation)の基礎生命維持(BLS=Basic Life Support)部会のワーキンググループで作成された手順を採用している。					
学習目標	社会人として必要な緊急措置について法的知識から実技までを修得する					
成績評価	Adult, child, infantそれぞれのCPRテスト(各20点)および総合評価テスト(40点)の100点満点	受講要件	将来ボランティア等の積極的な社会貢献をおこないたいもの			

授業科目名	進取の精神を学ぶ	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		劉美玲	統合I (課題発見)	講義	毎週	2
授業概要	本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度(進取の精神)を養い、地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養うことである。本授業の内容および方法は、以下の通りである。 (1) 本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島島の若者について学び、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解する。 (2) 鹿児島で社会の発展のために活動を展開している団体等の中で、現代社会が抱えている諸問題のうち、国際協力、平和問題、地域農業について実践する講師による講義によって、その問題と取り組む内容について理解を深める。 この講義を受けた後、受講した学生が休日や休業を活用してこれらの活動への自主的参加を決定する行為や、地域社会の現場での活動に積極的に参画するなかで、進取の精神と行動力を涵養する。					
学習目標	(1) 「進取の精神」の概要について理解し、説明することができる。 (2) 「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦できる。 (3) 「持続可能な社会」の構築に貢献できる行動力を養う。					
成績評価	授業への参加度(授業態度や参画度など):60%、課題等提出物(リアクションペーパーやレポート、最終レポートなど):40%、で総合的に判断する。学期末試験は行わない。なお、最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。	受講要件	特になし			

5-1. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	大学生のための社会人基礎力入門	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		竹内正興				
授業概要	<p>1. 授業の目的は、これまでの自己を振り返り、教育学等の学問分野の基礎的な理論に触れながら、社会人になるためのマインド面を中心としたレディネスを形成することにある。</p> <p>2. 授業の内容は、キャリア、コミュニケーション、マーケティング、社会学、心理学の各基礎的理論の講義と演習、および理解を深めるためのコミュニケーションレポートを中心とする。</p> <p>3. 授業の方法は、担当教員と学生、および学生同士の双方向の議論を中心に展開する。</p>					
学習目標	<p>1. 学生が、社会人として必要なスキルについて理解を深めることができる。</p> <p>2. 学生が、自己理解を学問と関連づけながら深めることで、学問に対する学びへの意欲を高めることができる。</p> <p>3. 学生が、大学に対する理解を深めることで、今後の大学生活全般に対する主体性を高めることができる。</p> <p>4. 社会人として必要となるプレゼンテーションスキルの基礎を身につけることができる。</p>					
成績評価	授業への主体的(積極的)参加(40%)、講義ごとのコミュニケーション・レポート(30%)、レポート課題(中間・期末)(30%)とし、評価する。ただし、レポート課題(中間・期末)は期末試験の代替の扱いとするため、レポートの提出がない場合は、期末試験を受けていないこととみなすので注意すること。	受講要件	<ul style="list-style-type: none"> ・入門編のため受講対象学年を「1年生」に限定する。 ・授業に積極的に参加しようという「意欲のある方」の受講を歓迎する。 ・教育学の分野を題材として利用する機会が多いの 			
授業科目名	大学で学ぶ	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		伊藤奈賀子				
授業概要	<p>高校までと大学とは、学修や生活の仕方、周囲の人びとのかかわり方など大きな違いがたくさんある。例えば、時間割は学生が自分で作る、毎日行くような特定の教室はない、細かく生活指導はされないといったことが挙げられる。また、時間割を自分で作ることからも明らかのように、大学で何を学ぶのか、どのように時間を使うのかも自分で考えなくてはならない。大学生活を充実させるためには、大学の様々な制度や仕組みについて知っておく必要がある。本授業は、大学での学修をより効果的にしていくための基礎知識を身に付ける場である。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学に関する様々な制度や現状を理解したうえで、自分自身の学習課題を設定できる。 ・自分の学習課題を解決する具体的な方策を考え、説明できる。 ・大学で学ぶことの意味を自分の言葉で説明することができる。 					
成績評価	毎回の授業の振り返り(40%)、期末試験(60%)をもとに評価する。	受講要件	特になし			
授業科目名	地球環境保全のための国際協力	担当教員	5-1. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		星野一昭				
授業概要	<p><目的></p> <p>地球環境の保全は人類共通の課題であり、様々なレベルで国際的な協力が進められている。我々の暮らしは世界とのかかわりなしには維持できないものとなっており、地球的視野に立って暮らしや環境問題を考える視点が重要である。この授業では、地球環境の保全に焦点を当て、地球環境の現状、国際的に行われている協力の枠組みと実施状況、日本が行っている国際協力活動などについて学ぶことを通じて、国際協力活動の全体像と地球環境保全のための取組についての理解を深めるとともに、主体的な活動への動機づけを行うことを目的とする。</p> <p><内容と方法></p> <p>担当教員による講義のほか、ゲスト講師(国際協力機構(JICA)、鹿児島県、国際NGO関係者)がそれぞれの機関の活動(国際協力、国際交流、開発途上国支援活動など)について説明する。グループ討議では課題について小グループ討議を行い、各自が小レポートを作成する。</p>					
学習目標	<p>1. 国際協力に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>2. 地球環境保全のための国際協力の重要性についての理解を深める。</p> <p>3. 地球環境保全のための国際協力の課題について考察する。</p>					
成績評価	グループ討議時に作成する小レポート(30%)と期末試験(70%)を総合的に評価して成績をつける。	受講要件	特になし			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	奄美の民俗文化		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			財部めぐみ	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	本授業の目的は、鹿児島県の奄美群島に暮らす人々の歴史や民俗文化、暮らしの現在について理解することにある。授業は大きく1) 奄美の歴史、2) 奄美の民俗文化、3) 奄美の現在の3つの部分からなり、その各々の特徴について詳しく見ていくなかで、奄美という地域とその民俗文化が有する、経済的指標では捉えられない「豊かさ」について考える。						
学習目標	1、奄美の歴史についての基礎的知識を修得する。 2、奄美の自然や民俗文化、また人々の独特の世界観や生活観について理解する。 3、奄美の島々がおかれてきた過去と現在の諸問題について理解する。						
成績評価	期末試験(60%)、授業への参加態度(40%)とし、評価する。			受講要件	特になし		

授業科目名	稲盛和夫のリーダー論		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			吉田健一	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	2018年度のNHK大河ドラマは『西郷どん』で全国的にも明治維新や西郷隆盛への関心が高まっている。だが、西郷の政治思想や人間観またはその背景となった儒学思想などを正確に理解している人は決して多いとはいえない。西郷への理解を深めるためには『南洲翁遺訓』を熟読することが最も良い方法である。西郷隆盛、稲盛和夫氏の二人に興味のある学生の受講を歓迎する。1. 授業の目的は『西郷南洲翁遺訓』にまとめられた西郷南洲の教えから、リーダーとしての生き方、考え方をまとめた稲盛氏の著書『人生の王道』をテキストとして取り上げ、稲盛和夫氏の生き立ちや生き方を通しながら、真のリーダーシップを学ぶことである。2. 授業の内容は『人生の王道』を章ごとに読み解いていく。その際に、本来の『西郷南洲翁遺訓』そのものの中身を熟読玩味しつつ(つまりは、西郷隆盛の人間観、政治観、リーダー観などをまずは理解する)、その『遺訓』を稲盛氏が自らの人生と経営に如何に生かして来たかの両方の視点から解説する。3. 授業の方法は、指定したテキストを使いながら解説して行くが、予め配付する要約資料も活用する。						
学習目標	1. 西郷南洲のリーダーシップに対する考え方を解説できる。 2. 稲盛和夫氏の生き立ちや生き方からリーダーシップを学び、その神髄を解説できる。 3. その生き方・考え方から、自分なりの人生観・リーダーシップ観を構築してそれに基づいた行動ができる。 4. 自分の属する組織内で、真のリーダーシップの発揮ができる。						
成績評価	毎回のフィードバックシートの提出(50%)、期末レポート(50%)。			受講要件	指定された教科書を必ず購入すること。また、第3回以降は、事前に次の時間に説明する部分(本と要約した冊子の両方)を一読しておくこと。西郷隆盛とリーダーシップの本質、人間学に関心をもっていることが望ましい。		

授業科目名	海外研修基礎コースinカリフォルニア		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			中谷純江	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	この授業では、グローバル化が加速する世界における共通課題である「1. 多文化主義」「2. 経済格差と社会福祉」「3. グローバリゼーションへの地域の挑戦」について、最も先鋭的な形を見ることが出来るアメリカ合衆国・カリフォルニア州で海外研修を行う。これらの課題について米国地域社会の現状と対応を現場で学ぶことで、鹿児島地域の問題について「グローバル化する世界の中の鹿児島」という視点で捉え、外国人を含めたあらゆる人が住みよい地域社会にするなど、大学も含めた地域社会に自身がどんな貢献ができるかを具体的に考えることを第一の目的とする。第二の目的は、アメリカの現状に触れて様々な分野の問題に関心をもち、今後の専門教育の学びに活かすこと、第三は、世界中から移民が集まるリベラルな気風のカリフォルニア州で人的交流を最大限に行うことで、コミュニケーション力を強化するとともに国際的な広い視野を身につけ、人生や勉学に対する目標を定めて自己実現の基礎をつくることである。						
学習目標	・鹿児島地域の問題について、グローバル化世界における共通課題「1. 多文化主義」「2. 経済格差と社会福祉」「3. グローバリゼーションへの地域の挑戦」という視点で捉え、大学も含めた地域社会に自身がどんな貢献ができるかを考えることができる。 ・アメリカの現状学習に関心を持ったテーマを今後の専門教育の学びに活かすことができる。 ・英語のコミュニケーション力を向上させ、国際的に視野を拡げて人生や勉学に対する目標を考え続けることができる。						
成績評価	事前講義の小レポート(20%)、研修後の個人レポート(50%)、研修への取り組み意欲と態度(参加貢献度)など(30%)で評価する。			受講要件	1) 「グローバル社会を生きる」「共生のためのフェアトレード」の受講生を優先する。2) 「グローバルイニシアティブ概論」の受講を予定している者。3) 海外研修に関わる個人的な経費(旅費、宿泊費、食費など)を負担できること。		

授業科目名	鹿児島探訪－文化－		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			丹羽謙治	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	鹿児島は、中央の文化の影響と琉球口などから流入する外来の文化の影響を受け、独特の文化を創り上げてきた。本講義は、鹿児島の文化、とりわけ文学(俳句、文学)、美術・工芸、出版、教育、醸造文化といった各種のテーマについて、担当教員が総合講義形式で講義を行う。本講義の目的は、鹿児島の過去・現在の文化の様相とその特徴をよく理解することであり、そのうえで、未来の地域文化の創造について考えることを期待する。						
学習目標	1 地域を直視する現実感覚を身につける。 2 鹿児島の過去・現在の文化を正しく理解する。 3 自己の文化の認識を通して異文化への理解ができるようになる。						
成績評価	原則として毎回、小テストないしレポートを課す。各担当教員の出した課題に対する評点を集計して最終評価とする。			受講要件	平成31年度入学生(1年生)に限る		

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	かごしまフィールドスクール	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		岩船昌起	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	<p>地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などに関する地域や施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や課題について実践的に学習して、課題を解決する方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。このような活動を通して、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけるとともに、自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、コースにより、3千500円～5千円程度の宿泊経費等が必要となります。</p>					
学習目標	<p>(1) 指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。 (2) 同地区等のさらなる活性化や安全のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 (3) 実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標</p>					
成績評価	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。発表内容30%、授業への取り組み30%、レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。	受講要件	直前に開講される夏季集中科目のかごしま教養プログラムを履修した学生を対象とする			

授業科目名	環境と進化の科学	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		富山清升	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	<p>地球上に生息している生物がどのように環境に適応しているのか、どのようなメカニズムで進化してきたのか理解します。環境への生物の適応や進化を理解するために、生物を構成する細胞の話から生物学の基礎的分野の解説を重視します。また、人間が環境をどのように利用し、変化させてきたか、現状の把握と今後の課題について理解します。</p>					
学習目標	地球上に生息している生物がどのように環境に適応しているのか、どのようなメカニズムで進化してきたのか理解する。					
成績評価	期末試験(配布プリント (manabaシステム上)、ノート等持ち込み可) (70%) 確認プリントを含む授業への積極性および参加態度(30%)	受講要件	全学部の1年生(除く、理学部・工学部)。受講時の予備知識は特に定めません。高等学校で生物学を履修していない人にも判りやすく解説します。			

授業科目名	がんはなぜおこるのか	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		古川龍彦	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	<p>医学部の基礎、臨床の教員、それぞれの分野の専門家が分担して行うオムニバス講義です。日本人の死因の第一位は悪性腫瘍(がん)で、誰もがかかる可能性がある病気です。がんとはどんな病気であるのかを理解し、がんの予防、診断、治療について適切な知識を得る。ために。1. がんはどのように発生するのか? 2. がん細胞と正常な細胞は何がちがっているのか? 3. がん細胞はどのように進展し、死をひきおこすのか? 4. 適切な予防、発見および治療法にどのようなものがあるのかなどについて、学びます。また、本学で行われている先進的な研究についても一部紹介します。受講に当たり、細胞、遺伝子などの理解があることが望まれます。</p>					
学習目標	<p>1. がん細胞の生物学的、形態学的特性について説明できる。 2. がん細胞の発生機序の概要を理解する。 3. がんの予防、発見、診断および治療法についての概要を理解する。</p>					
成績評価	期末試験による。共通教育科目等試験規則にしたがい、試験を受けるには出席が3分の2以上必要です。	受講要件	生物基礎 生物あるいは生物学 I, II の知識を習得していることが望ましい。特に、遺伝情報にもとづくタンパク質の合成、細胞などの基礎的な理解があることを前提として講義が進みます。			

授業科目名	口と顔の科学	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		歯学部教員	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	<p>口腔は消化器の入口として生命維持の要であり、その機能は多岐にわたる。身体各臓器の疾病に対しては日頃から関心を持っていても、口腔疾患に関しては痛みを感じ始めてその重要性に気付くことが多い。授業では、顎腔顔面の構造および働きから、歯・口腔・顔・顔面領域の各種疾患の診断・治療・予防に至るまで基礎的ならびに臨床的知識習得に重点を置き、歯科医学と生命科学との関連性についても自由な形式の講義が行われる。歯学部の専門教員により総合講義形式で行われるので、歯科医学に関する幅広い一般教養的知識が習得できる。</p>					
学習目標	<p>歯科医学を学ぶ初心者に対して予めその広がりや深さ、位置づけの概念を知らせるための講義である。歯学部以外の学部の学生にとって歯科医学についての最近のトピックスに触れる絶好の機会となるであろう。内容は、歯科医学を構成する基礎歯科医学および歯科臨床科目について総合講義形式で行われ、複数の歯学部基礎、臨床系教員が担当する。講義内容は、歯科医学にとどまらず、広く基礎医学全般に関して、近年問題となっている口と顔の科学に関して広領域にわたって講義がなされる。</p>					
成績評価	授業態度および各回の小テスト(100点)の内容を総合的に評価する。	受講要件	特になし			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	グローバル人材育成 (米国ノースダコタ)	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		中谷純江	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	本授業は北米の大学に実際に留学したときと同じ環境を体験し、大学で授業や生活を通して、将来国際社会で活躍するために自分に何が欠けているか「気付き」を得ることを目的とする。本学と協定関係にあるノースダコタ州立大学 (NDSU) に3週間滞在し、英語特訓クラス、グローバル・スタディーズ基礎科目及び、各自の専門科目の授業への参加などを通して自立的に学ぶ。NDSUのキャンパスでの授業や野外での活動に参加することによって、受講生は米国での学生生活を体験し、友人を作り、非常に高いレベルの教育効果を上げることができる。					
学習目標	短期ではあるが、海外のすぐれた大学での留学体験を通じて、グローバルに活躍するために必要な能力を理解し、事後の学生生活における具体的な目標を見出すことができる。また、海外研修を通して向上したコミュニケーション能力や自信を持続させ、向上させるため自主的に活動することができる。					
成績評価	事前学習(30%)、海外研修(40%)、事後学習(30%)で評価	受講要件	本海外研修は「進取の精神グローバル人材育成プログラム (P-SEG)」の一環として開設している。原則として、本海外研修に参加した学生は、研修終了直後の学期に開設される「グローバル・イニシアティブ概論」を受講するものとする。			
授業科目名	国際異文化交流 I		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分
		内尾ホープ	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	In this class you will do the following: (1) think critically about concepts and categories in the field of intercultural communication, such as the definition of culture; the importance of values; stereotypes; generalizations; culture types and cultural characteristics; (2) learn about how social issues in various countries are handled. You will watch a documentary that focuses on this topic; (3) learn and think about the foreigner's experience in Japan. You will watch a documentary about the experiences of people of mixed heritage in Japan and concepts and behaviors that often cause misunderstandings between Japanese and foreigners; (4) You will do an independent investigation of a country and give an oral report on what you learned.					
学習目標	You will learn to think about the following: basic concepts in intercultural communication; culture types; how different countries deal with social issues; and the foreigner's experiences of living in Japan					
成績評価	Students will be graded on homework assignments(40%), reports (20%) and the final exam (40%). Completion of all homework assignments is required to pass this course.	受講要件	This class will be conducted in English, so you must have an above average level of ability in English.			
授業科目名	国際協力体験講座－ミャンマーコース－		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分
		雄(代表)・高山耕二(世)	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	民主化に伴い、大きく変わりつつあるミャンマーを訪問します。北部にあるインレ湖周辺の農村を訪問し、1) そこで営まれる伝統農業に触れ、アジア農業の持つ魅力と今後の課題を見つけます。2) また、現地で活動するNPOの国際協力活動の現場を訪れ、アジアの農村を舞台にした (主に農業分野での) 国際協力の意義やあり方を皆で学びます。					
学習目標	1) インレ湖周辺の農村や人々の暮らしを知る。(キーワード: 少数民族、宗教、教育、文化、環境汚染) 2) インレ湖周辺で営まれる伝統農業について学ぶ。(キーワード: 有機農業、近代化、環境保全) 3) 現地での国際協力活動を知る。(キーワード: 地域貢献、循環、自立)					
成績評価	渡航研修での態度および帰国報告会での報告(50%)、事前講義等での態度(30%)、レポート(20%)	受講要件	学生教育研究災害傷害保険(学研災)に加入していること(必須)			
授業科目名	最先端医療を創出するバイオ研究		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分
		小戩健一郎	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業目的: 政府は医療における成長戦略(日本再興戦略)をかかげ、がん等の難病克服の革新医薬、あるいは再生医療や遺伝子治療といった全く新しい革新医薬の開発に繋がるバイオ研究と実用化の促進を最重要目標の一つと定めました。このように、自然科学研究と医療の発達は単に目覚ましいだけでなく、両分野は個別に進むのではなく、基礎研究、臨床応用、社会での実用化を一体として進める新時代に突入しました。このようなバイオと先端医療の基本事項の理解はどの学部・生徒にも重要です。さらにこれからの最先端医療の発展は、様々な学部出身者の創造的なバイオ研究に掛かっています。2. 授業内容: 最先端医療を創出するバイオ研究の技術、その臨床応用から実用化まで、各専門の講師がわかりやすく講義します。3. 授業方法: PowerPoint等によるスライドを中心とした講義を行います。					
学習目標	1) 最先端医療を創出するバイオの研究と技術の概要を理解する。 2) 幹細胞(iPS細胞など)の研究と技術の概要、それを基盤とした革新的なバイオ・医学技術開発と再生医療応用の現状と展望を理解する。 3) がん等の難病に革新的な医薬や医療が新たな取り組みで開発・実用化されている現状を理解する。 4) 医薬品を実用化するための患者さんの治験、その規制・規則、医療イノベーションの概要を理解する。					
成績評価	授業への参加態度(50%)、およびレポート(50%)により評価。	受講要件	高等学校の生物習得程度の基礎知識を持っていることが望ましい			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	自然学校インターンシップ I		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			井倉洋二	統合II (課題解決)	実習	集中	2
授業概要	<p>前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、続けて「自然学校へ行こう・実践編」を受講して実際に自然学校での活動を体験したことで、自然学校の企画や運営も含めてさらに深く実践的に学びたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地の自然学校において、夏季休暇中または冬季・春季休暇中にインターンシップ(原則として10日間以上)を行うものである。</p> <p>1. 授業の目的は、自然学校での体験を通じて、持続可能な社会と自らの仕事を切り拓いていく意欲を持つこと。</p> <p>2. 授業の内容は、各地の自然学校(自分で選ぶ)で職場体験をすること。</p> <p>3. 授業の方法は、10日間以上の職場体験と、それをまとめたレポート作成および発表会による。</p>						
学習目標	<p>1) 自然学校での職場体験を通じて、自然学校の仕事内容と地域社会との関わりを理解できる。</p> <p>2) 自然学校での職場体験を通じて、コミュニケーションスキルを向上できる。</p> <p>3) 自然学校での職場体験を通じて、持続可能な社会と自らの仕事を切り拓いていく意欲を持つことができる。</p>						
成績評価	受講態度(インターンシップ先での行動)を60点、事後レポートと発表内容を40点で評価する。		受講要件		「自然学校へ行こう」および「自然学校へ行こう・実践編」を受講した者、もしくはそれと同等の知識と経験を有する者		

授業科目名	島のしくみ		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			山本宗立	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	<p>鹿児島県の特徴として鹿児島市とそれ以外の自治体の規模の違い、それと離島の存在があげられる。鹿児島県では鹿児島市への人口集中に伴い、郡部の過疎化と高齢化が進み、大きな不均衡が生じてしまった。この状況は離島ではさらに著しいものとなっている。鹿児島県の多くの離島は自治体の合併によっても効率化は期待できないであろう。しかし、環海性、隔絶性、狭小性などの制約の中で、離島では優れた自然環境の中で貴重な歴史文化を育てており、地域の多様性が保全されている。また、離島の地域社会では伝統的な共同体が地域活性化の原動力となり、自らの英知と努力により多種多様な地域おこしの取り組みが行われている。鹿児島大学も直接・間接にかかわっている。この授業では与論島の経験豊かな実務者による講義が中心となり、与論島の現況や取り組みについて理解するとともに地域社会の在り方や活性化について考える。</p>						
学習目標	<p>1) 与論島の特性を理解する</p> <p>2) 与論島で実施されている企画や試みについて学ぶ</p> <p>3) 与論島をはじめとする離島の状況について理解する</p> <p>4) 島嶼域の振興施策について学ぶ</p> <p>5) 自分が居住している地域と関係づける</p>						
成績評価	与論島での講義や施設見学を踏まえた地域活性化の方策に関するレポートを提出する。レポート90%、受講態度5%、時間外学習5%。		受講要件		特になし		

授業科目名	社会システム・政策研究(タイ研修)		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			福富渉	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	<p>本科目では、タイにおいて9泊10日の海外研修を実施し、社会システムや政策について学ぶ。インドシナ半島の中心に位置し、ASEAN第2位の名目GDPを誇るタイは、多くの日系企業が進出しており、日本との関係も深い。研修の目的は、タイ社会の現状理解を通じて、グローバル化する世界における課題と、日本の地域社会や自分自身に関わる現実的な問題として捉える視点を養うことにある。研修実施内容・方法は以下の通り。(1) 大学訪問・学生交流・共同フィールドワーク: チェンマイ大学日本研究センターおよびチュラロンコン大学を訪問する。現地学生と共同で、日本とタイ社会がともに直面する高齢化社会の問題について学習し、高齢者を中心とした地域住民にインタビューを実施する。(2) 文化・社会・歴史学習: バンコクの中国人街、インド人街、日本人街などを訪れ、現代的な多文化共生状況についてのフィールドワークをおこなう。またアユッタヤー県を訪れ、日タイ交流・関係史について学ぶ。バンコク市内の寺院等を訪れ、タイの文化・歴史についての基本的学習をおこなう。(3) 帰国後に報告書を作成し、報告会を開催する。</p>						
学習目標	<p>(1) 異文化や異なる価値観を体験することで、国際的な広い視野を身に付け、人生や勉学に対する目標を定め、自己実現の基礎とする。</p> <p>(2) 現地大学生との意見交換と共同作業を通じて、直面した課題に対し自ら主体的に思考し、行動する習慣を形成する。</p> <p>(3) タイの現状を通して日本の問題を照射し、グローバル化の進む地域社会に即した解決策を立案できる力を養う。</p> <p>(4) フィールドワークを通じて、ASEAN諸国の中心となるタイという国家の成立について学ぶ。</p>						
成績評価	事前学習の小レポート(20%) 研修への取り組み意欲と態度など(30%) 研修後の報告書(50%)		受講要件		<p>1) P-SEG Intensive English 等、語学学習コースの受講生を優先する。</p> <p>2) 事前、又は事後に共通教育科目「タイ文化論」受講を原則とする。</p> <p>3) 事後に共通教育科目「グローバルイニシアティブ</p>		

授業科目名	シラス地域学		担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
			永迫俊郎	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	<p>地球上のある範囲に人間が居住することによって「地域」は生成する。この講義では、約3万年前に噴出した始良入戸火砕流からなる「シラス」を中心に据え、土地環境と人間活動の関係から南九州という地域について考えていく。この際時代的展開を軸にするのは、地域社会や文化そして私たち自身も時を経て醸成され、伝えられてきた存在だからである。地元の特産品や身近な景観がもっているストーリーを見出せる足元をみる目は、グローバル時代に極めて重要なセンスといえる。南九州を事例に培った地域の捉え方は、世界のどの地域に対しても適応できる尺度となりうるものである。ビデオ・スライド等の視覚的提示を適宜活用し、さらに地図作業や野外観察を組み込み、授業内容の効率的な理解に役立てる。</p>						
学習目標	<p>1) 何気ない景観のなかにもストーリー・奥行きを見出せる「よみ方」を把握できること。</p> <p>2) シラス地域における地表の生いたちと人間活動との関係を理解し、現在および未来の諸問題を定位できること。</p> <p>3) 自然現象と人間の時空間スケールの相違を踏まえて、自然災害の発生要因を議論できること。</p>						
成績評価	授業時レポート(40%)ならびにレポート(60%)で評価する。毎回の授業においてリアクションペーパーに宿題、授業中の発問に対する答えなどを書いてもらい、受講姿勢に理解度を加味して授業時レポートを採点する。レポートは、地図作業の成果品と野外観察時の課題からなる。		受講要件		集中講義のうち1日は学外に出て、スクールバス利用の野外観察を行う。このため受講者数を制限するので、必ず参加する学生のみ履修登録を行うこと。		

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	進取の精神海外研修 in ベトナム	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		山口明伸				
授業概要	<p>本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度(進取の精神)を養い、グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育むことである。授業では、まず、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解するために、本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学ぶ。日本と同様に中国より仏教や文化が伝播したベトナムでは、ベトナム国民は長い間、中国、フランスによる長期間の侵略やベトナム戦争に堪えた後、現在、国土の復興と産業等の振興に懸命に取り組んでいる。さらにベトナムを直接訪問し、農業、産業、工業などベトナムの様々な取り組みを実際に体験し、様々な立場で国の発展を支えている多くのベトナム国民と交流する。また、稲盛アカデミーベトナム事務所日本語・日本事情を学び本学への留学に果敢に挑戦する若者や、ベトナム支援活動等を行っている日本人の若者とも交流する。これらの事前事後の講義や現地での体験学習を通じて、ベトナム文化、歴史、産業の実態を深く理解し、進取の精神を涵養するとともに、グローバルな視点を持った実践力を育む。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムの文化、歴史、産業の実態を現地見学と体験学習により、深く理解する。 ベトナムの同世代の若者との交流を通じ、進取の精神を涵養する。 ベトナムでの海外研修での経験を通じて、グローバルな視野を持つ実践力を育む。 					
成績評価	事前授業、研修事業、事後授業の参加姿勢(70%)及びレポート(30%)で評価	受講要件	特になし			

授業科目名	地域環境論	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		佐藤正典				
授業概要	<p>この授業の目的は、地域の様々な環境問題、およびそれと連動した社会問題の中からいくつかの事例を選び、それを多角的な視点から論じ、それらの問題の全体像と本質を考えることにある。5名の講師が分担し、自然科学と社会科学の両方の視点から、問題を論じる。具体的な事例として、謙早湾干拓事業などの沿岸開発、原子力発電所、水俣病事件などの問題などに焦点を当て、それらの問題を考えるために必要な基礎的な知識を整理する。環境問題が引き起こされる背景としての様々な地域社会の問題についても論じる。配布資料やパワーポイントなどを用いた講義を行い、関連図書を紹介する。</p>					
学習目標	<p>物事を深く考え今後の充実した学生生活のきっかけとすること。環境問題については、多くの情報が満ちあふれている。そこには誤った情報もあるし、特定の利害に都合のよい情報だけが選ばれている場合もある。したがって、この授業では、特に以下のことを重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 個々の問題について、自分自身の頭で考えること そのためには幅広い学問が必要であることに気づくこと 					
成績評価	授業後のミニレポート(50%)、および全講義終了後のまとめレポート(50%)提出。	受講要件	特になし			

授業科目名	農家民泊体験講座：里山の家庭教師	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		萬田正治				
授業概要	<p>この授業の目的は、進取の精神を修得するためには、体験活動が不可欠であることから、農村地域に向きそこで暮らす人々の実態について理解するとともに、問題解決能力を身につけることを目的とする。授業内容としては、農家の生活と生業を学習するとともに、子供たちとの交流を図り、学ぶ意欲を高めるための支援をする。授業は配布資料等による講義と体験、自己演習、課題レポートを組み合わせ形式で行う。</p>					
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 農家民泊体験と子供たちの学習援助のための様々な事柄を理解し、適切に対応することができる。 体験を通して身につけるべき学習目標を立て、行動することができる。 農村の実態を自分の言葉で説明することができる。 					
成績評価	受講態度(30%)、期末レポート課題(70%)とし評価する。	受講要件	特になし			

授業科目名	派遣留学I	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		畷田谷桂子				
授業概要	<p>1) 授業の目的は、協定校への派遣留学の準備をさまざまな角度から行うことである。2) 内容と方法は、派遣前ガイダンス(留学準備全般の注意・講義)、留学の価値を高めるための自己分析及び目的意識化と改善、留学生とのタンデムラーニング(協定校からの留学生とのペアワーク協働学習)、派遣先言語による自国等紹介パワーポイント原稿の作成・発表・相互評価(一部協働学習)、留学ポートフォリオ(前半)の作成、グローバルランゲージスペース外国語学習への参加などによる。</p>					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 留学のための物質的、精神的準備を自律的に行うことができる。 自身にとっての留学の目的と意味を再考し、他者と比較し、留学の価値を高める準備ができる。 留学派遣国、あるいは派遣大学からの留学生とのタンデムラーニングやグローバルランゲージスペース外国語学習により、派遣先言語でコミュニケーションができ、派遣先の文化がより深く理解できる。 派遣先言語による自己紹介、自国や専門についてのプレゼンテーションができる。 留学ポートフォリオ(前半)を作成し記録することにより、自己を客観 					
成績評価	自己振り返り等、授業での課題への取り組みや提出状況20%、他者への積極的なフィードバック発言5%、タンデムラーニングおよび「グローバルランゲージスペース外国語学習」30%、パワーポイント発表原稿作成および発表35%、留学ポートフォリオ10%	受講要件	学術交流協定校への派遣留学生として選考された者			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	派遣留学II	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		畝田谷桂子	統合II (課題解決)	講義	集中	1
授業概要	1) 授業の目的は、留学体験を総括し、人生とその生き方を表すライフキャリア(個人の成長や発展。職業生活の歩みを表すワークキャリアを含む)の中での位置づけを考察し、自己の確立および将来ビジョンの形成に役立てることである。合わせて、留学体験の総括と成果をレポートにまとめ、他者(後輩)に効果的に伝えるためのコミュニケーション能力を磨くことも目的とする。 2) 内容は、留学体験を総括し、ライフキャリアの中での位置づけを考察し、自己の確立および将来ビジョンの形成に役立てることである。また、留学体験の総括と成果をレポートにまとめ、他者(後輩)に効果的に伝える。3) 方法は、留学体験の総括を補助する講義と自己振り返り、ディスカッション、派遣留学レポートの作成、プレゼンテーションの準備と実施、留学ポートフォリオ(留学中・帰国後)の完成である。					
学習目標	1 留学体験を自省して総括することができる。 2 ライフキャリアという視点が持て、その中で留学体験の位置づけができる。 3 留学体験の位置づけから発展して、将来ビジョンについて考えることができる。 4 留学の総括、成果を他者に効果的に伝えることができる。					
成績評価	授業中の振り返り作業や他者への積極的なフィードバック等への取組み状況10%、提出物10%、HP用派遣留学報告掲載35% 留学報告発表30% 留学ポートフォリオ15%	受講要件	学術交流派遣校への派遣留学生として選考、派遣された者			

授業科目名	ヒトの身体の仕組みと働き	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		木佐貫彰	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	1. 授業の目的は、人体を構成する代表的な器官(臓器)、すなわち循環器系、呼吸器系、消化器系、脳神経系、泌尿・生殖器系、筋骨格系などについて、その解剖学的仕組みと働きを理解することである。 2. 授業の内容は、身体の基本である血液循環、呼吸、消化吸収、ホルモン作用、神経機能、生殖妊娠、分娩、免疫、睡眠などについて、ヒトの健康や疾病と関連付けながら解説する。 3. 授業の方法はスライド、プリントなどの資料を用いて、講義形式の授業を行う。					
学習目標	1 肉眼レベル、細胞・組織レベルでの人体の器官(臓器)の構造の特徴と、生理機能の関連が理解できる。 2 正常な身体の仕組みと働きを学ぶことにより、病気を器官の仕組みや働きの異常と関連付けて考えることができる。 3 身体についての自らの知識を拡大させ、日常的に健康保持や増進に務めることの重要性が理解できる。					
成績評価	授業を担当した全教員が授業内容に基づいて出題する期末試験により評価する(100%)。	受講要件	特になし			

授業科目名	ヒトの病気の成り立ちと予防 I	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		赤崎安昭	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	ヒトの病気には原因があり、症状や障害をもたらす仕組みがある。これを知ることによって病気の予防が可能となる。ここでは広く日常的にみられる病気や関心を集めている病気について、それぞれの領域の専門医が分かりやすく解説する。方法は、通常の板書による講義に加え、必要に応じてスライドやプリントなどを用いて教授する。					
学習目標	1. 日常的にみられ、関心を集めている代表的疾患の徴候・症状について理解し、健康維持に役立てる。2. 代表的疾患の原因と起こり方について理解を深め、病気の発生子防について理解する。3. 生活習慣や老化による健康障害について理解する。4. 身近に病気で悩んでいる人がいたら医療機関を適切に受診することを勧める技能を身につける。5. 病気を抱えている人の問題解決に関わるような人間性豊かな人材を育成する。					
成績評価	授業を担当した全教員が授業内容に基づいて出題する試験により評価する(100%)。	受講要件	特になし			

授業科目名	南太平洋多島域	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		河合溪	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	東南アジア島嶼部を含む南太平洋多島域は、文化的、自然的に連なるスペクトラムである。この多島域は大小様々な島々から成り、自然環境は変化に富み、人々の生活ぶりはその自然および歴史に根ざした文化環境と深く結び付いている。他方、日本も太平洋に面し、多くの島々からなる島国で、南太平洋多島域と、自然的、文化的に深く結び付いている。私たちの住む地域と隣接した位置にあるこの多島域の正解について、多面的に理解し、科学的に深い洞察力を養うことを講義は目指している。					
学習目標	1) 南太平洋への人々の移動および歴史を説明できる。 2) 日本ならびに世界全体と南太平洋多島域のかかわりについて説明できる。 3) 南太平洋多島域の人々の生活と社会の特徴について述べるができる。 4) 島嶼域の先史人類の歴史と特徴について理解する。 5) 日本から南太平洋に至る島々とそれを取り巻く海域の特徴を列挙できる。					
成績評価	各担当者ごとにレポートを提出	受講要件	特になし			

5-2. 教養教育科目(教養活用科目)

授業科目名	屋久島の環境文化II—生き物—	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		藤田志歩	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	屋久島は日本で最初の世界自然遺産で、樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や希少種を含む生物相など、世界的に特異な生態系とすぐれた自然景観を有する島である。本授業では、屋久島特有の自然、特に動物、昆虫、野鳥などを現地で観察するとともに、また、ヤクシカ、ヤクシマザル、ウミガメなどの野生動物の保護や管理、人間との軋轢問題などについて実地体験を通して学ぶ。現地研修から得られた知見をもとに、人と自然の両者の視点から、屋久島におけるこれからの地域づくりについて課題と解決策を考える。					
学習目標	(1) 屋久島における生き物の特徴と生態系のしくみを理解する。 (2) 屋久島の人々の暮らしと自然との関係について、歴史的観点も含めて理解するとともに、そこに生じる様々な課題の解決法を考察する。 (3) 世界遺産屋久島において、自然の利活用と保全について考察する。					
成績評価	現地調査およびグループ討論の取り組み20%、発表の成果40%、個人レポート40%として評価を行い、それらを集計して最終評価とする。	受講要件	特になし			
授業科目名	屋久島の環境文化III—産業—	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		星野一昭	統合II (課題解決)	講義	集中	2
授業概要	世界自然遺産は人類共通の宝として、自然環境を将来世代にわたって保全する地域である。屋久島は日本最初の世界自然遺産に登録された島で、世界的に特異な植生の垂直分布や多くの固有種や希少種を含む生物相がみられ、ヤクスギの森や滝などを美しい自然景観を有している。世界自然遺産の島として、自然環境と観光に注目が集まっているが、屋久島には島の資源を活かした独自の産業が息づいている。本授業では、屋久島の自然環境を概観した後、世界自然遺産の保全と地域社会の持続可能な発展という視点で、農業、漁業、製造業、サービス業などを実践的に学習する。自らが体験し、自らが考え、チームで議論することを通じて、国際社会の中で自己開発の能力「グローバルな素養」を身につける。世界自然遺産の島で、人と自然の共存とは何かを考え、自らの生き方を感得することがこの授業の目的である。					
学習目標	(1) 屋久島における地域産業の独自性を知るとともに、それが直面している様々な問題を理解する。 (2) 様々な視点で地域産業の持続可能性を考察する。 (3) 屋久島の人々の暮らしと地域産業の在り方の関係を考察する。 (4) 屋久島の現状を踏まえた地域産業・経済の発展を考える。					
成績評価	地域学習を通して屋久島の地域産業の現状を認識し、グループ討論とグループ毎の取りまとめおよびそれらの発表を行うほか、各自で課題レポートを作成します。成績は、実地等調査・グループ討論・発表の成果70%、個人レポート30%として評価を行い、それらを総合的に判断して決定します。	受講要件	特になし			
授業科目名	有機農業I 新しい食と農のかたち	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		高山耕二	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	“農的暮らし”、“半農半X”、“食農教育”といった言葉を最近、よく耳にします。“農”の魅力が再認識される一方で、わが国の食料自給率は約40%と低迷し、農業、農村に目を向ければ、いずれも崩壊の危機に瀕しています。この授業では、私たちが生きる上で不可欠な“食と農”のあり方をもう一度見つめ直し、その再生に向けた新しい方向性を皆で考えていきたいと思います。受講にあたって、専門的な知識は必要としません。授業は、大学の先生だけでなく、実際に食と農の現場に携わっている有機農家や有識者が農の魅力や食の本来あるべき姿を写真などを交えて、分かりやすく紹介していきます。					
学習目標	1. 日本の農業と食の現状を深く理解し、課題を列挙することができる。 2. 農の持つ多面的価値(食糧生産、環境保全、教育力など)や魅力について、理解を深める。 3. アイガモ農法や有機農法など安全な農作物の生産技術について、知識や理解を深める。					
成績評価	1) 毎回、授業終了時に提出する感想 (50%) 2) 受講態度+最終レポート (50%)	受講要件	特になし			
授業科目名	留学生のための異文化理解	担当教員	5-2. 教養教育科目(教養活用科目)	科目形態	開講区分	単位
		畝田谷桂子	統合II (課題解決)	講義	毎週	2
授業概要	留学生と、これから協定校に派遣留学が決まっている日本人学生がともに学ぶ授業である。互いの共通点である「留学」に着目して、協働学習を行う。授業を通して、文化とは何かについて理解し、文化の相対性、多様な価値観の存在、異文化適応のモデル等について自らの経験を分かち合いながら学ぶ。方法は、グループ討論、ゲーム、VTR視聴、ロールプレイ、ケーススタディ、プレゼンテーションなどである。これらを原則として英語で行う。					
学習目標	1. 文化の相対性を認識し、文化とはどのような諸側面を持つかについて説明できる。 2. 自文化について深く分析し、さまざまな側面について英語で説明できる。 3. 異文化間で生じるトラブルについて、原因を分析考察し、解決に向けて提案や行動ができる。					
成績評価	授業における発言など積極性 20% プレゼンテーション10% 学期中の提出物 30% 期末レポート 40%	受講要件	協定校派遣留学生として選考された者			

6. 学芸員資格科目

授業科目名	生涯学習概論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		小栗有子				
授業概要	生涯学習という概念は、歴史的に形成されてきたものであり、その理解をめぐっては様々な立場や考えがある。そこで、本講義は、生涯学習の概念との意味を理解するために、国際的な文脈のなかで概念が登場する背景について探り、日本における受容のされ方とその特徴、課題について論じる。また、生涯学習の現代的意義を考えるために実践と結びつけながら、学習理論、内容、方法、指導者等について扱い、生涯学習社会の今後の姿を確認していく。					
学習目標	1. 生涯教育・生涯学習の概念について理解する。 2. 日本における生涯教育・生涯学習の特徴について理解する 3. 生涯学習の現代的意義を実践と結びつけて理解する					
成績評価	出席・参加態度70%、レポート30%	受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに修得し終えること			
授業科目名	博物館概論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		山西健夫				
授業概要	博物館学の目的・方法・構成、博物館の定義、日本および諸外国の博物館の歴史と現状、学芸員の役割、博物館関連法令、博物館倫理について学ぶ。					
学習目標	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。					
成績評価	講義全体の3分の2以上の出席者を学期末確認試験で評価する。	受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに修得し終えること			
授業科目名	博物館経営論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		佐久間美明				
授業概要	本授業は以下の三つの内容から成り立つ講義である。 1) 博物館の経営基盤：行財政制度、財務、施設・設備、組織・職員の現状を示す(1-5回) 2) 博物館の経営管理：使命、計画、評価、倫理、危機管理、利用者との関係等に関わる管理手法を示す(6-12回) 3) 博物館における連携：市民参画、博物館ネットワーク、博物館と他機関・地域社会との連携について現状と課題を示す(13-15回)					
学習目標	博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営に関する基礎的能力を養う。					
成績評価	出席数が2/3以上の者に対して期末試験を課す。中間レポートと、期末試験を3:7の割合で総合的に評価する。	受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみが受講可能である。必ず5期までに履修すること			
授業科目名	博物館資料論	担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
		渡辺芳郎				
授業概要	博物館が所有する資料は人類共有の財産であり、その資料を探求して次世代に伝えていくことが博物館の社会的責務である(日本博物館協会、2003)。本授業では、博物館資料が将来にわたって役立て活用されるために、博物館における資料の種類や収集・整理・活用方法等について知るとともに、それらの基礎となる博物館の調査研究活動について理解する。					
学習目標	博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。					
成績評価	授業に臨む姿勢(100%)	受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに履修すること			

6. 学芸員資格科目

授業科目名	博物館資料保存論		担当教員	6. 学芸員資格科目	科目形態	開講区分	単位
			荒田邦子		講義	集中	2
授業概要	博物館が所有する資料は人類共有の財産であり、その資料を探求して次世代に伝えていくことが博物館の社会的責務である（日本博物館協会，2003）。本授業では、博物館資料が将来にわたって役立て活用されるために博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を学ぶ。						
学習目標	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。						
成績評価	試験はレポートでおこなう		受講要件	学芸員資格取得を目指す者のみ。必ず5期までに履修すること			

学 部	学 科 等	組	学 籍 番 号	氏 名